

Kitouinn koisiwara
祈祷院・小石原遺跡 1

福岡県八女市祈祷院所在遺跡の発掘調査報告書
八女市文化財調査報告書 第135集

2022

八女市教育委員会

Kitouinn koiwara
祈禱院・小石原遺跡 1

福岡県八女市祈禱院所在遺跡の発掘調査報告書
八女市文化財調査報告書 第135集

2022

八女市教育委員会

序

八女市では近年、毎年のように開発に伴う遺跡の発掘調査がなされています。特に、令和2年度は開発に伴う発掘調査件数が10件以上あり、通常の3倍以上発生しました。そのうちの1つが今回報告する祈祷院・小石原遺跡の調査です。

本報告書は、県道久留米立花線の改良工事に伴い、令和元・2年度に行われた八女市祈祷院字小石原に所在する祈祷院・小石原遺跡第1次調査に関し、発掘調査で得られた成果の報告です。

祈祷院・小石原遺跡第1次調査の発掘調査では、弥生時代から古墳時代にかけての石棺墓や溝跡等が発見されました。また、調査地では度重なる洪水の痕跡が確認され、何度も矢部川の洪水被害を受ける中でも人々が暮らしていた状況が伺えます。祈祷院地区は過去にも発掘調査がなされている地域で、今後、周囲の調査成果を足し合わせることで、当時の集落についてより詳しく判明することが期待されます。

その他、八女市域ではこれまでに多くの遺跡の発掘調査がなされており、今後も順次、成果を発掘調査報告書として刊行する予定です。このたび発掘調査報告書を刊行するにあたり、本書が学術的資料として活用されるのはもちろんのこと、文化財の保護や理解普及の一助となれば幸いです。

最後になりましたが、調査や報告書作成にあたり、ご協力いただきました地元の方々、並びにご指導・ご助言いただきました方々に心より感謝の意を申し上げます。

併せて、今後も八女市の埋蔵文化財行政にご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

令和4年3月31日

八女市教育委員会

教育長 橋本 吉史

本文目次

1. 調査の経過	1
(1) 調査に至る経緯と経過	1
(2) 調査体制	1
2. 遺跡の位置と環境	3
3. 調査の概要と成果	6
(1) 調査の概要	7
(2) 出土遺構と遺物	7
(3) 総括	18

挿図目次

第1図 祈祷院・小石原遺跡位置図 (S = 1/1, 250, 000)
第2図 祈祷院・小石原遺跡周辺遺跡図 (S = 1/5, 000)
第3図 祈祷院・小石原遺跡調査区位置図 (S = 1/1, 000)
第4図 祈祷院・小石原遺跡遺構配置図 (S = 1/200)
第5図 祈祷院・小石原遺跡1号石棺墓実測図 (S = 1/20)
第6図 祈祷院・小石原遺跡SK01実測図 (S = 1/50)
第7図 祈祷院・小石原遺跡SK02実測図 (S = 1/50)
第8図 祈祷院・小石原遺跡SK03・04実測図 (S = 1/50)
第9図 祈祷院・小石原遺跡SD01実測図 (S = 1/50)
第10図 祈祷院・小石原遺跡SD02実測図 (S = 1/50)
第11図 祈祷院・小石原遺跡SD03実測図 (S = 1/50)
第12図 祈祷院・小石原遺跡2区実測図 (S = 1/50)
第13図 祈祷院・小石原遺跡出土遺物実測図① (S = 1/4)
第14図 祈祷院・小石原遺跡出土遺物実測図② (S = 1/4)
第15図 祈祷院・小石原遺跡出土遺物実測図③ (S = 1/4)
第16図 祈祷院・小石原遺跡出土遺物実測図④ (S = 1/4)
第17図 祈祷院・小石原遺跡出土遺物実測図⑤ (S = 1/4)
第18図 祈祷院・小石原遺跡出土遺物実測図⑥ (S = 1/4)
第19図 祈祷院・小石原遺跡出土遺物実測図⑦ (S = 1/4)

表目次

第1表 祈祷院・小石原遺跡出土遺物観察表

図版目次

図版 1	祈祷院・小石原遺跡 1	図版 24	祈祷院・小石原遺跡出土遺物 20
図版 2	祈祷院・小石原遺跡 2	図版 25	祈祷院・小石原遺跡出土遺物 21
図版 3	祈祷院・小石原遺跡 3	図版 26	祈祷院・小石原遺跡出土遺物 22
図版 4	祈祷院・小石原遺跡 4	図版 27	祈祷院・小石原遺跡出土遺物 23
図版 5	祈祷院・小石原遺跡出土遺物 1	図版 28	祈祷院・小石原遺跡出土遺物 24
図版 6	祈祷院・小石原遺跡出土遺物 2	図版 29	祈祷院・小石原遺跡出土遺物 25
図版 7	祈祷院・小石原遺跡出土遺物 3	図版 30	祈祷院・小石原遺跡出土遺物 26
図版 8	祈祷院・小石原遺跡出土遺物 4	図版 31	祈祷院・小石原遺跡出土遺物 27
図版 9	祈祷院・小石原遺跡出土遺物 5	図版 32	祈祷院・小石原遺跡出土遺物 28
図版 10	祈祷院・小石原遺跡出土遺物 6	図版 33	祈祷院・小石原遺跡出土遺物 29
図版 11	祈祷院・小石原遺跡出土遺物 7	図版 34	祈祷院・小石原遺跡出土遺物 30
図版 12	祈祷院・小石原遺跡出土遺物 8	図版 35	祈祷院・小石原遺跡出土遺物 31
図版 13	祈祷院・小石原遺跡出土遺物 9	図版 36	祈祷院・小石原遺跡出土遺物 32
図版 14	祈祷院・小石原遺跡出土遺物 10	図版 37	祈祷院・小石原遺跡出土遺物 33
図版 15	祈祷院・小石原遺跡出土遺物 11	図版 38	祈祷院・小石原遺跡出土遺物 34
図版 16	祈祷院・小石原遺跡出土遺物 12	図版 39	祈祷院・小石原遺跡出土遺物 35
図版 17	祈祷院・小石原遺跡出土遺物 13	図版 40	祈祷院・小石原遺跡出土遺物 36
図版 18	祈祷院・小石原遺跡出土遺物 14	図版 41	祈祷院・小石原遺跡出土遺物 37
図版 19	祈祷院・小石原遺跡出土遺物 15	図版 42	祈祷院・小石原遺跡出土遺物 38
図版 20	祈祷院・小石原遺跡出土遺物 16	図版 43	祈祷院・小石原遺跡出土遺物 39
図版 21	祈祷院・小石原遺跡出土遺物 17	図版 44	祈祷院・小石原遺跡出土遺物 40
図版 22	祈祷院・小石原遺跡出土遺物 18	図版 45	祈祷院・小石原遺跡出土遺物 41
図版 23	祈祷院・小石原遺跡出土遺物 19	図版 46	祈祷院・小石原遺跡出土遺物 42

例言

- ・本書は八女市が福岡県八女県土整備事務所からの委託を受けて実施した、道路改良工事に伴う発掘調査の報告書である。本報告では令和2・3年度に実施した、八女市祈祷院所在の祈祷院・小石原遺跡第1次調査について報告する。本報告の発掘調査は八女市教育委員会が実施した。
- ・本書の遺構実測図で使用する方位は座標北を基準とする。
- ・本書で使用した遺構実測図は現地調査実施時に、坂本真一氏の指導を受け、発掘担当者の指揮のもと発掘調査参加者で作成した。本書掲載の遺物実測図の作成、遺構実測図および遺物実測図の製図は、令和2～3年度に八女市文化財整理室において、整理作業員が実施した。
- ・本書掲載の写真はすべて甲斐郁が撮影した。
- ・本書の編集は八女市文化振興課職員の助言のもと、甲斐が行った。
- ・本書執筆に際しては、福岡県教育委員会文化財保護課大庭孝夫氏・坂本真一氏、九州歴史資料館の方々のご指導・ご協力を得たことを記して謝意を表す。
- ・発掘調査時の現場図面・写真等の記録類および出土遺物等は八女市教育委員会で保管している。

1. 調査の経過

(1) 調査に至る経緯と経過

祈祷院・小石原遺跡第1次調査地は八女市祈祷院字小石原117-1、119-7・8、120-6に位置する。今回の調査に至る契機は、八女市教育委員会に福岡県の公共事業として、福岡県八女県土整備事務所による県道久留米立花線の改良事業計画が照会されたことである。平成30年12月28日に文化財保護法第94条第1項に基づく埋蔵文化財発掘の通知があり、遺跡への影響の検討を行った。

調査地周辺では、過去にも埋蔵文化財が発見されている箇所が複数あるため、道路工事予定範囲内を対象に試掘・確認調査を実施したところ、埋蔵文化財が発見された箇所があった。今回の事業内容は道路拡幅工事であるため、埋蔵文化財が発見された箇所は発掘調査が必要と思われる旨を福岡県教育委員会に意見具申したところ、県教育委員会より発掘調査の指示があった。

事業者である八女県土整備事務所と八女市は発掘調査の覚書・委託契約書を締結し、道路拡幅予定地の約300㎡の現地発掘作業を実施する運びとなった。

八女市教育委員会では、文化財保護法第99条第1項に基づく発掘調査の報告をし、現地作業は令和元年11月19日から令和2年2月21日にかけて実施した。調査では重機による表土除去後、人力で遺構検出・掘削を行い、遺構実測図の作成、出土遺物の取り上げ、現場写真撮影を行った。

令和2年度も、前年度に引き続き同事業による道路拡幅工事が予定されたため、工事予定範囲の約25㎡を対象に令和2年5月28日、8月26日～28日に試掘・確認調査を実施した。その結果、埋蔵文化財が発見された。対象範囲が狭小であったことから、試掘・確認調査と同時に調査による記録保存に切り替え、範囲内の埋蔵文化財調査を完了した。

整理作業は令和2・3年度に実施し、出土遺物の洗浄・注記・復元・作図および調査時の図面・写真記録の整理を行い、報告書を作成した。

なお、調査地の南側では埋蔵文化財が存在する可能性が高いため、今後の開発の際には細心の注意が必要である。

(2) 調査体制

本報告に掲載する遺跡発掘調査時の調査体制は以下の通りである。

【令和元年度】（現地調査時）

（調査主体）

八女市教育委員会

教育長		橋本 吉史
教育部長		井出 勇一
文化振興課	課長	久間 政幸
同	参事補佐兼文化係長	中川 寿賀子（総括）
同	主任	永田 寧
同	係員	檀 佳克
同	係員	馬渡 洋平（事務担当）
同	係員	甲斐 郁（調査担当）

【令和2年度】（現地調査時）

（調査主体）

八女市教育委員会

教育長	橋本 吉史
教育部長	原 信也
文化振興課 課長	久間 政幸
同 課長補佐兼文化係主任	深町 明夫（総括）
同 参事補佐兼文化係長	高山 康博
同 係 員	高口 愛（事務担当）
同 係 員	檀 佳克
同 係 員	甲斐 郁（調査担当）

【令和3年度】（本報告刊行時）

（調査主体）

八女市教育委員会

教育長	橋本 吉史
教育部長	原 信也
文化振興課 課長	鵜木 英希
同 課長補佐兼文化振興係長	森田 尚美
同 参事補佐兼文化財係長 兼歴史文化交流館係長	片山 あづさ（総括・事務担当）
同 係 員	檀 佳克
同 係 員	甲斐 郁（整理・報告担当）
同 係 員	木原 堯
同 嘱 託	平 俊隆

2. 遺跡の位置と環境 (第1～3図)

八女市は福岡県南部に位置し、南は熊本県、東は大分県と接する。

市域は矢部川水系の上流域から中流域に当たる。矢部川は旧八女市南東部で星野川と合流する。矢部川を境に北が旧八女市域で南が旧立花町域である。

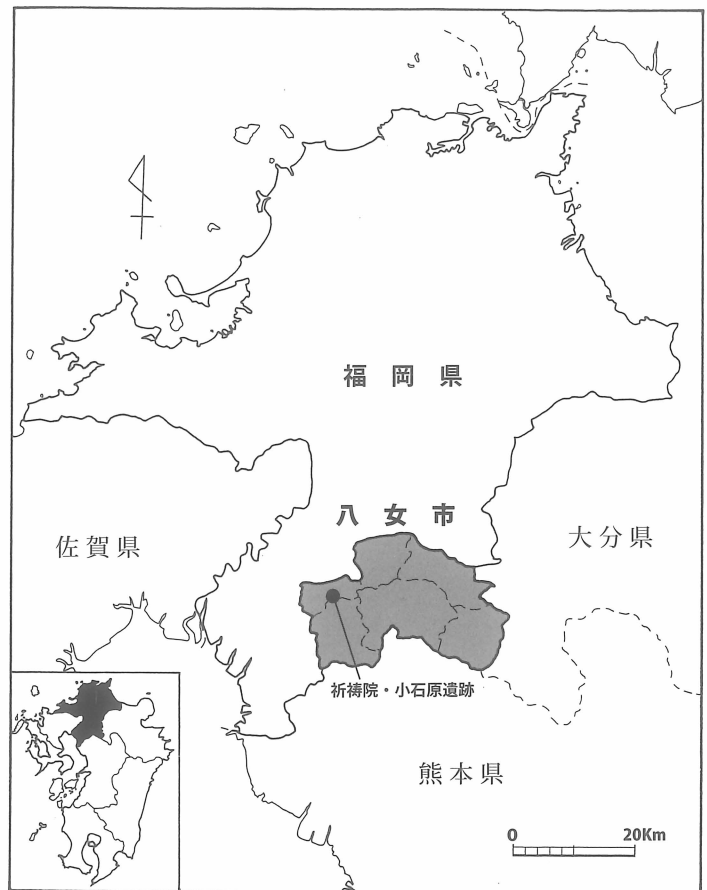
今回報告する祈祷院・小石原遺跡第1次調査地点は八女市街地南東の八女市祈祷院字小石原に所在する。祈祷院地区は、矢部川から流れる矢部川と星野村から流れる星野川が合流する地点から北西側に位置しており、地形は南に向かって下降している。この付近は過去に河川の氾濫が繰り返し起こっている地帯である。調査地周辺は、以前より埋蔵文化財が多数存在する地区として知られており、調査地近隣でも地表面で土器片が表面採集された事例がある。

調査地周辺の遺跡を概観すると、調査地の西側約30mに隣接する白石遺跡では、弥生時代から古墳時代の遺物が出土した溝が発見されている。調査地の西側約570mには津江・八升町遺跡が所在しており、弥生時代後期の竪穴住居、掘立柱建物、溝、石棺墓等が発見されている。調査地の東側約450mに所在する高野町遺跡では、弥生時代から古墳時代にかけての竪穴住居、掘立柱建物等の集落跡が発見されている。

このように、調査地周辺では弥生時代から古墳時代を中心とした遺跡が多数発見されている。

【参考文献】

- ・赤崎敏男・中川寿賀子編 1994『高野町遺跡』八女市文化財調査報告書第33集
八女市教育委員会
- ・赤崎敏男編 2000『白石遺跡』八女市文化財調査報告書第61集八女市教育委員会
- ・小田和利・赤崎敏男編 2002『津江八升町遺跡（1次・2次・3次調査）』
八女市文化財調査報告書第67集 八女市教育委員会
- ・中川寿賀子編 2006『高野町遺跡（2次調査）』八女市文化財調査報告書第75集
八女市教育委員会



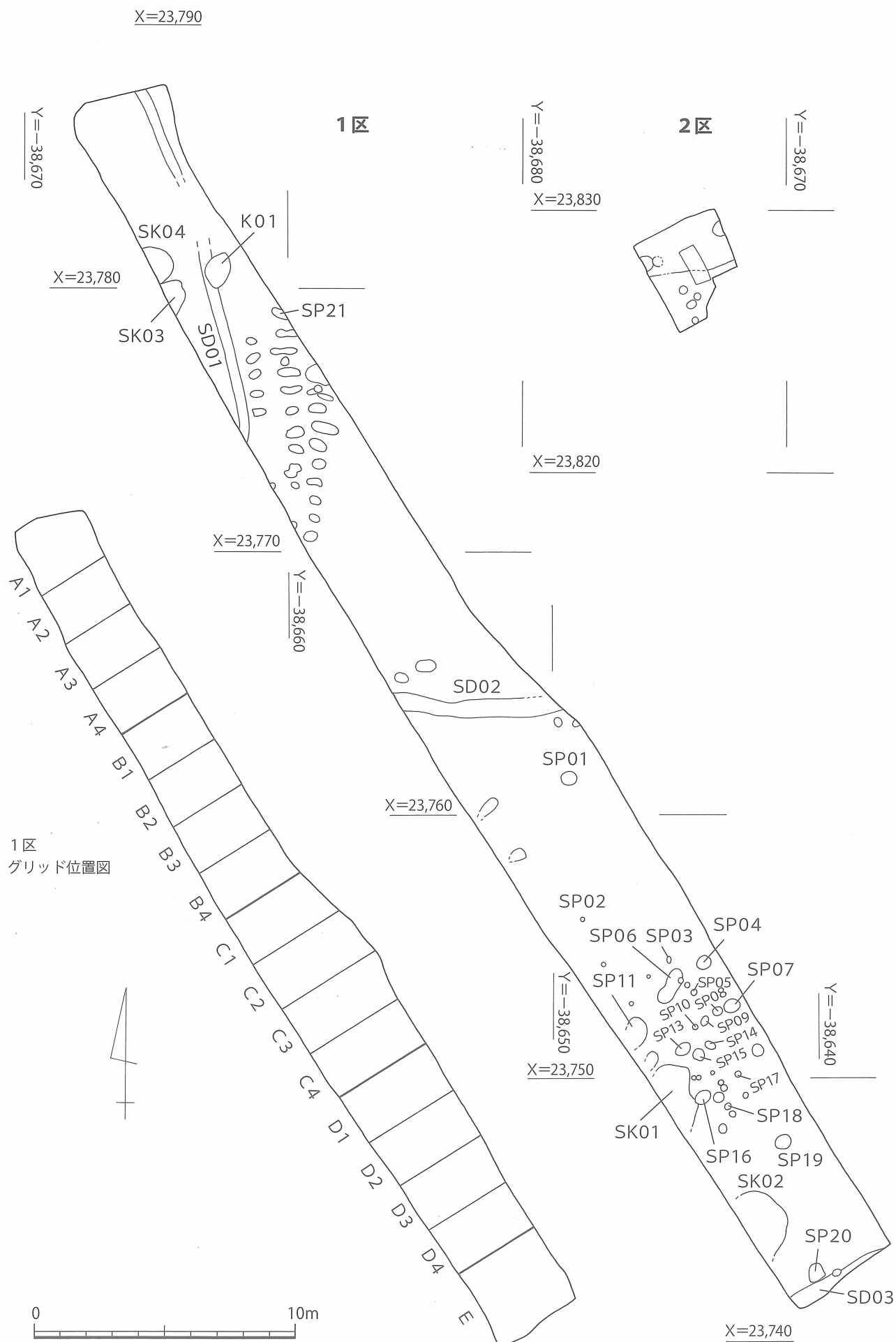
第1図 祈祷院・小石原遺跡位置図
(S = 1/1, 250, 000)



第2図 祈禱院・小石原遺跡周辺遺跡図 (S = 1/5, 000)



第3図 祈祷院・小石原遺跡調査区位置図 (S = 1/1, 000)



第4図 祈禱院・小石原遺跡遺構配置図 (S = 1/200)

3. 調査の概要と成果

(1) 調査の概要

道路拡幅工事範囲で実施した発掘調査のうち、令和元年度実施箇所を1区、令和2年度実施箇所を2区と設定した(第4図)。

1区では遺構外の出土遺物が多量にあったため、グリッドを設定して取り上げを行った。調査区の中心に任意の南北軸を設定し、12m間隔で北からA～Eの5区画に分け、各区画内を3m間隔で北から1～4の番号を付与し、A1からEまでの計17のグリッドに分けた。遺構外の出土遺物の取り上げはグリッド単位で行い、土層ごとに分けたが層位の判別ができないものはグリッド名のみ区別した。土層確認用に設定したトレンチは、南西壁トレンチに「W」、北東壁トレンチに「E」を付けグリッド名を併記し、その他のトレンチは、グリッド名のみ併記した。

2区では遺構外出土の遺物の取り上げは出土層位での分別を行った。

調査地の基本土層を示すと、1区では地表下約1m(南)～1.3m(北)までが造成盛土層および旧水田土層であり、その直下が黄褐色粘土混じり砂層である。その下位は地表下約110cm(南)～140cm(北)で灰色砂層がある。黄褐色粘土混じり砂層および灰色砂層の上面が遺構検出面である。1区の盛土層は北側が厚く、南側と約30cmの差が生じているが、標高で比べると南北の遺構検出面の比高差は約10cm程度である。灰色砂層の下位に砂層もしくは礫層がある。遺構外の黄褐色粘土混じり砂層・灰色砂層・下位の砂層から弥生時代から古墳時代に属する遺物が出土している。

2区では地表下約190cmまでが造成盛土層および旧水田土層であり、この直下が自然堆積と思われる土層である。その下位地表下約210cmの灰白色粘土混じり土層上面が遺構検出面である。その下位には砂礫層がある。遺物は遺構および灰白色粘土混じり土層から出土した。

現地調査時には、盛土層および旧水田土層までを重機で表土除去を行い、それより下層は人力で遺構検出・掘削を行った。

調査の結果、1区・2区では土坑、石棺墓、溝状遺構、ピットが発見された。遺構と遺物の時期については、弥生時代から古代に属すると思われる。

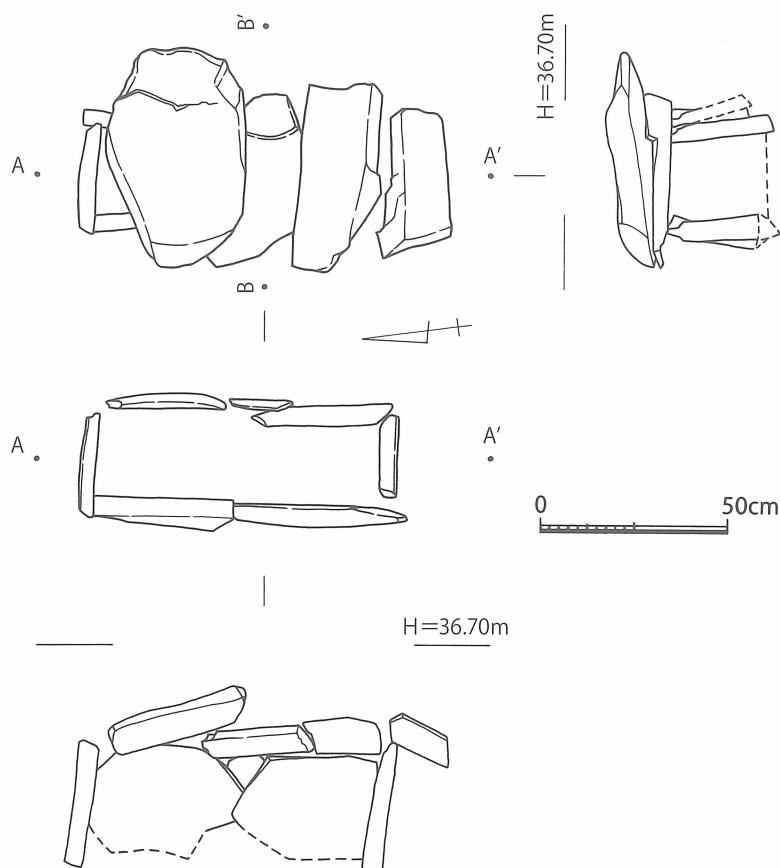
(2) 出土遺構と出土遺物

以下、各遺構と遺物について説明する。

1区の出土遺構と出土遺物

石棺墓：(第5図)

1号石棺墓は1区調査区北側のグリッドA3に位置する小型の箱式石棺である。長軸が南北方向を向く。長さ約85cm、幅約35cm、側壁の高さ約35cm



第5図 祈祷院・小石原遺跡1号石棺墓実測図 (S = 1/20)

である。成人用としては小型のため、小児用であった可能性がある。南北の小口に各1枚の石を使用する。北側小口の石は側壁の外側に出る。北西隅の角は石同士が接触しているが、北東隅の角は、東側壁の石の端部が平坦でなく、隙間が生じている。南側小口では、石は東側壁より外側にあるが、西側壁が南へ飛び出す。側壁は西側で2枚、東側で3枚の石を使用し、4枚の石で蓋がされる。石材は板状に割れた片岩を使用しており、掘り込み等の加工は見られない。石棺設置時の掘方の状況は土層等の検討が困難であり、把握できなかった。試掘・確認調査時の試掘坑の下位で発見されたため、盛土の有無は不明である。内部には黄色粘土ブロックが少量まじる砂が溜まっていた。石棺内部では遺物は発見されなかった。

調査時の不手際により十分な土層観察が行えなかったが、SD01の底面より下位に蓋の上面が位置するため、SD01に切られる可能性がある。

出土遺物がなく時期の特定が困難だが、弥生時代～古墳時代であり、SD01より以前に存在した可能性がある。

土坑 (SK)

1区では総数4基の土坑を確認した。すべて南西壁に接しており調査区外へ続くため、もともとの全体の形状は不明であることから、確認できた範囲について概要を示す。

1号土坑 (SK01) : (第6図・第13図)

SK01は1区調査区南側グリッドD3に位置する。確認できた範囲での長さ約2.5m、幅約1mである。残存する深さは約9cmで非常に浅い。遺構の性格は不明である。

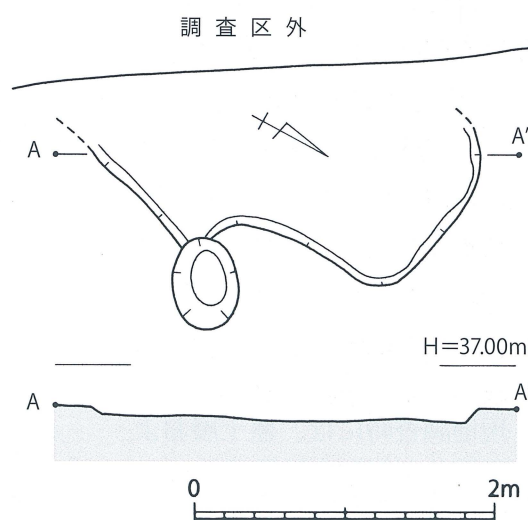
出土遺物を第13図に示す。1・2は弥生土器の甕である。1は口縁部外側の先端が下に垂れ、口縁下端が欠損するが「く」字口縁であったと思われる。2は外面に突帯が貼付される。3は弥生土器の高坏脚部である。ゆるやかに屈曲して裾が広がる形状である。4は弥生土器底部である。

遺物の時期は、弥生時代に属する。

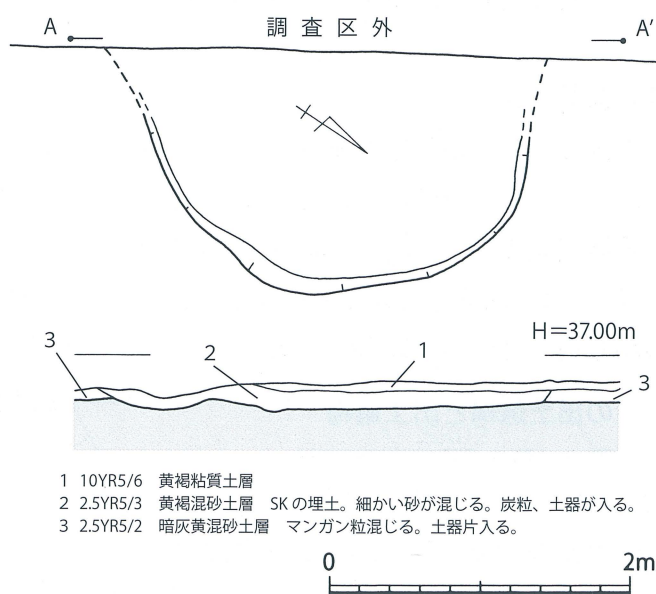
SK01の時期は、弥生時代以降に属すると思われる。

2号土坑 (SK02) : (第7図・第13図)

SK02は1区調査区南端のグリッドEに位置する。確認できた範囲での長さ約2.5m、幅1.6m、残存する深さ約12cmである。埋土は、黄褐色混砂土層でSD03の埋土と類似する細かい砂がまじる他に、炭粒の混入が見られた。遺構の性格は不明である。



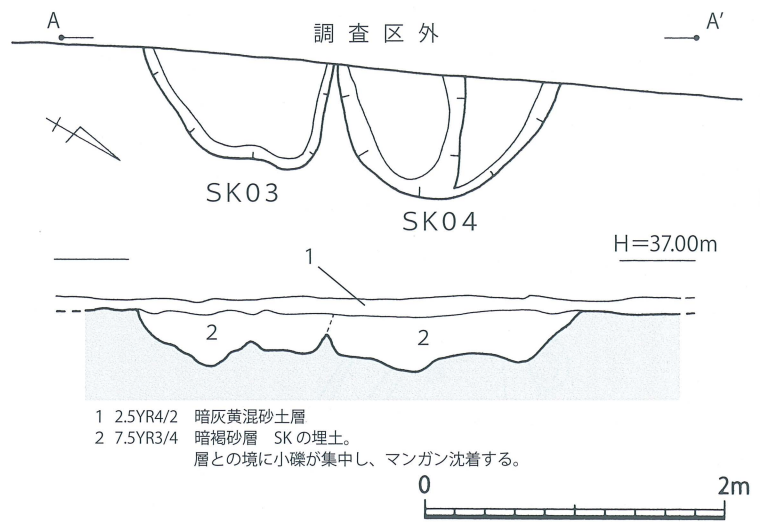
第6図 祈祷院・小石原遺跡 SK01 実測図 (S = 1/50)



第7図 祈祷院・小石原遺跡 SK02 実測図 (S = 1/50)

出土遺物を第 13 図に示す。5 は土師器の甕の口縁部で、外面に粗雑なハケメを施す。6 は土師器の鉢で外面にタタキ後にナデを施す。7 は土師器の鉢もしくは甕の下半部である。内面にケズリを施す。

SK02 は土器片がまじる暗灰黄色混砂土層から掘り込まれているため、時期は古墳時代以降に属すると思われる。また、SD03 の埋土に類似する砂が混じることから、SD03 が埋没した後に存在した可能性がある。



第 8 図 祈祷院・小石原遺跡 SK03・04 実測図 (S = 1/50)

3号土坑 (SK03) : (第 8 図)

SK03 は 1 区調査区北側のグリッド A3 に位置し、SK04 と隣接する。確認できた範囲での長さ約 1.2m、幅 0.7m、残存する深さ約 10cm である。埋土は暗褐色砂層である。現地調査での所見から SK04 を切る可能性がある。出土遺物はなかった。遺構の性格は不明である。

遺物からの時期の特定はできないが、SK04 を切るが埋土が類似しているため、SK04 と近い時期に存在した可能性が高い。

4号土坑 (SK04) : (第 8 図・第 13 図)

SK04 は 1 区調査区北側のグリッド A2 ～ A3 に位置し、SK03 と隣接する。確認できた範囲での長さ約 1.4m、幅約 0.8m、残存する深さ約 20cm である。埋土は暗褐色砂層である。現地調査の所見から SK03 に切られる可能性がある。遺構の性格は不明である。

出土遺物を第 13 図に示す。8 は土師器で甕もしくは広口壺の口縁部である。

遺物の時期は、古墳時代に属する。遺物の出土点数が少なく、遺構の時期を判断することが厳しいが古墳時代以降に属すると思われる。

溝状遺構 (SD)

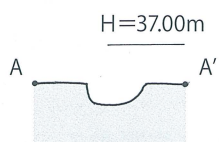
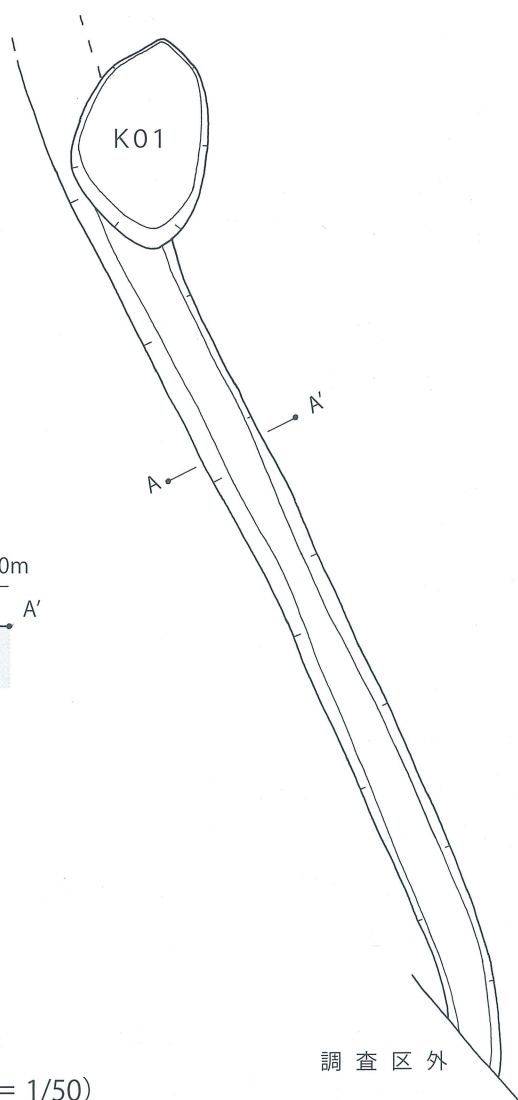
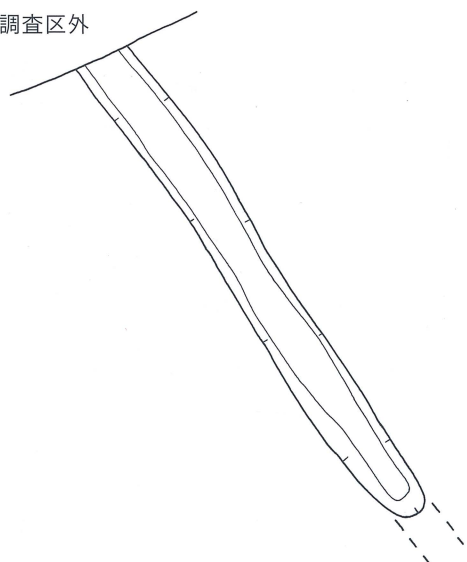
1 区では 3 条の溝状遺構が発見された。すべて両端は調査区外に延びており全長は不明であるため、調査で確認できた長さを記載する。以下に概要を示す。

1号溝状遺構 (SD01) : (第 9 図・第 13 図)

SD01 は 1 区調査区北側のグリッド A 1 ～ B1 に位置する。南北方向に延びる。長さ約 13.7m 以上、幅約 0.4m、残存する深さ約 15cm である。埋土は暗灰黄色の細かい砂層である。

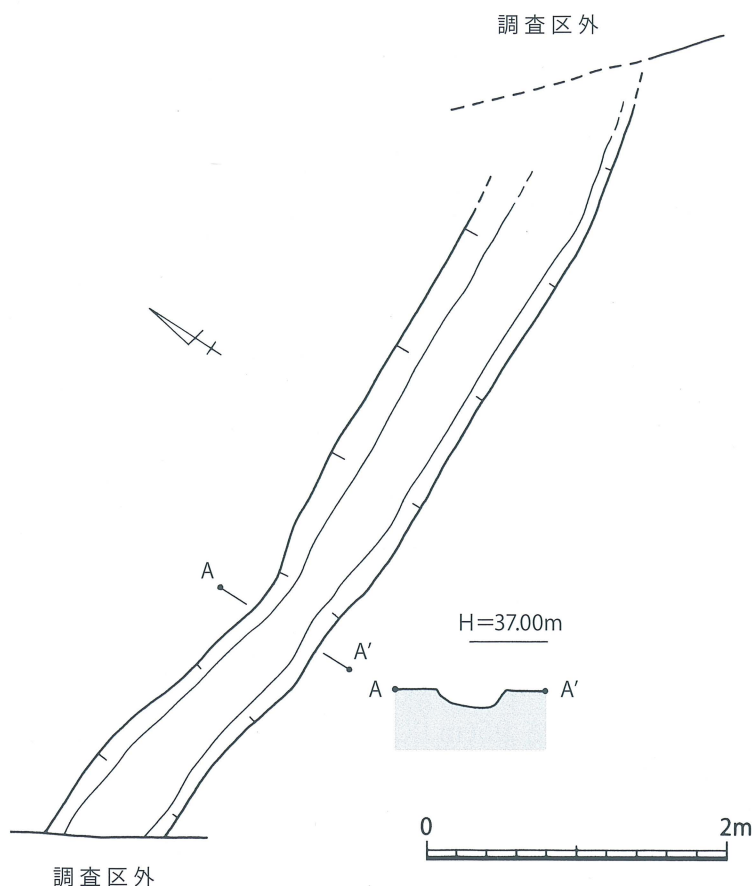
出土遺物を第 13 図に示す。9 ～ 13 は弥生土器の甕である。9 ～ 11 は口縁部である。9 は頸部にハケメが残り、口縁部はヨコナデで仕上げられる。11 は、内外面で口縁下側がへこむ。口縁端部に刻目が施される。12 は胴部で断面台形の突帯が貼付けられる。13 は底部で平底である。14 ～ 16 は弥生土器の壺である。14 は口縁端部に刻目を施す。15・16 は突帯が貼付される頸部で、15 は突帯下端に刻目を施す。17・18 は弥生土器の高坏で、17 は SP11 と D2 黄層出土の破片 (第 18 図 24) と接合する。18 は脚部内面に粘土を充填した痕跡がある。19 ～ 21 は土師器の甕で、19 は口縁部外側の角が突出する。20 はハケメの単位が大きい。21 は口縁部の先端側が厚い。22 は土師器の高

調査区外



調査区外

第9図 祈禱院・小石原遺跡 SD01 実測図 (S = 1/50)



第 10 図 祈祷院・小石原遺跡 SD02 実測図 (S = 1/50)

坏である。23 は土師器の鉢で器壁が薄く、内湾口縁である。24 は弥生土器の壺である。口縁外側の角が垂れ下がる。25 は弥生土器の壺である。

出土遺物の時期は弥生時代～古墳時代である。

SD01 は古墳時代の遺物を含む黄褐色粘土混じり土層を掘り込んでいることから、時期は古墳時代以降の可能性が高い。

2号溝状遺構 (SD02) : (第 10 図・第 13 図)

SD02 は 1 区調査区中央付近のグリッド C1・C2 に位置する。東西方向に延びる。長さ約 6 m 以上、幅約 0.7m、残存する深さ約 10cm である。埋土は暗灰黄色の細かい砂層である。

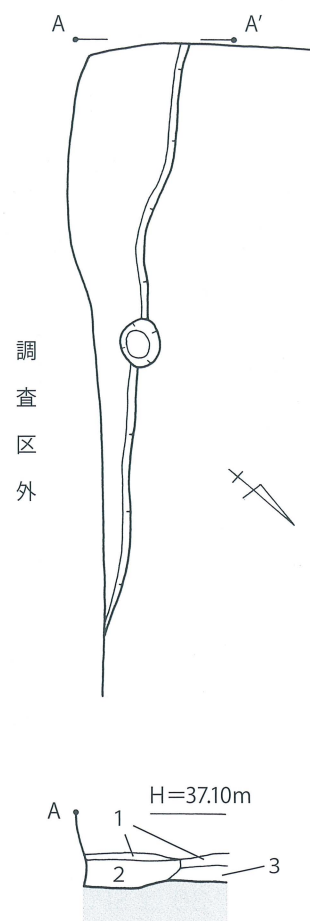
出土遺物を第 13 図に示す。26 は器台形ミニチュア土器である。手捏ね成形で、上下の端が薄く広がる。下端の方がやや広がっている。時期は、古墳時代に属する。

SD02 は出土遺物の点数が少なく、遺物からの時期判断は困難である。古墳時代の遺物を含む黄褐色粘土混じり土層を掘り込んでいることから、SD02 の時期は古墳時代以降の可能性が高い。

3号溝状遺構 (SD03) : (第 11 図・第 13 図)

SD03 は 1 区調査区南端のグリッド E に位置する。北東から南西に延びており、両端と南側が調査区外である。長さ約 4 m 以上、幅約 0.7m 以上、残存する深さは約 5 cm である。埋土は暗灰黄色の細かい砂層である。

出土遺物を第 13 図に示す。27 は弥生土器の高坏である。28・29 は弥生土器の壺である。口縁端部に刻目を有する。29 は二重口縁で端部は垂直に立つ。



第 11 図 祈祷院・小石原遺跡 SD03 実測図 (S = 1/50)

ピット (SP) : (第 4 図・第 13・14 図)

1 区調査区では 72 基のピットを発見した。調査区北側の SD01 南東に 30 基、調査区南側に 35 基が集中する。そのほかに、調査区中央の SD02 周辺でも 7 基のピットを確認した。

北側ピット群

1 区調査区北側の SD01 南東 (グリッド A4 ~ B2) に位置する。SP21 を含む 30 基のピットが南北方向と東西方向に並ぶ。北側・南側は調査区外にも続いていたと思われる。ピットの平面形は北側が最長約 1 m、幅約 25cm の楕円形で、南端は径約 40cm の円形になる。残存する深さは 5 ~ 10cm 程である。埋土は黄褐色混砂土層で、SD01 の埋土に比べてマンガン粒が多少入る。遺構の性格は不明であるが、列になることから畑の畝であった可能性がある。遺物はほぼ出土していない。

時期の特定は難しいが、SD01 と埋土が似ており、近い時期に埋まった可能性がある。

SD02 周辺検出のピット・南側検出のピット

SD02 周辺で検出したピットは、1 区調査区中央付近のグリッド C1 ~ C3 に位置する。SP01 を含む 7 基である。遺構の性格は不明である。

南側検出のピットは、1 区調査区のグリッド C4 ~ E に位置し、グリッド D1 ~ D4 に集中する。SP02 ~ SP20 を含む 35 基である。グリッド D2 の南西壁際に位置する SP11 は、他のピットに比べて多くの土器片が出土している。SP11 の規模は長さ 95cm 以上、幅 80cm、残存する深さは約 28cm である。埋土は黒褐色砂層で黄褐色砂層のブロックが混じるほかに、炭が多く入っていた。

ピット出土遺物 (第 13・14 図)

第 13 図 30 は SP01 から出土した陶器で、器形不明であるが小型品の口縁部と思われる。内面の一部に施釉し、白土の上に黄褐色の釉がのる。32 は SP04 から出土した弥生土器の高坏で端部が平らになる。33 ~ 35 は SP06 から出土した。33 は弥生土器の鉢で外面に粗いハケメを行う。34 は弥生土器の壺である。35 は土師器の高坏である。36 は SP08 から出土した土師器の甕で、口縁先端を丸く収める。37 ~ 43 は SP11 から出土し、37 ~ 39 は弥生土器の甕である。38 は口縁部内側の角が突出し、口縁内面に粘土がはみ出す。40 は弥生土器の高坏で端部の角が突出する。41 は弥生土器の壺で口縁部が屈曲する。42 は土師器の器台で 2 か所に方形の透孔が残存するが、もとは 3 か所であった可能性がある。43 は土師器の鉢で内湾する口縁部である。44 は SP12 から出土した弥生土器の甕である。第 14 図 1 は SP14 から出土した弥生土器の甕で、屈曲部分の稜線が明瞭である。2 は SP16 から出土した土師器の甕である。3 は SP17 から出土した弥生土器の甕である。4・5 は SP18 から出土した。4 は弥生土器の甕で頸部の境目に稜がある。5 は弥生土器の壺で口縁端部内側の角が突出する。6 は SP19 から出土した弥生土器の甕で、SP12 出土の土器 (第 13 図 44) と類似する。

遺構外出土遺物

1 区調査区内の遺構以外から出土した遺物について記述する。

Wトレ A2 (第 14 図)

7 ~ 20 は弥生土器の甕である。7 は口縁先端が厚い。8・10 は口縁部が先端に向かって厚くなっていく。9 は口縁端部外側で角を折り込んだ粘土のつなぎ目が見える。12 は口縁部外側の端が垂れ下がり、口縁部と頸部の境目に稜がある。14 は口縁部外側の角が下へ垂れ下がりである。15 は口縁部と頸部の境目が強いナデのためにへこむ。16 は口縁端部が平らで、口縁部と頸部の境はゆるやかに曲がる。17 は口縁部外側の角が突出する。口縁部と頸部の境目は屈曲し明確な稜線がある。18 は口縁端部に刻目をつけながら工具を動かした痕跡がある。19 は口縁部外側の角が垂れ下がり、口

縁部と頸部の境目に稜線がある。20 は突帯を貼付後に刻目をつけ、間に溝をつけることで2条の突帯にしている。21 は弥生土器の甕と思われる底部で、やや平らであるが丸底である。

22 ～ 33 は弥生土器の壺である。22 は口縁外側の角が突出する。口縁部と頸部の境目は屈曲し、外面より内面の稜線が明確である。23・24 は大型品と思われる。23 は口縁部が分厚く、頸部が薄い。24 は口縁先端に向かって厚くなり、口縁端部外側の角は垂れる。25 は口縁端部が平らで角張る。26 は口縁端部に交差する刻目が施文される。27 ～ 32 は突帯をもつ。27 は断面三角形の突帯に切り込みのように刻目がつく。28・30 は同一個体の可能性があり、どちらも断面三角形の突帯に刻目がつく。29 は頸部で屈曲し、明確ではないが稜線がある。31 は突帯が断面四角形で角張る。32 は大型の甕で断面台形の突帯に左から右に刻目を施す。32・24 は胎土が類似しており、同一個体の可能性がある。33 は底部で丸底である。

34 ～ 37 は弥生土器の高坏である。34・35 はどちらも器表面が摩耗気味で、外面口縁端部の下部がへこみ、同一個体の可能性がある。36・37 は高坏の脚部である。39 は弥生土器の鉢で口縁が直立し、端部が平らである。

40 ～ 43 は土師器の甕である。40 は口縁部が外反する。41 は口縁端部の角が外側に突出する。42 は口縁端部が厚くなる。44 ～ 46 は弥生土器の壺である。44・45 はやや外傾する口縁部で、46 は外反する口縁部で口縁端部外側の角が垂れる。38・47 ～ 51 は土師器の高坏である。38 は脚部片で、端部が平らで角が立つ。47 は口縁部小片である。48 は脚柱部である。49 ～ 51 は脚部小片で49・50 は端部がやや厚くなり、50 は外面に段を持つ。52 は土師器の鉢である。53 は須恵器の甕で、胎土が赤紫色である。

Wトレ A3 (第15図)

1 は土師器の甕で口縁端部直下がへこむ。2 ～ 4 は弥生土器である。2 は鉢で端部の器表面に凹凸がある。3 は壺で突帯が残存する。4 は壺の底部である。

トレンチ A3 (第15図)

5・6 は弥生土器の壺で突帯をもつ。5 は突帯断面が三角形、6 は突帯断面が四角形である。7・8 は弥生土器の高坏である。9 は土師器の甕で同一個体と思われる別破片がある。10 は土師器の甕で口縁端部が角張る。

A1 (第15図)

11 ～ 13 は弥生土器である。11 は甕で口縁端部は平らで角が立つ。口縁部と頸部の境目に稜がある。12 は鉢または高坏で口縁部は短く外側に向かって開く。13 は壺で断面三角形の突帯をもつ。

A2 (第15図)

14 ～ 16 は弥生土器である。14 は壺で口縁部が直立し、口径より胴部径が大きくなる。15 は甕で口縁端部に刻目がある。16 は高坏で端部が厚くなり、内外面に丹塗りが施される。

A3 下層 (第15図)

17 は土師器の甕で口縁部が外反する。18・19 は弥生土器である。18 は高坏である。19 は鉢で口縁部が短く外に開く。

A3 (第15図)

20 は弥生土器の甕で口縁部が外反する。21 は弥生土器の高坏脚部もしくは二重口縁壺の口縁部の可能性がある。外面は強いナデが施された部分がへこむ。

A 灰層 (第15図・16図)

第15図 22 ～ 31、33 ～ 38・45 は弥生土器の甕である。22 は口縁内側の端がやや突出する。23 は

口縁端部がへこむ。24 は外面の一部に工具の当たった跡がある。26 は口縁端部が平らで角張る。27 は口縁端部がへこむ。28 は口縁端部の内面がへこむ。29 は口縁端部が丸い。32 は口縁端部に刻目があり、口縁外側の端で粘土がやや垂れ下がる。33・34 は 刻目は左から右に施す。35 は口縁部の中間に厚みがあり、頸部が屈曲する。36・37 は内面に明確な稜線がある。38 は扁平な突帯が貼付される。45 は口縁内面がややくぼむ。39～41 は弥生土器の壺である。40 は口縁外側の角が垂れる。42 は弥生土器の鉢で、口縁先端に向かって厚くなる。43 は弥生土器の高坏である。

44・46・48～50 は土師器の甕である。44 は内面にやや段差がある。46 は口縁部が外側へ開く。48 は口縁先端が尖り、口縁と頸部の境が屈曲する。50 は頸部～胴部で頸部に明確な稜線がある。48 と 50 は同一個体の可能性がある。47 は土師器の壺で口縁端部が直立ぎみで下端は屈曲する。

第 16 図の 1～5 は土師器の高坏で、1・2 は高坏脚部の端部である。3 は高坏口縁部である。4・5 は坏部と脚部の接合部で、脚部がすぐに広がる形状である。4 は内面に細い工具で成形した痕がある。5 は内面がくぼむ。6 は小型の把手で、もとの器形は不明である。

Wトレ B1 (第 16 図)

7～9 は弥生土器の壺である。7 は外反する口縁部で頸部が屈曲する。8 は口縁部外側の端がやや垂れ下がる。9 は外反する口縁部で頸部と胴部の境目はゆるやかに曲がる。10 は弥生土器の壺もしくは甕で胴部に刻目を持つ突帯が 2 条巡る。11・12 は土師器の甕である。11 は外反する口縁部である。12 は外傾する口縁部で口径が胴部径より大きい。

トレンチ B1 (第 16 図)

13 は弥生土器の甕の底部で平底である。

Wトレ B2 (第 16 図)

14 は弥生土器の壺で頸部外面に粘土接合痕があり、その部分がへこむ。15 は弥生土器の鉢で外面は粘土の粒の偏りがそのままになる粗い仕上がりである。16 は弥生土器の筒形器台の脚部である。

Wトレ B3 上層 (第 16 図)

17・18 は土師器の甕で同一個体の可能性がある。19 は土師器の高坏で内面の粘土接合部分の仕上がりが丁寧である。20 は器台形のミニチュア土器で下端がやや広く自立する。

Eトレ B3 (第 16 図)

21 は須恵器坏蓋で、外面に稜を持ち、端部がやや尖る。

Wトレ B4 下層 (第 16 図)

22 は土師質の坏蓋で軟質だが須恵器の模倣をしている。端部内面に段差がある。

Wトレ B4 (第 16 図)

23・24 は弥生土器の甕である。24 は口縁端部に「×」字状の文様がつく。

B1 (第 16 図)

25 は弥生土器の器台脚部で内面に被熱痕がある。26 は土師器の甕で、口縁先端が内面肥厚する。

B2 (第 16 図)

27 は弥生土器の壺である。28 は土師器の坏蓋で 22 と比べて器壁が厚い。29 は土師器の甕で口縁部が外反する。

B4 (第 16 図)

30 は土師器の鉢である。31 は弥生土器の壺の突帯であると思われる。

B 黄層 (第 16 図)

32 は弥生土器の甕で平底である。器壁が薄い小型品と思われる。33 は土師器の甕である。口縁先端に向かって厚くなり、内面に粘土接合痕がある。34 は土師器の坏で須恵器を模倣した形状と思われる。内外面にミガキを施す。35 は須恵器の高坏脚部で、長方形の透孔が上下 2 段で 3 か所につき、透孔の上下の間には 2 条の沈線が施される。透孔は内側が狭く、貫通していない部分もある。

Wトレ C1 (第 16 図)

36・37 は弥生土器の甕である。38 は弥生土器の大型の壺で口縁部が直立する。39 は弥生土器の鉢で口縁部先端が厚い。40 は弥生土器の高坏で、脚部外面の坏部との接合部分に刻目とハケメが施される。41・42 は土師器の甕で、41 は直立ぎみの口縁部で、口縁端部の際までハケメを施した後ナデを行う。42 は外反する口縁部で器壁が薄い。43 は土師器の高坏口縁部である。44 はミニチュア土器で器台形であると思われる。SD02 (第 13 図 26) と Wトレ B3 (第 16 図 20) で出土した他の 2 点と比べて胴部にくびれがなく、ナデの痕跡が強くない。45 は青磁の椀で口縁端部が外反する。

トレンチ C1 (第 16 図)

46 は須恵器高坏で脚部の 4 か所に透孔がある。透孔は上部しか残存しないが、長方形であった可能性が高い。内面全体に自然釉がかかる。受部部分で復元径が 14.2cm で、口縁部は欠損するが口径は 14.5cm 以上であったと思われる。

Wトレ C2 (第 16 図・17 図)

47 は砥石で台形の上辺側より下辺側が厚くなっている。4 面を使用している。第 17 図 1～4 は弥生土器の甕で、1 は口縁端部の際までハケメを施す。3 は口縁端部の直下内外面に強めのナデを施す。4 は底部で平底である。5・6 は弥生土器の壺で、5 は口縁端部に刻目を左から右に施す。6 は口縁端部に鋸歯文を施し、頸部の下端に強いナデを施す。7 は土師器の高坏で器壁が薄い。

Eトレ C3 (第 17 図)

8～10 は弥生土器の甕で、8 は口縁先端に向かって厚くなる。9 は口縁端部に 2 列の刻目がある。口縁先端がやや内湾する。11 は弥生土器の鉢で、口縁端部に 3 条もしくは 4 条の線を引く。12・13 は土師器の高坏脚部である。

攪乱 C3 (第 17 図)

14 は土師器の高坏脚部である。

Wトレ C4 (第 17 図)

15・16 は弥生土器の甕である。15 は短い「く」字口縁である。16 は底部である。18 は口縁部が直線的に開く。17 は土師器の甕で、口径より胴部径が大きくなる。

C 黄層 (第 17 図)

19～22 は弥生土器の甕で、22 は口縁部と頸部の境目に強いナデを施している。23～26 は弥生土器の壺で、23 は口縁端部外側の角が垂れる。24 は口縁と頸部の境目に強いナデを施す。25 は口縁端部外側の角が突出し、口縁先端が厚くなる。26 は頸部に断面三角形の突帯がつく。27～29 は弥生土器の高坏で、27 は口縁が厚く体部が薄い。28 は坏部下端が欠損するが、強く内湾している。29 は脚部小片である。30・31 は弥生土器の鉢である。32 は土師器の甕で口縁中間が最も厚くなる。33 は土師器の壺で口縁端部が強く屈曲し、先端が直立する。34 は土師器の鉢で器壁が薄い。35 は土師器の器台で先端に向かって厚みを増す。36～38 は土師器の高坏で 36・37 は口縁部である。38 は高坏脚部で、内面に粘土を接合後に押し付けた痕跡がある。39 は円形の土製品で穿孔される。40 は土師器の甗と思われ、底部に 4 か所の穿孔がある。41 は匙状土製品である。

C 砂層 (第 17 図)

42 は弥生土器の甕である。43 は土師器の甕で口縁端部直下にハケメの後にヨコナデを施す。44 は土師器の高坏口縁部である。

WトレD 2下層 (第 17 図)

45 は土師器の甕の口縁部である。46 は弥生土器の甕である。47 は弥生土器の壺で幅広で扁平な突帯をもつ。48・49 は弥生土器の高坏で、48 は端部外面の角が突出する。49 は端部付近の外面にヨコナデを施した部分がややへこむ。

WトレD2 (第 17 図)

50～55 は弥生土器の甕の口縁部である。54 は直立気味の口縁部である。56 は土師器の鉢で口縁部と体部の境目が強く屈曲する。57 は土師器の高坏脚部である。

トレンチ D2 黄層 (第 17 図)

58～60 は弥生土器の甕で、58 は口縁端部の角が外側へ突出する。59 は口縁端部の角が垂れており、口縁部中間が厚い。61 は弥生土器の鉢で口縁先端に向かって厚くなる。62 は弥生土器の甕で頸部がゆるやかに曲がる。

トレンチ D3 (第 17 図)

63 は土師器の器台脚部で端部の角がやや突出する。64 は土師器の高坏脚部である。

WトレD4 (第 18 図)

1～3 は弥生土器の壺で、1 は口縁端部の刻目を左から右に施す。2 は口縁端部に浅い斜線文様がつく。3 は断面台形の突帯が貼付され狭い間隔で刻目が施される。4・5 は土師器の高坏で、4 は口縁部である。5 は脚部内面の接合部に粘土を押し込んだ跡がある。6～9 は土師器の甕である。6・7 は口縁部小片である。8 は口縁部の中間が厚くなる。9 は胴部が丸く膨らむ。

D2 黄層 (第 18 図)

10～14 は弥生土器の甕である。10～13 は口縁部で、13 は口縁先端に向かって厚くなる。14 は底部である。15 は弥生土器の高坏で脚部内面に粘土接合痕がある。16・17 は弥生土器の鉢で、16 は口縁端部外側の角が突出し、17 は口縁端部内側の角が突出する。18 は土師器の鉢で、口縁部は短く直立する。19 は土師器の高坏坏部の可能性がある。20・21 は土師器の甕の口縁部で、20 の口縁端部は丸く、21 の口縁端部は外側の角が突出する。22～26 は土師器の高坏である。22・23 は口縁部である。24 は SD01 と SP11 出土の破片 (第 13 図 17) と接合する同一個体である。25 は端部内外面にナデを施し、その部分がややへこむ。27 は須恵器坏身で受部の下側がややくぼむ。

D2 (第 18 図)

28 は土師器の高坏で、脚部内面の接合部分で粘土を押し付けているが、段差がある。

D3 (第 18 図)

29 は弥生土器の甕で SP18 出土の第 14 図 6 と接合する同一個体である。30 は土師器の甕で、口縁先端に向かって厚くなる。

E 黄層 (第 18 図)

32～42・44 は土師器の甕である。35 は頸部が屈曲し明確な稜線がある。37・38 は口縁部が外反し、頸部から胴部へはゆるやかに広がっている。39 は口縁部が外反し、頸部が屈曲し明確な稜線がある。40 は口縁部の中間に厚みがあり頸部が屈曲する。41 は内面に粘土接合痕がある。42 は弥生土器の甕の底部である。45・46 は土師器の鉢である。45 は直立する口縁部で、46 は内湾する。47・48 は土師器の高坏である。47 は脚部の 3 か所に透孔をもつ。48 は脚部内面に接合後ナデを施して

いる。49～52は土師器の甕である。50と51は同一個体の口縁部と底部の可能性がある。52は把手で、接合部分にハケメを施す。53は土師器の支脚である。54は須恵器坏身である。

トレンチE (第19図)

1は土師器の高坏の口縁部であると思われる、体部との接合部分で剥がれている。2は弥生土器の壺で、口縁部が直立し、胴部が丸く広がる。

攪乱 (第19図)

3は弥生土器の壺で断面台形の突帯に刻目がつく。4は弥生土器の甕の口縁部である。5は土師器の甕で口縁端部がつまみ上げられる。6は須恵器甕の口縁部である。

2区の出土遺構と出土遺物

溝状遺構 (SD) : (第12図・第19図)

自然流路と思われる。土層の観察から東西方向に向かって延びると思われるが、調査区内で端が確認できず全体の形状は不明である。残存する深さは約45cmである。ピットを切る。埋土は少なくとも2回に分けて堆積している。

出土遺物を第19図に示す。7は弥生土器の甕で口縁部に刻目を持つ。8は弥生土器の壺で断面台形の突帯に刻目を施す。9・10は土師器の甕である。11は土師器の椀で器壁が薄い。12・13は土師器の高坏で、12は穿孔を持つ。13は器壁が薄い脚部である。14は弥生土器の甕の底部である。

ピット (SP) : (第12図・第13図)

7基のピットを確認した。ピットはSDに切られる。

SP02でのみ遺物が出土した(第13図31)。土師器の甕で口縁部が外反する。

2区遺構外出土遺物

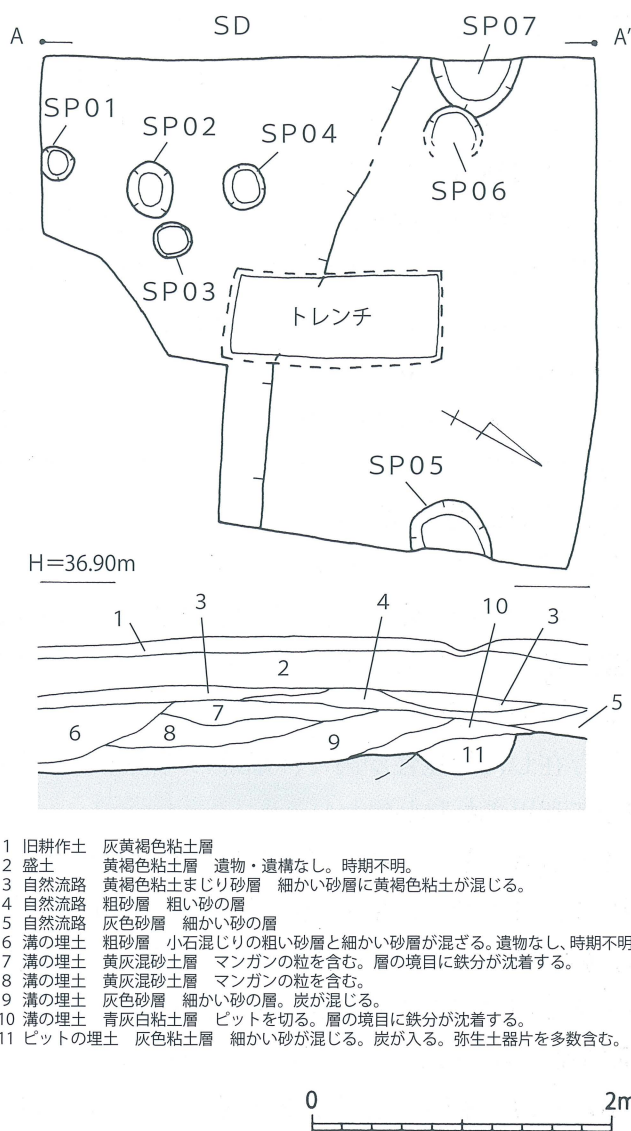
2区調査区の遺構外から出土した遺物について記載する。

2区最下層 (第19図)

15・16は弥生土器の壺である。15は断面四角形の突帯に刻目を施す。16は外傾する口縁部である。17は土師器の高坏である。18・19は土師器の坏で重なって出土した。20・21は土師器の甕で、20は口縁部が短く直立する。21は胴部である。

2区排土中 (第19図)

22・23は弥生土器の壺で突帯に刻目を施す。24は土師器の坏で、18・19に比べて器壁が薄い。25・26は土師器の高坏脚部である。



第12図 祈祷院・小石原遺跡2区実測図
(S = 1/50)

(3) 祈祷院・小石原遺跡の総括

以上、祈祷院・小石原遺跡第1次調査に関し報告し、最後に以下では調査内容の要点を述べる。

祈祷院・小石原遺跡は八女市祈祷院字小石原に所在する。調査地は矢部川と星野川が合流する地点の北西にあり、調査地周辺は過去に複数箇所が発掘調査がなされている。今回の発掘調査は、福岡県八女県土整備事務所による県道久留米立花線の改良工事業に伴う。八女県土整備事務所との協議を行った上で、道路拡幅部分の発掘調査による記録保存を実施した。

令和元年度の調査実施範囲を1区とし、令和2年度の調査実施範囲を2区と設定した。1区では石棺墓1基、土坑4基、溝状遺構3条、ピット72基、2区では溝状遺構1条、ピット7基を発見した。

以下に、各区で特に注目される事柄について記す。

1区では調査区北側で石棺墓が発見された。1号石棺墓は長さ約85cm、幅約35cmの小児用箱式石棺墓であり、蓋石がある状態で発見された。土層の検証が不十分であるが、蓋石の上面がSD01の底面より低い位置にあり、SD01より以前に存在した可能性がある。出土遺物はなく時期の詳細は不明であるが、弥生時代～古墳時代に属すると思われる。石棺墓の上層では、SD01の南東で30基のピットが縦・横方向に並んで発見された。このピット群は埋土の観察結果、SD01と同時期に存在した可能性が高く、畑跡の可能性もある。このことから、石棺墓の埋没後、当該地は畑地として利用されたとと思われる。

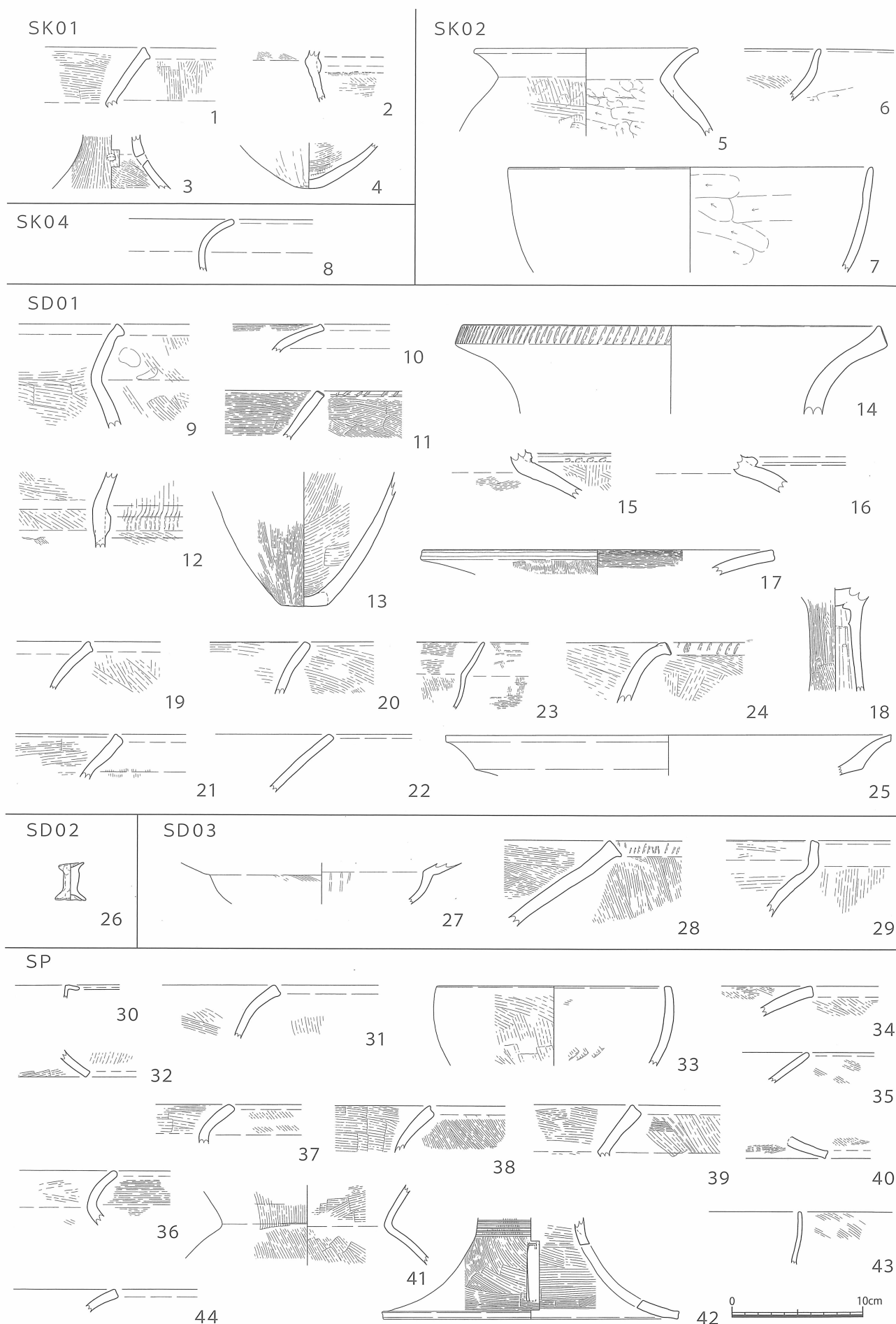
1区の調査では、表土層下位で幾重にも重なる砂層の堆積が確認され、その中から多数の遺物が出土した。この遺物の中には完形に近いものもあるが、器表面が摩滅する破片が多数である。このことは、調査地が過去に幾度となく起こった洪水被害を受けていた証左である。2区の調査時に1区よりも深い深度での遺物の出土があったため、1区でも下位層中に埋蔵文化財が存在する可能性が高いが、工事による掘削を受けないため現地保存されている。

2区では自然流路の一部が発見され、この流路が確認された標高は1区よりも低い。さらに、この流路の下層からも土器がまとまって出土しており、1区で確認した砂層より下位の洪水堆積であると思われる。土層の観察から、2区は旧河道であり、1区は中洲上に位置していたと思われる。

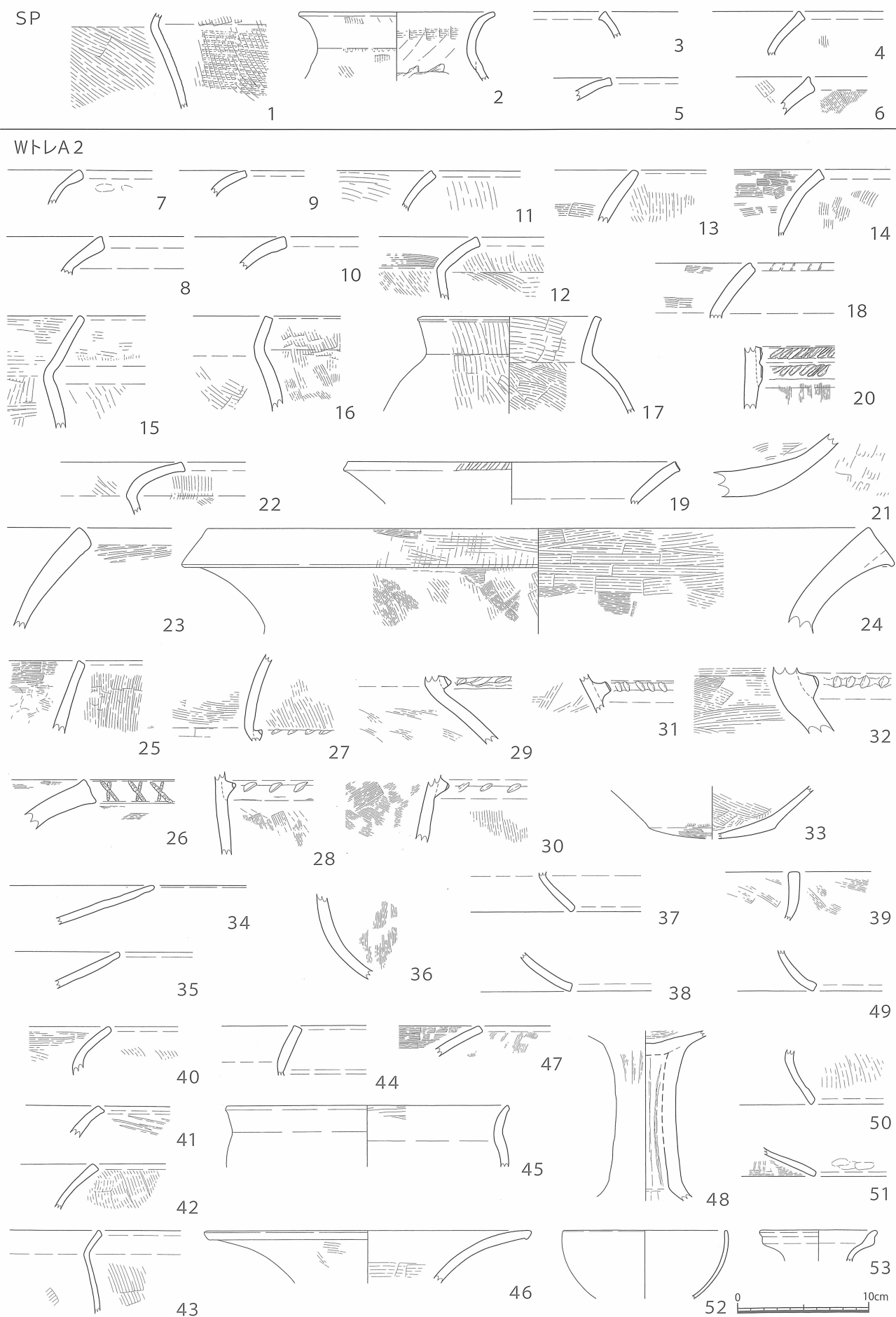
1・2区で洪水堆積が確認されており、その洪水砂層下位にも弥生時代から古墳時代の遺構が確認された。

以上の通り、祈祷院・小石原遺跡第1次調査は河川の合流地点付近の中洲上に位置し、矢部方面・星野方面・矢部川下流の3方向からの人々が行き交う交通の要所であった場所に存在する。洪水堆積の下位でも遺構が発見されることから、弥生時代から古墳時代の人々が、幾度もの洪水の危機に瀕しながら矢部川流域の交通の要所という利点を活かしつつ、墓域や集落域を形成し生活をしていった状況が伺える。

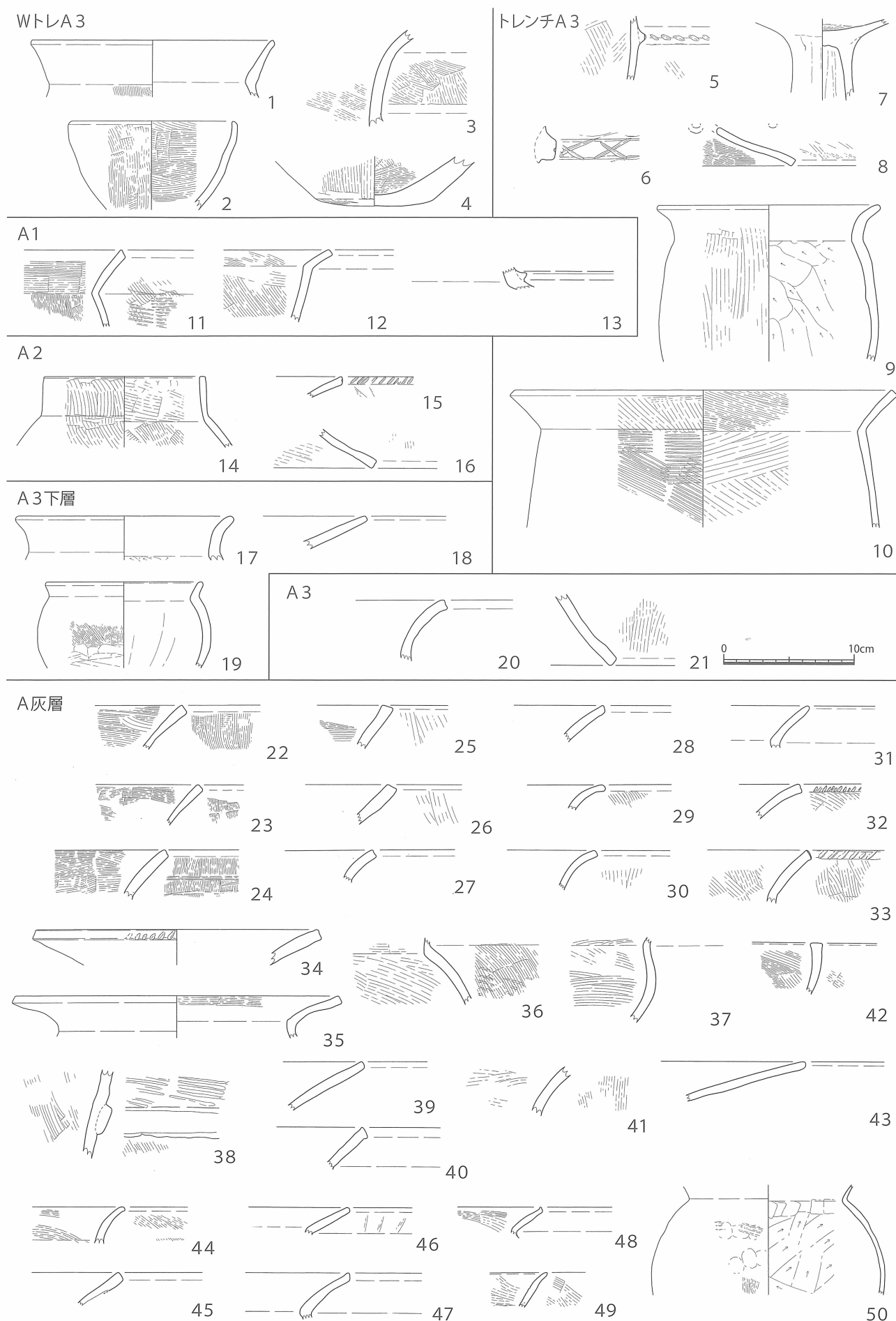
今回の調査では、2区の最下層からも遺物が出土している。しかし、地表面から深い深度での発見であり、調査区が狭小であるため、安全上の観点から、現地保存の対応を取った。1区でも同様に、調査面下位に厚く堆積する洪水砂層の下にも埋蔵文化財が存在する可能性が高い。また、今回の調査地南側にも同様に埋蔵文化財が存在する可能性が高く、遺構・遺物が発見される恐れがあるため今後の開発の際には細心の注意が必要である。



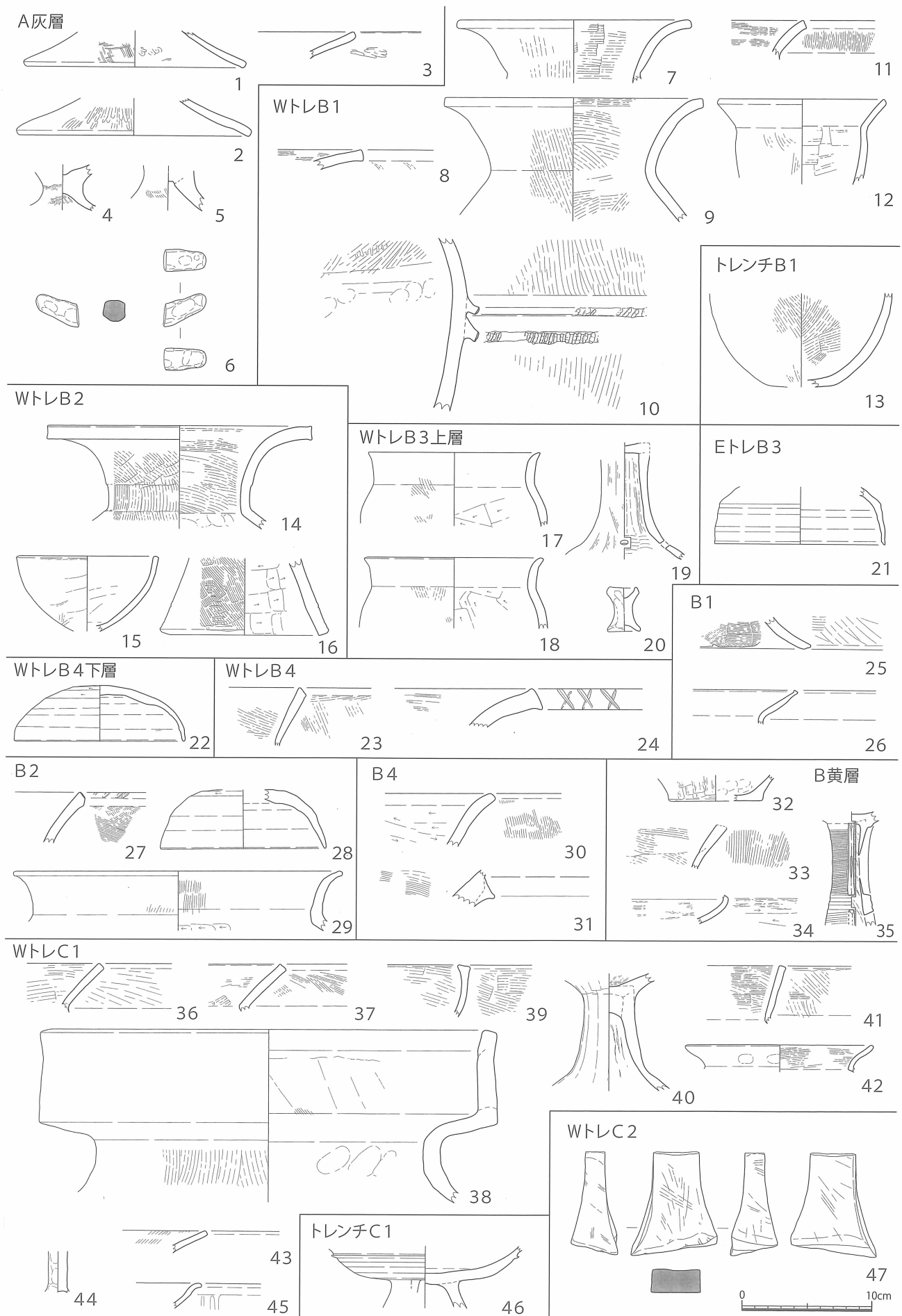
第13図 祈禱院・小石原遺跡出土遺物実測図① (S = 1/4)



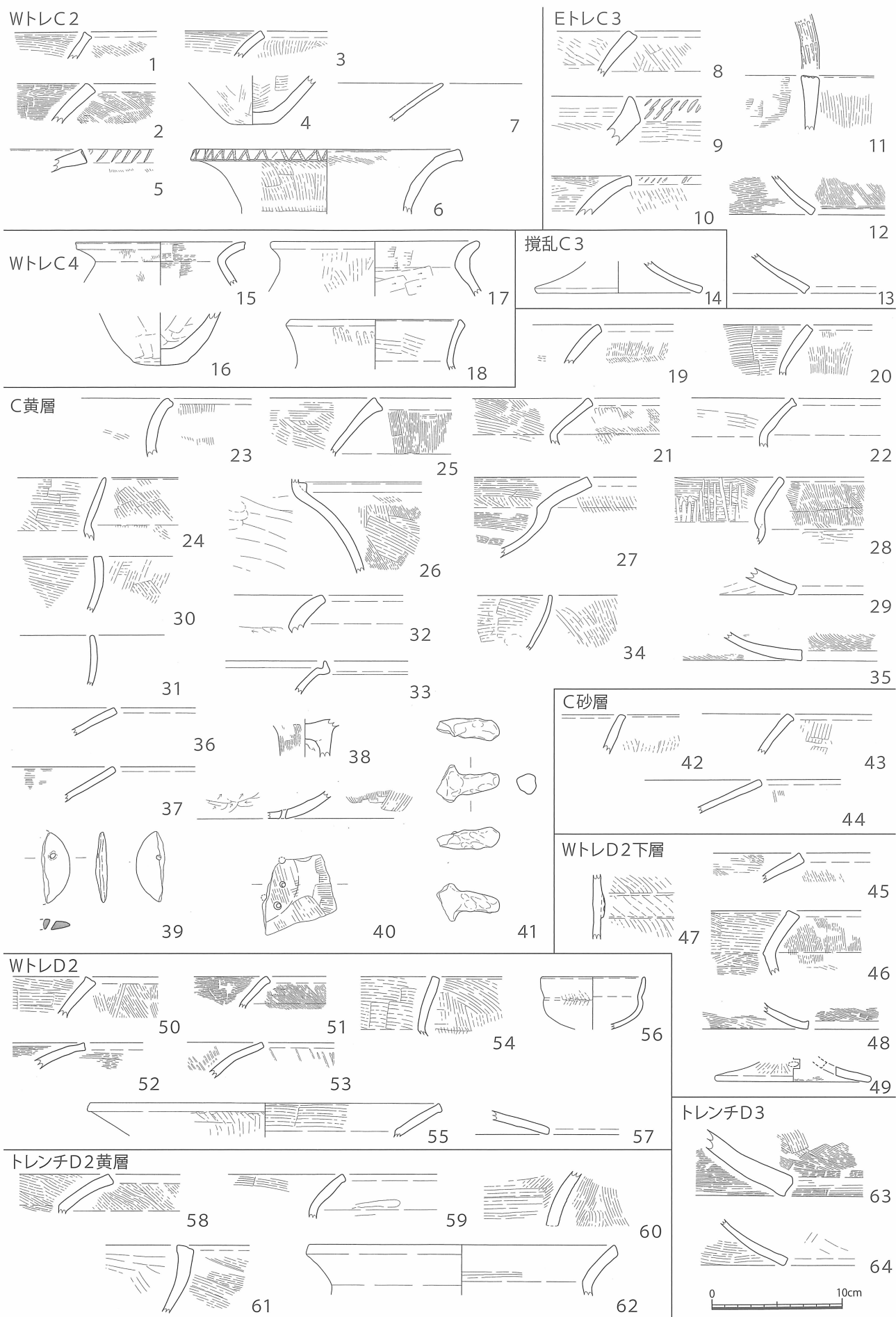
第 14 図 祈祷院・小石原遺跡出土遺物実測図② (S = 1/4)



第 15 図 祈禱院・小石原遺跡出土遺物実測図③ (S = 1/4)

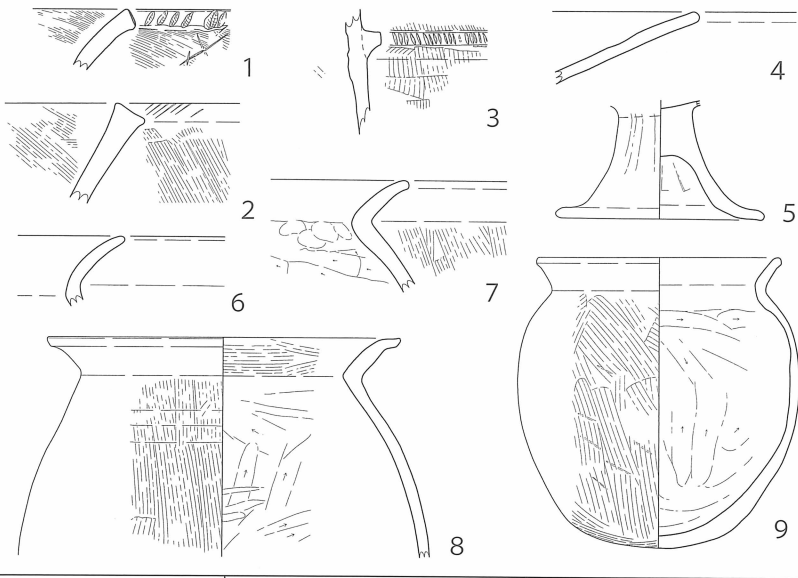


第 16 図 祈禱院・小石原遺跡出土遺物実測図④ (S = 1/4)

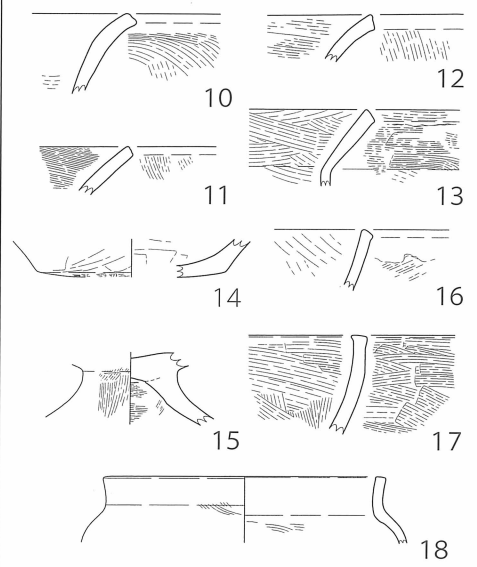


第 17 図 祈禱院・小石原遺跡出土遺物実測図⑤ (S = 1/4)

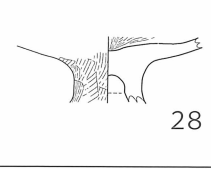
WトD4



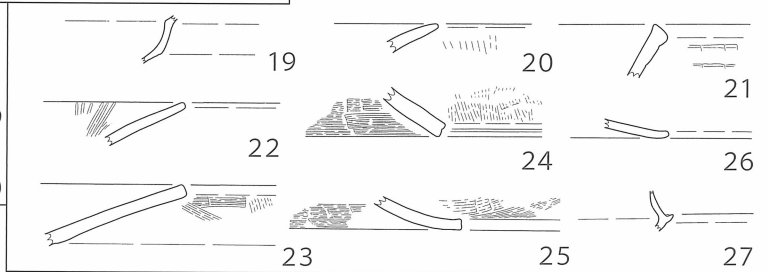
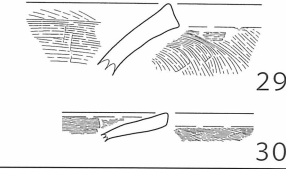
D2黄層



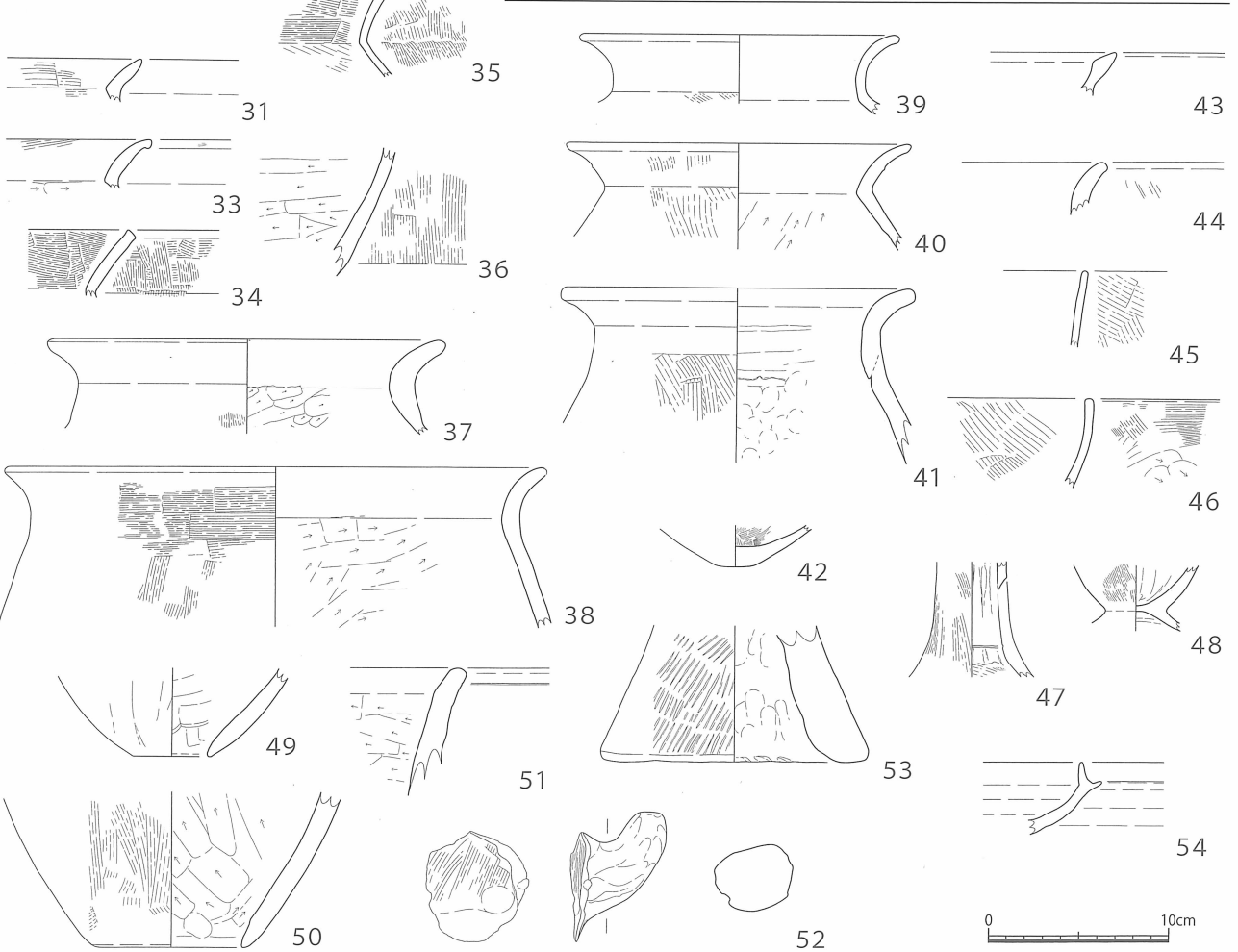
D2



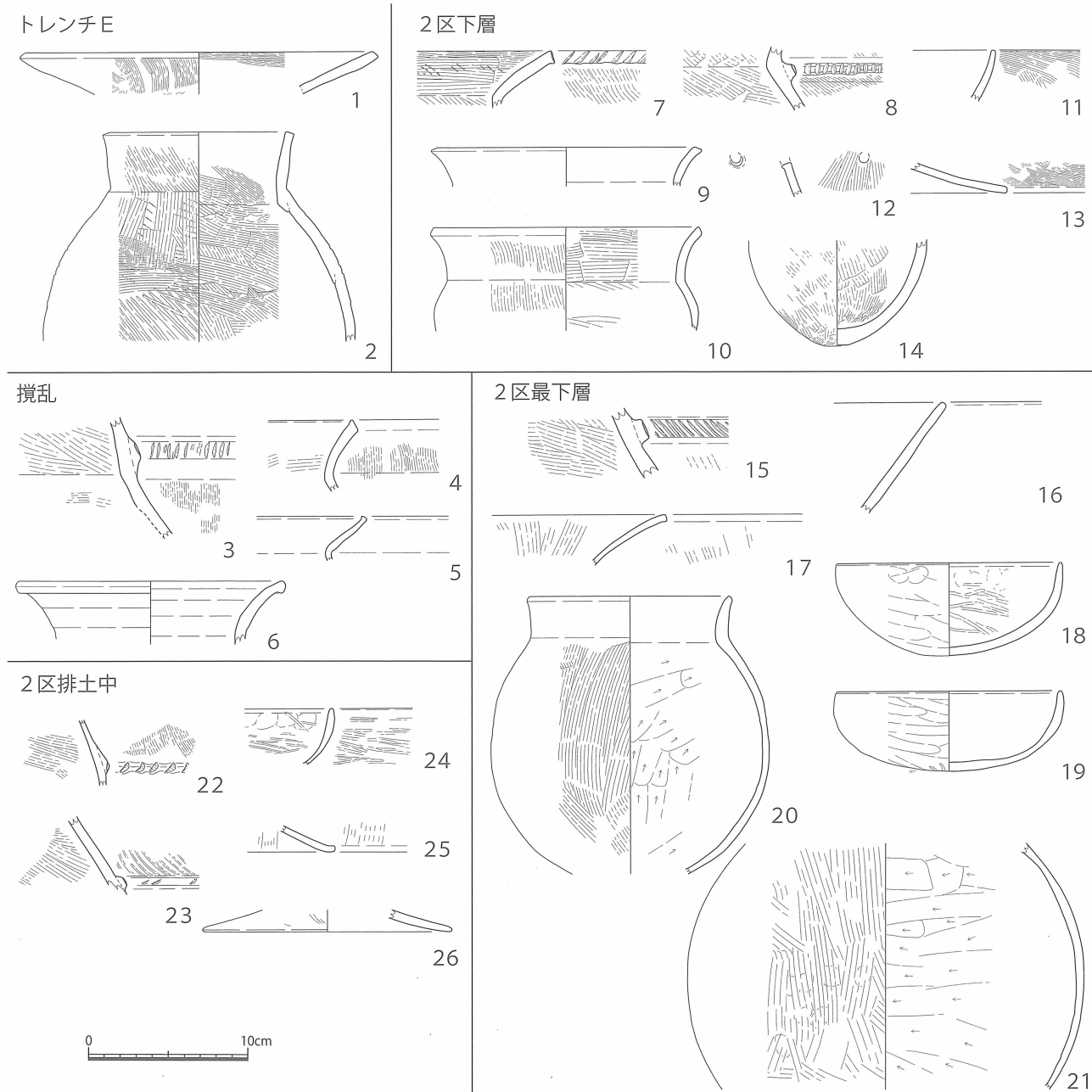
D3



E黄層



第 18 図 祈禱院・小石原遺跡出土遺物実測図⑥ (S = 1/4)



第19図 祈禱院・小石原遺跡出土遺物実測図⑦ (S = 1/4)

第1表 祈禱院・小石原遺跡出土遺物観察表

押図番号	出土地点	器形	焼成	色調 (外面/内面)	胎土	成形・整形手法等	寸法		備考 (種類・残存等)	実測図 番号
							口徑 (底径)	器高 (残存高)		
第13図1	SK01	弥生土器 甕	軟質	(浅黄橙/浅黄橙)	2mm以下の長石・石英・角閃石を多量に含む	(外) ヨコナデ・ハケメ (内) ヨコナデ・ハケメ・ナデ	—	(4.5)	口縁部小片 外面にスス付着	19
第13図2	SK01	弥生土器 甕	軟質	(浅黄橙/浅黄橙)	2mm以下の長石・石英・雲母を多量に含む 5mm以下の赤色粒子を少量含む	(外) 貼り付け突帯後ナデ・ハケメ後ミガキ (内) ハケメ・剥落して不明	—	(3.9)	口縁部小片 黒斑あり	18
第13図3	SK01	弥生土器 高杯	軟質	(にぶい黄橙/にぶい黄橙)	1mm以下の長石・石英を多量に含む	(外) ハケメ (内) ハケメ・ナデ	—	(4.1)	脚部 1/6 孔あり	20
第13図4	SK01	弥生土器 鉢	軟質		2mm以下の長石・石英・角閃石を多量に含む	(外) 工具ナデ・ナデ (内) ハケメ	(2.2)	(3.4)	底部 1/4 内外面スス付着	21
第13図5	SK02	土師器 鉢	軟質	(橙/橙)	5mm以下の長石・石英・角閃石を多量に含むを少量含む	(外) ヨコナデ・ハケメ (内) ヨコナデ・指オサエ・ヘラケズリ	(16.6)	(6.6)	口縁部 1/5 スス付着	22
第13図6	SK02	土師器 鉢	軟質	(橙/橙)	1mm以下の長石・石英を少量含む	(外) タタキ後ナデ (内) ハケメ後ナデ	—	(4.0)	口縁部小片 黒斑あり	23
第13図7	SK02	土師器 鉢もしくは甕	軟質	(にぶい橙/にぶい橙)	4mm以下の礫を含む 片岩・赤色粒	(外) ヨコナデ・不明 (内) ヨコナデ・ケズリ	(28.0) —	(8.0)	口縁部 1/9 割れ面に少量の不純物の付着あり 口縁外面にスス付着	R-130
第13図8	SK04	土師器 甕もしくは広口壺	軟質	(橙/橙)	粗砂を含む 片岩・赤色粒・角閃石	(外) ヨコナデ・ハケメ後ヨコナデ (内) ヨコナデ	—	(3.9)	小片 両面に不純物の付着あり 外面スス付着	R-127
第13図9	SD01	弥生土器 甕	軟質	(灰白/灰)	1mm以下の長石・石英を多量に含む	(外) ヨコナデ・ハケメ (内) ヨコナデ・ハケメ	—	(1.9)	口縁部小片	1
第13図10	SD01	弥生土器 甕	軟質	(にぶい橙/にぶい橙)	2mm以下の長石・石英・赤色粒子雲母を多量に含む	(外) ヨコナデ (内) ヨコナデ・ハケメ	—	(2.2)	口縁部小片 外面スス付着	5
第13図11	SD01	弥生土器 甕	軟質	(にぶい橙/にぶい橙)	1mm以下の長石・石英・黒曜石を多量に含む	(外) ヨコナデ・ハケメ・刻目 (内) ハケメ	—	(3.7)	口縁部小片	2
第13図12	SD01	弥生土器 甕	軟質	(にぶい黄橙/橙)	1mm以下の長石・石英を多量に含む	(外) ハケメ (内) ハケメ	—	(5.7)	体部小片	3
第13図13	SD01	弥生土器 甕	軟質	(にぶい黄橙/灰白)	4mm以下の長石・石英を多量に含む	(外) ハケメ・ナデ (内) ハケメ	—	(10.2)	底部 1/2 外面スス付着	14
第13図14	SD01	弥生土器 壺	軟質	(にぶい橙/灰白)	3mm以下の長石・石英・黒色粒を多量に含む	(外) ヨコナデ・刻目 (内) ヨコナデ	(31.8)	(6.7)	口縁部 1/5 口縁部 外面に黒斑あり 内外摩滅	9
第13図15	SD01	弥生土器 壺	軟質	(にぶい黄橙/にぶい黄橙)	2mm以下の長石・石英・黒色粒を多量に含む	(外) ハケメ・貼付突帯のち刻目 (内) ハケメ後ヨコナデ	—	(3.7)	頸部小片	10
第13図16	SD01	弥生土器 壺	軟質	(浅黄橙/浅黄橙)	4.5mm以下の礫を含む 片岩・石英・赤色粒	(外) ヨコナデ・ハケメ (内) ハケメ	—	(2.9)	小片	R-15
第13図17	SD01	弥生土器 高杯	軟質	(灰黄褐/灰黄褐)	1mm以下の長石・石英・雲母を少量含む	(外) 沈線1条後ヨコナデ・ハケメ (内) ハケメ	(26.6)	(1.9)	口縁部小片 黒斑あり	6
第13図18	SD01	弥生土器 高杯	軟質	(にぶい橙/にぶい橙)	2mm以下の長石・石英・雲母を多量に含む	(外) ミガキ・ハケメ (内) ナデ・工具ナデ	—	(7.8)	スス	12
第13図19	SD01	土師器 甕	軟質	(にぶい黄橙/にぶい黄橙)	1mm以下の長石・石英・角閃石を多量に含む	(外) ヨコナデ・ハケメ (内) ヨコナデ	—	(3.7)	口縁部小片	4
第13図20	SD01	土師器 甕	軟質	(にぶい黄/橙)	2mm以下の長石・石英・結晶片岩を多量に含む	(外) ヨコナデ・ハケメ (内) ヨコナデ・ハケメ後ナデ	—	(4.0)	口縁部小片 外面マス付着	7
第13図21	SD01	土師器 甕	軟質	(にぶい黄橙/灰白)	1mm以下の角閃石・赤色粒子を少量含む。2mm以下の長石・石英・結晶片炭を多量に含む。	(外) ヨコナデ・ハケメ (内) ヨコナデ・ハケメ	—	(3.4)	口縁部小片 黒斑	8
第13図22	SD01	土師器 甕	軟質	(橙/橙)	粗砂を含む 片岩・赤色粒	(外) ヨコナデ (内) ヨコナデ	—	(4.4)	小片 外面に不純物の付着あり	R-128
第13図23	SD01	土師器 鉢	軟質	(にぶい橙/にぶい橙)	1mm以下の長石・石英・雲母を多量に含む	(外) ハケメ後ヨコナデ・ハケメ後ミガキヨコナデ (内) ハケメ後ヨコナデ・ナデ	—	(5.1)	口縁部小片	13
第13図24	SD01	弥生土器 壺	軟質	(にぶい橙/にぶい橙)	1mm以下の長石・石英を多量に含む	(外) ハケメ後ヨコナデ刻目 (内) ヨコナデ・ハケメ	—	(4.5)	口縁部小片	11
第13図25	SD01	土師器 壺	軟質	(灰白/灰白)	粗砂を含む 赤色粒・赤色の片岩を含む	(外) ハケメ後ヨコナデ (内) ハケメ後ヨコナデ	(34.0) —	(3.0)	口縁部 1/4	R-129
第13図26	SD02	ミニチュア土器 器台	軟質	(にぶい橙/にぶい橙)	1mm以下の長石・石英・雲母を少量含む	(外) 指ナデ・つまみ (内) 指ナデ・つまみ	上下 (2.0) (2.2)	(2.9)	全体の 3/4	15
第13図27	SD03	弥生土器 高杯	軟質	(にぶい黄橙/にぶい黄橙)	3mm以下の礫を含む 片岩・石英	(外) ヨコナデ・ハケメ後ナデ (内) ヨコナデ・ミガキ	—	(3.0)	1/8 外面黒斑あり	R-16
第13図28	SD03	土師器 壺	軟質	(橙/橙)	2mm以下の長石・石英を多量に含む。1mm以下の結晶片岩を少量含む。	(外) ハケメ後ヨコナデ後刻目 (内) ハケメ後ヨコナデ	—	(6.5)	口縁部小片	16
第13図29	SD03	土師器 壺	軟質	(にぶい黄橙/にぶい黄橙)	5mm以下の長石・石英・結晶片岩・角閃石を多量に含む	(外) ハケメ後ヨコナデ (内) ハケメ・ヨコナデ	—	—	口縁部小片	17
第13図30	SP01	陶器	硬質	(にぶい黄橙/浅黄)	緻密で精良	(外) 回転ナデ (内) 回転ナデ	—	(0.9)	小片 内面一部施釉 白土の上に黄褐色の釉がのる	R-210
第13図31	2区 SP02	土師器 甕	軟質	(にぶい橙/にぶい橙)	粗砂を含む 片岩・赤色粒	(外) ナデ・ハケメ (内) ナデ・ハケメ	—	(4.0)	小片	R-136
第13図32	SP04	弥生土器 高杯	軟質	(にぶい橙/にぶい橙)	1mm以下の長石・石英を少量含む	(外) ハケメ後ヨコナデ (内) ナデ後ハケメ	—	(2.0)	脚部小片	24
第13図33	SP06	弥生土器 鉢	軟質	(にぶい黄橙/灰白)	1mm以下の長石・石英・結晶片岩を多量に含む	(外) ハケメ後ヨコナデ (内) ハケメ後ヨコナデ	(17.2)	(6.0)	口縁部 1/6	27
第13図34	SP06	弥生土器 壺	軟質	(にぶい黄橙/にぶい橙)	1mm以下の長石・石英を少量含む	(外) ハケメ後ヨコナデ (内) ハケメ後ヨコナデ	—	(2.2)	口縁部小片	26
第13図35	SP06	土師器 高杯	軟質	(橙/にぶい橙)	3mm以下の長石・石英を少量含む	(外) ハケメ後ヨコナデ (内) ヨコナデ	—	(2.3)	口縁部小片 外面に黒斑・スス付着あり	25
第13図36	SP08	土師器 甕	軟質	(黄灰/にぶい黄橙)	2mm以下の長石・石英を多量に含む	(外) ハケメ後ヨコナデ (内) ハケメ後ヨコナデ	—	(4.1)	口縁部小片 外面にスス付着	28
第13図37	SP11	弥生土器 甕	軟質	(灰白/にぶい黄橙)	2mm以下の長石・石英・角閃石を多量に含む	(外) ハケメ・ヨコナデ (内) ハケメ・ヨコナデ・ナデ	—	(3.0)	口縁部小片 黒斑あり	30
第13図38	SP11	弥生土器 甕	軟質	(褐灰/にぶい黄橙)	1mm以下の長石・石英を多量に含む	(外) ハケメ・ヨコナデ (内) ハケメ・ヨコナデ	—	(1.6)	口縁部小片 スス付着	32
第13図39	SP11	弥生土器 甕	軟質	(橙/橙)	1mm以下の長石・石英を多量に含む	(外) ハケメ後ヨコナデ (内) ハケメ後ヨコナデ	—	(3.9)	口縁部小片 外面被熱痕あり	34
第13図40	SP11	弥生土器 高杯	軟質	(にぶい橙/にぶい橙)	2mm以下の長石・石英・雲母を多量に含む	(外) ハケメ・ヨコナデ (内) ハケメ・ヨコナデ	—	(1.6)	底部小片	33
第13図41	SP11	弥生土器 壺	軟質	(橙/橙)	1mm以下の長石・石英・雲母を少量含む	(外) ハケメ後ヨコナデ (内) ハケメ・マメツ	—	(6.1)	頸部 1/4	29
第13図42	SP11	土師器 器台	軟質	(灰黄褐/灰黄褐)	4mm以下の長石・石英を少量含む	(外) ハケメ後ヨコナデ・沈線5条現存 (内) ハケメ後ヨコナデ	(22.5)	(7.7)	脚部 1/4 スス付着	35
第13図43	SP11	土師器 鉢	軟質	(浅黄橙/浅黄橙)	粗砂を含む 片岩・赤色粒・角閃石	(外) ハケメ後ヨコナデ・ヨコナデ (内) ヨコナデ	—	(3.9)	小片 外面に不純物の付着あり	R-132
第13図44	SP12	弥生土器 甕	軟質	(にぶい黄橙/浅黄橙)	3.5mm以下の礫を含む 片岩・石英・赤色粒	(外) ヨコナデ・ナデ (内) ヨコナデ	—	(1.7)	小片	R-133
第14図1	SP14	弥生土器 甕	軟質	(にぶい黄橙/にぶい黄橙)	2mm以下の長石・石英・角閃石・結晶片岩を多量に含む	(外) タタキ後ハケメ後ヨコナデ (内) ハケメ	—	(7.2)	頸部小片	36
第14図2	SP16	土師器 甕	軟質	(にぶい黄橙/にぶい黄橙)	1mm以下の片岩・石英を含む。	(外) ハケメ後ヨコナデ (内) ハケメ後工具ナデ・ヨコナデ・工具痕	(14.8)	(5.2)	口縁部 1/5 黒斑あり	37
第14図3	SP17	弥生土器 甕	軟質	(にぶい橙/にぶい橙)	1.5mm以下の粗砂を含む 片岩・角閃石・赤色粒	(外) ハケメ後ヨコナデ (内) ヨコナデ	—	(2.0)	小片	R-17

押図番号	出土地点	器形	焼成	色調 (外面/内面)	胎土	成形・整形手法等	寸法		備考 (種類・残存等)	実測図 番号
							口径 (底径)	器高 (残存高)		
第14図4	SP18	弥生土器 甕	軟質	(浅黄 / 浅黄)	1.5mm 以下の粗砂を含む 片岩・角閃石	(外) ヨコナデ・ハケメ後ヨコナデ (内) ヨコナデ・ナデ	—	(3.3)	小片	R-18
第14図5	SP18	弥生土器 甕	軟質	(灰黄褐 / 灰褐)	1mm 以下の長石・石英を多 量に含む	(外) ハケメ・ヨコナデ (内) ハケメ後ヨコナデ	—	(2.9)	口縁部小片	38
第14図6	SP19	弥生土器 甕	軟質	(にぶい黄橙 / 灰白)	1.5mm 以下の粗砂を含む 片岩	(外) ヨコナデ (内) ヨコナデ	—	(1.7)	小片 R-133 と類似	R-204
第14図7	Wトレ A2	弥生土器 甕	軟質	(灰黄褐 / にぶい黄橙)	1mm 以下の長石・石英を含 む	(外) 指オサエ後ヨコナデ (内) ヨコナデ	—	(2.6)	口縁部小片	144
第14図8	Wトレ A2	弥生土器 甕	軟質	(にぶい橙 / にぶい橙)	1.5mm 以下の粗砂を含む 片岩・赤色粒・角閃石	(外) ヨコナデ (内) ヨコナデ	—	(2.9)	小片	R-116
第14図9	Wトレ A2	弥生土器 甕	軟質	(歳にぶい褐 / にぶい黄橙)	1.5mm 以下の粗砂を含む 片岩・石英	(外) ヨコナデ・ハケメ後ヨコナデ (内) ヨコナデ	—	(2.0)	小片	R-202
第14図10	Wトレ A2	弥生土器 甕	軟質	(橙 / 浅黄橙)	4mm の礫を含む 片岩・石英・赤色粒	(外) ヨコナデ (内) ヨコナデ	—	(2.4)	小片	R-114
第14図11	Wトレ A2	弥生土器 甕	軟質	(浅黄橙 / にぶい黄橙)	粗砂を含む 片岩・赤色粒	(外) ナデ・ハケメ後ナデ (内) ハケメ後ナデ	—	(3.1)	小片	R-109
第14図12	Wトレ A2	弥生土器 甕	軟質	(にぶい黄橙 / にぶい黄橙)	2mm 以下の長石・石英・雲 母を含む	(外) ハケメ後ヨコナデ (内) ハケメ後ヨコナデ	—	(4.8)	口縁部小片 黒斑あり・スス付着	140
第14図13	Wトレ A2	弥生土器 甕	軟質	(浅黄橙 / 浅黄橙)	3mm 以下の長石・石英・角 閃石・赤色粒子を含む	(外) ハケメ後ヨコナデ (内) ハケメ後ヨコナデ	—	(4.3)	口縁部小片	151
第14図14	Wトレ A2	弥生土器 甕	軟質	(にぶい黄橙 / にぶい黄橙)	2mm 以下の長石・石英を含 む	(外) ハケメ後ヨコナデ (内) ハケメ後ヨコナデ	—	(5.0)	口縁部小片	156
第14図15	Wトレ A2	弥生土器 甕	軟質	(浅黄橙 / 浅黄橙)	3mm 以下の長石・石英・黒 色・赤色粒子を含む	(外) ハケメ後ヨコナデ・ハケメ (内) ハケメ後ヨコナデ	—	(8.4)	口縁部小片	141
第14図16	Wトレ A2	弥生土器 甕	軟質	(にぶい橙 / にぶい橙)	3mm 以下の長石・石英・結 晶片岩・雲母を含む	(外) ハケメ後ヨコナデ (内) ハケメ後ヨコナデ	—	(7.2)	口縁部小片	150
第14図17	Wトレ A2	弥生土器 甕	軟質	(にぶい黄橙 / 浅黄橙)	2mm 以下の長石・石英・角 閃石を含む	(外) ハケメ後ヨコナデ (内) ハケメ後ヨコナデ	(13.4) —	(7.3)	口縁部 1/6	152
第14図18	Wトレ A2	弥生土器 甕	軟質	(にぶい橙 / にぶい黄橙)	3mm 以下の礫を含む 片岩・赤色粒	(外) 刻み目・ハケメ後ヨコナデ (内) ハケメ	—	(4.1)	小片	R-111
第14図19	Wトレ A2	弥生土器 甕	軟質	(にぶい黄橙 / にぶい黄橙)	1.5mm 以下の粗砂を含む 片岩・石英	(外) キザミ・縦方向のハケメ後ヨコナデ (内) ヨコナデ	(25.6) —	(3.2)	口縁部 1/ 7	R-8
第14図20	Wトレ A2	弥生土器 甕	軟質	(にぶい橙 / にぶい黄橙)	2mm 以下の長石・石英・角 閃石を含む	(外) 貼り付け突帯後ナデ・刻み目・ハケメ マメツ	—	(4.7)	体部小片	159
第14図21	Wトレ A2	弥生土器 甕	軟質	(明黄褐 / にぶい黄橙)	2mm 以下の砂礫を多量に含 む 片岩・石英・角閃石	(外) ハケメ (内) ハケメ	—	(4.7)	小片	R-19
第14図22	Wトレ A2	弥生土器 甕	軟質		3mm 以下の片岩・石英・長 石を含む	(外) ヨコナデ・ハケメ (内) ハケメ後ヨコナデ・ナデ	—	(4.0)	小片	R-213
第14図23	Wトレ A2	弥生土器 甕	軟質	(橙 / にぶい橙)	2mm 以下の長石・石英・結 晶片岩・赤色粒子を含む	(外) タタキ・ヨコナデ・ナデ (内) マメツ	—	(7.6)	口縁部小片 黒斑あり	164
第14図24	Wトレ A2	弥生土器 甕	軟質	(浅黄橙 / 浅黄橙)	3mm 以下の長石・石英・角 閃石・赤色粒子を含む	(外) ヨコナデ後ハケメ・貼付突帯 (内) ヨコナデ後ハケメ	(50.0) —	(8.0)	口縁部 1/8	143
第14図25	Wトレ A2	弥生土器 甕	軟質	(にぶい黄橙 / にぶい黄橙)	2mm 以下の長石・石英・赤 色粒・角閃石を含む	(外) 指オサエ後ハケメ後ヨコナデ (内) 指オサエ後ハケメ後ヨコナデ	—	(5.5)	口縁部小片	153
第14図26	Wトレ A2	弥生土器 甕	軟質	(浅黄橙 / 浅黄橙)	2mm 以下の長石・石英・角 閃石・赤色粒子を含む	(外) ハケメ後ヨコナデ・刺突格子文 (内) ハケメ後ヨコナデ	—	(3.7)	口縁部小片	157
第14図27	Wトレ A2	弥生土器 甕	軟質	(浅黄橙 / 浅黄橙)	2mm 以下の長石・石英・結 晶片岩・赤色粒子を含む	(外) ハケメ・貼り付け突帯後ナデ後刻み目 (内) ハケメ・工具ナデ	—	(6.5)	体部小片	162
第14図28	Wトレ A2	弥生土器 甕	軟質	(にぶい黄橙 / にぶい黄橙)	2mm 以下の長石・石英・角 閃石・赤色粒子を含む	(外) 貼り付け突帯後ナデ後刻み目 (内) ハケメ	—	(6.2)	体部小片 0161 と同一の可能性	158
第14図29	Wトレ A2	弥生土器 甕	軟質	(橙 / 橙)	3mm 以下の長石・石英・結 晶片岩・赤色粒子を含む	(外) 貼り付け突帯後刻み目・マメツ (内) ナデ・ハケメ後ナデ	—	(5.2)	体部小片	155
第14図30	Wトレ A2	弥生土器 甕	軟質	(褐灰 / にぶい橙)	2mm 以下の長石・石英・角 閃石・赤色粒子を含む	(外) 貼り付け突帯後ナデ後刻み目・ハケメ (内) ハケメ	—	(5.1)	体部小片 0158 と同一の可能性	161
第14図31	Wトレ A2	弥生土器 甕	軟質	(にぶい黄橙 / 浅黄橙)	2mm 以下の長石・石英・結 晶片岩・角閃石・赤色粒子を 多量に含む	(外) ヨコナデ・貼付突帯後刻み目 (内) ハケメ	—	(2.9)	体部小片	163
第14図32	Wトレ A2	弥生土器 甕	軟質	(にぶい黄橙 / にぶい黄橙)	3mm 以下の長石・石英・赤 色粒子を含む	(外) 貼付突帯後刻み目・ヨコナデ (内) ハケメ	—	(4.9)	体部小片	142
第14図33	Wトレ A2	弥生土器 甕	軟質	(にぶい黄橙 / にぶい黄橙)	2mm 以下の長石・石英を含 む	(外) ハケメ後ナデ (内) ハケメ	—	(3.9)	坏部 1/8 黒斑あり	166
第14図34	Wトレ A2	弥生土器 高坏	軟質	(橙 / 橙)	3mm 以下の礫を含む 片岩・石英	(外) ヨコナデ・ナデ (内) ヨコナデ・ナデ	—	(2.9)	小片 R-113 にやや似る	R-118
第14図35	Wトレ A2	弥生土器 高坏	軟質	(橙 / 橙)	粗砂を含む 片岩・赤色粒・石英	(外) ヨコナデ・ナデ (内) ヨコナデ・ナデ	—	(2.7)	小片 R-118 にやや似る	R-113
第14図36	Wトレ A2	弥生土器 高坏	軟質	(橙 / 橙)	1mm 以下の長石・石英を含 む	(外) ハケメ (内) ヨコナデ	—	(6.3)	脚部小片	160
第14図37	Wトレ A2	弥生土器 高坏	軟質	(橙 / 赤橙)	粗砂を含む 片岩・赤色粒	(外) ヨコナデ (内) ヨコナデ	—	(3.0)	小片 外面に不純物の付着あり	R-117
第14図38	Wトレ A2	土師器 高坏	軟質	(にぶい黄橙 / 橙)	3mm 以下の礫を含む 片岩・赤色粒	(外) ハケメ後ヨコナデ・ヨコナデ (内) 不明	—	(2.9)	小片	R-112
第14図39	Wトレ A2	弥生土器 鉢	軟質	(にぶい橙 / にぶい黄橙)	2mm 以下の長石・石英・結 晶片岩・赤色粒子を含む	(外) ハケメ後ヨコナデ (内) ハケメ後ヨコナデ	—	(3.6)	口縁部小片	169
第14図40	Wトレ A2	土師器 甕	軟質	(にぶい黄橙 / にぶい黄橙)	1mm 以下の長石・石英を含 む	(外) ハケメ後ヨコナデ (内) ヨコナデ・ハケメ	—	(3.6)	口縁部小片	146
第14図41	Wトレ A2	土師器 甕	軟質	(にぶい橙 / にぶい黄橙)	1mm 以下の長石・石英・結 晶片岩を含む	(外) タタキ後ヨコナデ (内) ヨコナデ・ナデ	—	(2.4)	口縁部小片	145
第14図42	Wトレ A2	土師器 甕	軟質	(橙 / にぶい橙)	3mm 以下の長石・石英・赤 色粒子を含む	(外) ハケメ後ヨコナデ (内) ヨコナデ	—	(3.4)	口縁部小片	147
第14図43	Wトレ A2	土師器 甕	軟質	(にぶい橙 / 橙)	2mm 以下の礫を含む 片岩・石英	(外) ハケメ後ヨコナデ・ハケメ (内) ヨコナデ・ハケメ後ナデ	—	(6.3)	小片 内面に不純物の付着あり 外面スス付着	R-9
第14図44	Wトレ A2	弥生土器 甕	軟質	(橙 / 橙)	3mm 以下の長石・石英を含 む	(外) ハケメ・ヨコナデ (内) ハケメ・ヨコナデ	—	(3.8)	口縁部小片	154
第14図45	Wトレ A2	弥生土器 甕	軟質	(にぶい黄橙 / にぶい橙)	3mm 以下の砂礫を多く含む 石英・長石・片岩 赤味をおびた片岩を含む	(外) ヨコナデ・ナデ (内) ハケメ後ヨコナデ・ナデ	(21.4) —	(4.6)	口縁部 1/8	R-200
第14図46	Wトレ A2	弥生土器 甕	軟質	(橙 / 橙)	2mm 以下の長石・石英を含 む	(外) ハケメ後ヨコナデ (内) ハケメ後ヨコナデ (マメツ)	(24.4) —	(4.0)	口縁部 1/6	167
第14図47	Wトレ A2	土師器 高坏	軟質	(橙 / 橙)	1mm 以下の長石・石英を含 む	(外) ハケメ後ヨコナデ (内) ハケメ後ヨコナデ	—	(2.8)	口縁部小片 黒斑あり	149
第14図48	Wトレ A2	土師器 高坏	軟質	(褐灰 / 褐灰)	3mm 以下の長石・石英・結 晶片岩を含む	(外) ハケメ後ナデ (内) ヘラミガキ・綾り目・工具ナデ	—	(12.8)	接合部完存	165
第14図49	Wトレ A2	土師器 高坏	軟質	(橙 / 橙)	2mm 以下の粗砂を多く含む 片岩・赤色粒 赤味をおびた片岩を含む	(外) ヨコナデ (内) ヨコナデ	—	(3.1)	小片	R-110
第14図50	Wトレ A2	土師器 高坏	軟質	(にぶい黄橙 / にぶい黄橙)	1mm 以下の長石・石英を含 む	(外) ヨコナデ・ハケメ (内) ヨコナデ	—	(4.1)	脚部小片	148
第14図51	Wトレ A2	土師器 高坏	軟質	(橙 / 橙)	3mm 以下の長石・石英を含 む	(外) ナデ・ヨコナデ (内) ハケメ後ミガキ	—	(2.2)	脚部小片	168
第14図52	Wトレ A2	土師器 鉢	軟質	(にぶい黄橙 / にぶい黄橙)	1.5mm 以下の粗砂を含む 片岩・赤色粒	(外) ハケメ後ナデ (内) ハケメ後ナデ	(12.5) —	(5.2)	口縁部 1/8	R-10
第14図53	Wトレ A2	須恵器 甕	硬質	(黒褐 / 黒褐)	2mm 以下の粗砂を含む 片岩・赤色粒	(外) 回転ナデ (内) 回転ナデ	(9.0) —	(2.3)	口縁部 1/6 内面と外面の一部に自然 釉がかかる	R-115

押図番号	出土 地点	器形	焼成	色調 (外面/内面)	胎土	成形・整形手法等	寸 法		備 考 (種類・残存等)	実測図 番 号
							口径 (底径)	器高 (残存高)		
第15図1	Wトレ A3	土師器 甕	軟質	(にぶい橙/橙)	1mm以下の砂粒を多く含む 石英・長石を多く含む 角閃石が少量混じる	(外) ハケメ後ヨコナデ・ハケメ (内) ヨコナデ	(18.6) —	(4.3)	口縁部1/8 外面スス付着	R-201
第15図2	Wトレ A3	弥生土器 鉢	軟質	(浅黄橙/浅黄橙)	2mm以下の長石・石英・角 閃石・雲母を多量に含む	(外) ハケメ後ヨコナデ (内) ハケメ後ヨコナデ	(12.3) —	(6.7)	口縁部1/8	171
第15図3	Wトレ A3	弥生土器 壺	軟質	(にぶい黄橙/にぶい黄橙)	1mm以下の長石・石英を含む	(外) ハケメ・ヨコナデ (内) ハケメ	—	(7.3)	口縁部小片	170
第15図4	Wトレ A3	弥生土器 壺	軟質	(にぶい黄橙/にぶい黄橙)	1mm以下の長石・石英を含む	(外) ハケメ後ナデ (内) ハケメ	—	(3.8)	底部1/2	172
第15図5	トツナA3	弥生土器 壺	軟質	(にぶい橙/灰白)	1mm以下の長石・石英・赤 色粒子を含む	(外) ヨコナデ・貼付突帯のち刻み目・ハケメ (内) ハケメ	—	(4.9)	体部小片	228
第15図6	トツナA3	弥生土器 壺	軟質	(橙/橙)	2mm以下の長石・石英・結 晶片岩・雲母を含む	(外) 貼付突帯のちナデ後ヘラ描き文 (内) 接合面のハガレ	—	(2.8)	突帯部小片	229
第15図7	トツナA3	弥生土器 高坏	軟質	(にぶい黄橙/にぶい黄橙)	3mm以下の長石・石英を含む	(外) 指ナデ・工具ナデ・ナデ (内) ヘラミガキ	—	(6.2)	接合部完存	230
第15図8	トツナA3	弥生土器 高坏	軟質	(橙/黄灰)	1mm以下の長石・石英・赤 色粒子・黒曜石を含む	(外) マメツ・ハケメ後ヨコナデ (内) ハケメ後ヨコナデ	—	(3.2)	脚部小片	231
第15図9	トツナA3	土師器 甕	軟質	(淡橙/淡橙)	5mm以下の長石・石英・赤 色粒子を含む	(外) ハケメ後ヨコナデ (内) ヘラケズリ・ヨコナデ	(16.8) —	(11.8)	口縁部1/4	227
第15図10	トツナA3	土師器？ 甕	軟質	(にぶい黄橙/にぶい黄橙)	2mm以下の長石・石英を含む	(外) ハケメ・タタキ・ヨコナデ (内) ハケメ	(28.7) —	(10.4)	口縁部1/6 スス付着	226
第15図11	A1	弥生土器 甕	軟質	(灰黄褐/にぶい黄橙)	2mm以下の長石・石英・角 閃石を多量に含む	(外) ハケメ・ヨコナデ・タタキ後ハケメ (内) ハケメ後ヨコナデ	—	(5.8)	口縁部小片	39
第15図12	A1	弥生土器 鉢または高杯	軟質	(にぶい黄橙/にぶい黄橙)	5mm以下の長石・石英・結 晶片岩を多量に含む	(外) マメツ・ヨコナデ (内) ハケメ後ヨコナデ	—	(5.5)	口縁部小片	40
第15図13	A1	弥生土器 壺	軟質	(褐灰/褐灰)	粗砂を含む 片岩・角閃石・赤色粒	(外) ヨコナデ (内) ナデ	—	(1.7)	小片 両面に不純物の付着あり	R-131
第15図14	A2	弥生土器 壺	軟質	(浅黄橙/浅黄橙)	2mm以下の長石・石英・雲 母を多量に含む	(外) ヨコナデ後ハケメ (内) 指オサエ後ハケメ・ヨコナデ・ハケメ	(11.1)	(5.3)	口縁部小片 外面スス付着	42
第15図15	A2	弥生土器 甕	軟質	(にぶい黄橙/にぶい黄橙)	1mm以下の長石・石英を多 量に含む	(外) ハケメ後ヨコナデ・刻目 (内) ヨコナデ	—	(1.6)	口縁部小片 外面スス付着	41
第15図16	A2	弥生土器 高杯	軟質	(橙/橙)	1mm以下の長石・石英を少 量含む	(外) ハケメ後ヨコナデ (内) ハケメ後ナデ・ヨコナデ	—	(2.9)	脚部小片 全体にマメツ 内外面に丹塗りあり	43
第15図17	A3 下層	土師器 甕	軟質	(橙/橙)	8mm以下の長石・石英・赤 石粒子を多量に含む	(外) ヨコナデ (内) 工具ナデ後ヨコナデ・ヘラケズリ	(16.2)	(3.3)	口縁部1/6	46
第15図18	A3 下層	弥生土器 高坏	軟質	(橙/橙)	砂粒があまり入らない 石英・長石	(外) 不明 (内) 不明	—	(2.5)	小片	R-2
第15図19	A3 下層	弥生土器 鉢	軟質	(にぶい黄橙/にぶい黄橙)	1mm以下の長石・石英・角 閃石を多量に含む	(外) ハケメ・枝状工具による不定方向のナデ (強いハケメ) ヨコナデ (内) 工具ナデ後ヨコナデ	11.8	(6.6)	口縁部1/4 黒斑あり	45
第15図20	A3	弥生土器 甕	軟質	(浅黄橙/浅黄橙)	2mm以下の粗砂を含む 片岩・石英	(外) ヨコナデ (内) ヨコナデ	—	(4.6)	小片	R-100
第15図21	A3	弥生土器 高杯もしくは壺	軟質	(橙/橙)	1mm以下の長石・石英を多 量に含む	(外) ハケメ後ヨコナデ (内) ナデ・ハシケ	—	(5.4)	脚部小片	44
第15図22	A灰層	弥生土器 甕	軟質	(にぶい橙/にぶい黄橙)	1mm以下の長石・石英を多 量に含む	(外) ハケメ・ヨコナデ (内) ハケメ	—	(3.6)	口縁部小片	57
第15図23	A灰層	弥生土器 甕	軟質	(にぶい橙/灰白)	5mm以下の長石・石英・角 閃石・結晶片岩を多量に含む	(外) ハケメ後ヨコナデ (内) ハケメ後ヨコナデ	—	(3.1)	口縁部小片	56
第15図24	A灰層	弥生土器 甕	軟質	(にぶい橙/にぶい黄橙)	1mm以下の長石・石英・角 閃石を多量に含む	(外) ハケメ後ヨコナデ (内) ハケメ後ヨコナデ	—	(3.7)	口縁部小片 外面スス付着	53
第15図25	A灰層	弥生土器 甕	軟質	(にぶい黄橙/にぶい黄橙)	2mm以下の長石・石英を多 量に含む	(外) ハケメ後ヨコナデ (内) ハケメ後ヨコナデ	—	(3.2)	口縁部小片 黒斑あり	54
第15図26	A灰層	弥生土器 甕	軟質	(にぶい黄橙/にぶい黄橙)	2mm以下の粗砂を含む 片岩・石英・赤色粒	(外) ハケメ後ヨコナデ (内) ヨコナデ	—	(3.0)	小片	R-107
第15図27	A灰層	弥生土器 甕	軟質	(にぶい黄橙/橙)	1.5mm以下の粗砂を含む 片岩・赤色粒・石英	(外) ハケメ後ヨコナデ (内) ヨコナデ	—	(2.4)	小片	R-106
第15図28	A灰層	弥生土器 甕	軟質	(にぶい黄橙/にぶい黄橙)	2.5mm以下の礫を含む 片岩・赤色粒・石英・角閃石	(外) ヨコナデ (内) ヨコナデ	—	(2.8)	小片	R-103
第15図29	A灰層	弥生土器 甕	軟質	(にぶい黄橙/にぶい黄橙)	4mm以下の砂粒をやや多く 含む。角閃石・石英・長石	(外) ハケメ後ヨコナデ (内) ヨコナデ	—	(1.9)	口縁部小片 外面にススが付着す る。	R-6
第15図30	A灰層	弥生土器 甕	軟質	(浅黄橙/にぶい黄橙)	1.5mm以下の粗砂を含む 片岩・赤色粒・石英 胎土に砂粒を多く含む 石英・片岩・長石・赤色粒・ 黒色粒を含む	(外) ナデ・ハケメ (内) ナデ	—	(3.0)	小片 外面に暗褐色の物質が 付着する	R-101
第15図31	A灰層	弥生土器 甕	軟質	(明黄褐/明黄褐)	3mm以下の砂粒を多く含む 石英・長石・片岩・灰色粒	(外) ヨコナデ (内) ヨコナデ	—	(3.2)	口縁部小片	R-1
第15図32	A灰層	弥生土器 甕	軟質	(にぶい橙/にぶい黄橙)	2mm以下の長石・石英を含む	(外) ヨコナデ後キザミ目 (内) ハケメ	—	(2.6)	口縁部小片	62
第15図33	A灰層	弥生土器 甕	軟質	(灰黄褐/にぶい黄)	2mm以下の長石・石英・角 閃石を多量に含む	(外) ハケメ後ヨコナデ (内) キザミ目	—	(4.0)	口縁部小片 内面スス付着	58
第15図34	A灰層	弥生土器 甕	軟質	(灰黄褐/灰黄褐)	2mm以下の砂粒を多く含む 石英・長石・片岩・黒色粒	(外) キザミ・ヨコナデ (内) ヨコナデ	(21.5) —	(2.7)	口縁部1/10 刻目は左から右に施さ れる。両面黒斑あり。	R-5
第15図35	A灰層	弥生土器 甕	軟質	(にぶい橙/にぶい黄)	3mm以下の長石・石英・赤 石粒子を多量に含む	(外) ヨコナデ (内) ハケメ・ヨコナデ	(24.6)	(3.2)	口縁部1/6	48
第15図36	A灰層	弥生土器 甕	軟質	(にぶい黄橙/にぶい黄橙)	2mm以下の長石・石英・雲 母を多量に含む	(外) タタキ後ハケメ (内) ハケメ	—	(5.4)	体部小片 黒斑あり スス付着	52
第15図37	A灰層	弥生土器 甕	軟質	(灰黄褐/灰黄褐)	1mm以下の長石・石英を多 量に含む	(外) マメツ・ナデ (内) ハケメ	—	(6.5)	体部1/6	65
第15図38	A灰層	弥生土器 甕	軟質	(浅黄橙/にぶい黄橙)	3.5mm以下の砂礫を多く含む 石英・長石	(外) タタキ・ナデ・ハケメ (内) ハケメ	—	(6.7)	小片	R-26
第15図39	A灰層	弥生土器 壺	軟質	(にぶい黄橙/にぶい黄橙)	2mm以下の長石・石英を少 量含む	(外) マメツ (内) マメツ	—	(3.6)	口縁部小片	63
第15図40	A灰層	弥生土器 壺	軟質	(にぶい黄橙/にぶい黄橙)	5mm以下の礫を含む 片岩・石英	(外) ヨコナデ (内) ヨコナデ	—	(3.2)	小片	R-108
第15図41	A灰層	弥生土器 壺	軟質	(灰白/灰白)	2mm以下の長石・石英・角 閃石・雲母を多量に含む	(外) ハケメ (内) ハケメ	—	(3.7)	口縁部小片	51
第15図42	A灰層	弥生土器 鉢	軟質	(にぶい橙/にぶい黄)	2mm以下の長石・石英・雲 母・赤色粒子を多量に含む	(外) ハケメ後ヨコナデ (内) ハケメ後ヨコナデ	—	(3.9)	口縁部小片	64
第15図43	A灰層	弥生土器 高坏	軟質	(にぶい黄橙/にぶい黄橙)	2mm以下の礫を含む 石英・長石・角閃石を含む	(外) ヨコナデ・ハケメ後ナデ (内) ナデ	—	(3.0)	小片 口縁部破片 器表面に褐色・暗褐色 の物質付着	R-3
第15図44	A灰層	土師器 甕	軟質	(浅黄橙/浅黄橙)	1mm以下の長石・石英を多 量に含む	(外) ハケメ後ヨコナデ・スス付着 (内) ハケメ後ヨコナデ	—	(2.8)	口縁部小片 外面スス付着	55
第15図45	A灰層	弥生土器 甕	軟質	(灰白/灰白)	2mm以下の粗砂を含む 片岩・赤色粒	(外) ヨコナデ・剥離している (内) ヨコナデ	—	(2.5)	小片	R-105
第15図46	A灰層	土師器 甕	軟質	(橙/橙)	2mm以下の長石・石英・片 岩を多量に含む	(外) ハケメ・ヨコナデ (内) ヨコナデ	—	(2.1)	口縁部小片 被熱により赤色化	50
第15図47	A灰層	土師器 壺	軟質	(橙/にぶい黄橙)	2mm以下の粗砂を含む 片岩・赤色粒・石英	(外) ヨコナデ (内) ヨコナデ	—	(3.5)	小片	R-102
第15図48	A灰層	土師器 甕	軟質	(にぶい黄橙/にぶい黄橙)	1mm以下の長石・石英を多 量に含む	(外) ヨコナデ (内) ハケメ後ヨコナデ	—	(3.5)	口縁部小片 47と同一個体の可能性 あり	49
第15図49	A灰層	土師器 甕	軟質	(にぶい橙/にぶい黄)	1mm以下の長石・石英を少 量含む	(外) ハケメ後ヨコナデ (内) ハケメ後ヨコナデ	—	(3.0)	口縁部小片	59

神田番号	出土地点	器形	焼成	色調 (外面/内面)	胎土	成形・整形手法等	寸法		備考 (種類・残存等)	実測図 番号
							口径 (底径)	器高 (残存高)		
第15図50	A 灰層	土師器 甕	軟質	(浅黄橙 / によい黄橙)	3mm 以下の長石・石英・結 晶片岩を多量に含む	(外) 指オサエ・タキ後ハケメ・ナデ・ヨコナデ (内) ヨコナデ・ヘラケズリから工具ナデ	—	(8.3)	頸部 1/4 49 が同一個体の可能性 あり	47
第16図1	A 灰層	土師器 高坏	軟質	(によい黄橙 / によい黄橙)	胎土に砂粒が少ない 石英・長石を含む	(外) ミガキ (内) ミガキ ナデ	(17.0)	(2.8)	底部 1/5	R-4
第16図2	A 灰層	土師器 高坏	軟質	(によい黄橙 / によい黄橙)	6mm 以下の礫を含む 片岩・赤色粒	(外) ミガキ (内) ナデ	(18.0)	(2.8)	脚部 1/5 R-4 と類似	R-104
第16図3	A 灰層	土師器 高坏	軟質	(橙 / 橙)	2mm 以下の礫を含む 片岩・角閃石	(外) ミガキ (内) ナデ	—	(2.0)	小片	R-7
第16図4	A 灰層	土師器 高坏	軟質	(によい橙 / 橙)	1mm 以下の長石・石英・雲 母を多量に含む	(外) マメツ・ハケメ (内) ナデ・工具後ヨコナデ	—	(3.4)	脚部 5/6	60
第16図5	A 灰層	土師器 高坏	軟質	(によい橙 / によい橙)	1mm 以下の長石・石英を少 量含む	(外) ナデ・ハケメ (内) ナデ	—	(3.4)	脚接合部 7/8	61
第16図6	A 灰層	把手	軟質	(によい橙)		(外) 指おさえ			長さ 3.3cm 幅 1.7cm 厚さ 1.6cm	R-211
第16図7	W トレ B1	弥生土器 甕	軟質	(によい橙 / 灰白)	2mm 以下の長石・石英・赤 色粒子・雲母を含む	(外) マメツ・ハケメ後ヨコナデ (内) ハケメ後ヨコナデ	(17.4) —	(5.8)	口縁部 1/8	177
第16図8	W トレ B1	弥生土器 甕	軟質	(によい橙 / によい橙)	1mm 以下の長石・石英・赤 色粒子を含む	(外) ハケメ後ヨコナデ (内) ハケメ	—	(1.5)	口縁部小片	174
第16図9	W トレ B1	弥生土器 甕	軟質	(によい橙 / によい橙)	2mm 以下の長石・石英・角 閃石を含む	(外) ヨコナデ・ハケメ (内) ヨコナデ・ハケメ	(19.7) —	(9.4)	口縁部小片	176
第16図10	W トレ B1	弥生土器 甕もしくは甕	軟質	(によい橙 / によい橙)	5mm 以下の長石・石英・結 晶片岩・赤色粒子を含む	(外) ハケメ・貼付突帯後ナデ後刻み目 (内) 指オサエ後ハケメ・マメツ	—	(13.1)	体部小片	175
第16図11	W トレ B1	土師器 甕	軟質	(橙 / 浅黄橙)	2mm 以下の長石・石英を含 む	(外) ハケメ後ヨコナデ (内) ハケメ後ヨコナデ	—	(3.0)	口縁部小片	173
第16図12	W トレ B1	土師器 甕	軟質	(によい橙 / によい橙)	3mm 以下の長石・石英・角 閃石・結晶片岩・赤色粒子を 含む	(外) ハケメ後ナデ・ヨコナデ (内) ハケメ後ヨコナデ	(12.4) —	(6.7)	口縁部 1/8 スス付着	178
第16図13	トレンチ B1	弥生土器 甕	軟質	(灰黄褐 / 灰黄褐)	1mm 以下の長石・石英を含 む	(外) ハケメ・ハケメ後ヨコナデ (内) ハケメ・ナデ	(5.5) —	(7.1)	底部 2/5 黒斑あり	232
第16図14	W トレ B2	弥生土器 甕	軟質	(灰白 / 灰白)	2mm 以下の長石・石英・角 閃石を含む	(外) ヨコナデ・ハケメ (内) ハケメ・指オサエ	(20.1) —	(7.8)	口縁部 1/5	179
第16図15	W トレ B2	弥生土器 鉢	軟質	(によい橙 / によい橙)	5mm 以下の長石・石英を含 む	(外) 工具ナデ・ヨコナデ (内) 工具ナデ・ヨコナデ	(10.4) —	(5.8)	口縁部 1/8	181
第16図16	W トレ B2	弥生土器 筒形器台	軟質	(によい橙 / によい黄橙)	3mm 以下の長石・石英・角 閃石・結晶片岩・雲母を含む	(外) タタキ後ハケメ後ナデ (内) ヘラケズリ	(11.4) —	(5.8)	底部 1/6	180
第16図17	W トレ B3 上層	土師器 甕	軟質	(橙 / 橙)	1mm 以下の長石・石英・赤 色粒子を含む	(外) ハケメ後ヨコナデ (内) 工具ナデ・ヨコナデ	(13.2) —	(5.6)	口縁部 1/8 0182 と同一か	183
第16図18	W トレ B3 上層	土師器 甕	軟質	(橙 / 橙)	2mm 以下の長石・石英・赤 色粒子を含む	(外) ハケメ・ヨコナデ (内) ヘラケズリ・ヨコナデ	(13.2) —	(5.3)	口縁部 1/5 0183 と同一か	182
第16図19	W トレ B3 上層	土師器 高坏	軟質	(橙 / 橙)	1mm 以下の長石・石英を含 む	(外) ハケメ・マメツ (内) シボリ目・ハケメ	—	(8.8)	脚部完存	184
第16図20	W トレ B3 上層	ミニチュア土器 器台	軟質	(橙 / 橙)	1mm 以下の粗砂を含む 片岩	(外) 強いナデ (内) 指押さえ	(2.5) —	(3.3)	ほぼ完形	R-24
第16図21	E トレ B3	須恵器 坏蓋	硬質	(青灰 / 青灰)	1mm 以下の長石・石英を含 む	(外) 回転ナデ後回転ヘラケズリ (内) 回転ナデ	(13.0) —	(4.3)	口縁部 1/5	133
第16図22	W トレ B4 下層	土師器 坏蓋	軟質	(浅黄橙 / 浅黄橙)	3mm 以下の長石・石英・赤 色粒子を含む	(外) 回転ナデ・回転ヘラケズ (内) 回転ナデ後仕上げナデ後ヘラ記号	12.8 —	(4.3)	口縁部 3/4	186
第16図23	W トレ B4	弥生土器 甕	軟質	(灰白 / 灰白)	1mm 以下の長石・石英を含 む	(外) ヨコナデ・ハケメ (内) ヨコナデ後ハケメ	—	(4.4)	口縁部小片	185
第16図24	W トレ B4	弥生土器 甕	軟質	(によい黄橙 / によい黄橙)	砂粒を多く含む 片岩・長石	(外) キザミメ・ヨコナデ (内) ハケメ後ヨコナデ	—	(2.9)	小片	R-134
第16図25	B1	弥生土器 器台	軟質	(によい橙 / 橙)	3mm 以下の長石・石英・角 閃石・雲母を多量に含む	(外) 工具ナデ後ヨコナデ (内) ハケメ後ヨコナデ	—	(2.4)	脚部小片 内面被熱により赤色化	66
第16図26	B1	土師器 甕	軟質	(によい黄褐 / によい黄橙)	粗砂を含む 片岩・石英	(外) ヨコナデ (内) ヨコナデ	—	(2.6)	小片 内面に不純物の付着あり R-126 と似た形	R-119
第16図27	B2	弥生土器 甕	軟質	(灰白 / 灰白)	1mm 以下の長石・石英を多 量に含む	(外) ハケメ・刻目 (内) ハケメ	—	(3.8)	口縁部 小片 黒斑あり	67
第16図28	B2	土師器 坏蓋	軟質	(橙 / 橙)	1mm 以下の長石・石英を含 む	(外) 回転ナデ・回転ヘラケズリ (内) 回転ナデ・仕上げナデ	(6.4) —	4.5 (12.5)	口縁から底面 1/8 黒斑あり	68
第16図29	B2	土師器 甕	軟質	(橙 / によい黄橙)	1mm 以下の粗砂を含む 片岩	(外) ヨコナデ・ハケメ (内) ヨコナデ・ハケメ・ナデ・ケズリ	(24.8) —	(3.7)	口縁部 1/8 内面不純物付着あり	R-203
第16図30	B4	土師器 甕	軟質	(浅黄橙 / 橙)	2mm 以下の長石・石英・角 閃石・雲母を多量に含む	(外) ハケメ後ヨコナデ (内) ヘラケズリ後ヨコナデ	—	(4.1)	黒斑あり	69
第16図31	B4	弥生土器 甕	軟質	(橙 / によい橙)	4mm 以下の砂礫を多く含む 石英・長石 銅色の薄い粒子 が入る	(外) ヨコナデ (内) ハケメ	—	(7.8)	小片	R-120
第16図32	B 黄層	弥生土器 甕	軟質	(によい黄橙 / 褐灰)	3mm 以下の長石・石英を多 量に含む	(外) 工具ナデ・ナデ (内) 指オサエ後ナデ	(7.0) —	(2.0)	底部 1/5 スス付着	70
第16図33	B 黄層	土師器 甕	軟質	(によい黄橙 / 浅黄橙)	1mm 以下の長石・石英を多 量に含む	(外) ハケメ・ヨコナデ (内) ハケメ・ヨコナデ	—	(3.3)	口縁部小片	71
第16図34	B 黄層	土師器 坏	軟質	(橙 / によい橙)	3mm 以下の長石・石英・赤 色粒子を少量含む	(外) ヘラミガキ・ヘラケズリ (内) ヘラミガキ	—	(2.1)	体部 1/6	73
第16図35	B 黄層	須恵器 高坏	硬質	(灰 / 灰)	2mm 以下の長石・石英を少 量含む	(外) 回転ナデ後カキ目後透かし孔 (上下 4ヶ所) 沈線 2 条 (内) 回転ナデ・回転ナデ後紋目	—	(8.7)	脚部 1/2 透孔 2 段	72
第16図36	W トレ C1	弥生土器 甕	軟質	(浅黄橙 / 浅黄橙)	2mm 以下の長石・石英・角 閃石・結晶片岩・赤色粒子を 含む	(外) ハケメ後ヨコナデ (内) ハケメ後ヨコナデ	—	(3.7)	口縁部小片	188
第16図37	W トレ C1	弥生土器 甕	軟質	(灰黄褐 / によい橙)	3mm 以下の長石・石英・角 閃石・結晶片岩・赤色粒子を 含む	(外) ハケメ後ヨコナデ (内) ハケメ後ヨコナデ・ナデ	—	(3.6)	口縁部小片 黒斑あり	190
第16図38	W トレ C1	弥生土器 甕	軟質	(によい黄橙 / によい黄橙)	2mm 以下の長石・石英・角 閃石を含む	(外) マメツ・ハケメ後ナデ (内) マメツ・ナデ・工具ナデ・ハケメ・指ナデ・ 工具ナデ後ハケメ	(33.0) —	(13.1)	口縁部 大型品	191
第16図39	W トレ C1	弥生土器 鉢	軟質	(灰黄褐 / 灰白)	2mm 以下の長石・石英・角 閃石を含む	(外) ハケメ後ヨコナデ (内) ハケメ後ヨコナデ	—	(4.0)	口縁部小片	193
第16図40	W トレ C1	弥生土器 高坏	軟質	(によい赤褐 / によい赤褐)	2mm 以下の長石・石英・赤 色粒子を含む	(外) 工具ナデ (内) ヘラミガキ・ナデ・紋目	—	(8.9)	接合部 1/2	192
第16図41	W トレ C1	土師器 甕	軟質	(によい黄橙 / によい黄橙)	1mm 以下の長石・石英を含 む	(外) ヨコナデ・ナデ・ハケメ (内) ハケメ・ナデ	—	(4.4)	口縁部小片 黒斑あり	189
第16図42	W トレ C1	土師器 甕	軟質	(黒褐 / 黒褐)	1mm 以下の長石・石英・雲 母を含む	(外) ナデ後ヨコナデ (内) ハケメ・ヨコナデ・ナデ	(14.0) —	(2.0)	口縁部 1/6 黒斑あり	187
第16図43	W トレ C1	土師器 高坏	軟質	(橙 / 橙)	0.5mm 以下の粗砂を含む 片岩	(外) 不明 (内) ハケメ後ナデ	—	(1.7)	小片	R-23
第16図44	W トレ C1	ミニチュア土器 器台	軟質	(橙 / 橙)	ほとんど砂粒が入らない	(外) 強いナデ (内) 指おさえ	—	(3.2)	脚部 不純物の付着あり	R-207
第16図45	W トレ C1	青磁 椀	硬質	(灰オリブ / 灰オリブ)	緻密で精良	(外) 回転ナデ・文様 (内) 回転ナデ	—	(1.6)	小片 黄色みをおびた緑色 両面施釉	R-205
第16図46	トレンチ C1	須恵器 高坏	硬質	(灰白 / 灰白)	2mm 以下の長石・石英を含 む	(外) 回転ナデ・回転ヘラケズリ・貼付け後ナデ後 (内) 回転ナデ (自然軸) 透孔	—	(4.8)	接合部完存 重ねて焼いた時自然軸 がかかりはがしたあ と・回転ナデ後透し 4 万	233

押出番号	出土 地点	器形	焼成	色調 (外面/内面)	胎土	成形・整形手法等	寸法		備考 (種類・残存等)	実測図 番 号
							口径 (底径)	器高 (残存高)		
第16図47	Wトレ C2	石製品 磁石	—	(灰白)					長さ 7.8cm 幅 3.8cm 厚さ 1.7cm 重さ 186.5g	R-212
第17図1	Wトレ C2	弥生土器 甕	軟質	(灰白/ におい黄橙)	1mm以下の長石・石英・角 閃石を含む	(外) ヨコナデ・ハケメ (内) ハケメ	—	(2.0)	口縁部小片 外面スス付着	196
第17図2	Wトレ C2	弥生土器 甕	軟質	(におい橙/ におい黄橙)	2mm以下の長石・石英・結 晶片岩・赤色粒子を含む	(外) タタキ後ハケメ・ヨコナデ (内) ハケメ・ヨコナデ	—	(3.0)	口縁部小片 被熱痕あり	194
第17図3	Wトレ C2	弥生土器 甕	軟質	(浅黄橙/ 浅黄橙)	1mm以下の長石・石英を含 む	(外) ヨコナデ・ハケメ (内) ハケメ	—	(2.0)	口縁部小片	195
第17図4	Wトレ C2	弥生土器 甕	軟質	(におい褐/ 黒)	1mm以下の長石・石英を含 む	(外) ハケメ後ナデ (内) ハケメ	—	(3.9)	底部 1/3 内黒	199
第17図5	Wトレ C2	弥生土器 甕	軟質	(におい黄橙/ におい黄橙)	2mm以下の長石・石英・結 晶片岩を含む	(外) ヨコナデ後刻み目・ハケメ後ヨコナデ (内) ヨコナデ	—	(1.7)	口縁部小片	198
第17図6	Wトレ C2	弥生土器 甕	軟質	(灰白/ 灰白)	4mm以下の長石・石英・赤 色粒子を含む	(外) ハケメ後ヨコナデ・剥突文 (内) ハケメ後ヨコナデ・剥突文	(20.0)	(4.9)	口縁部 1/4	197
第17図7	Wトレ C2	土師器 高坏	軟質	(におい橙/ におい橙)	粗砂を含む 片岩・赤色粒	(外) ナデ (内) ナデ	—	(2.9)	小片	R-137
第17図8	Eトレ C3	弥生土器 甕	軟質	(におい橙/ におい橙)	2mm以下の長石・石英・赤 色粒子を含む	(外) ハケメ後ヨコナデ (内) ハケメ後ヨコナデ	—	(3.6)	口縁部小片	135
第17図9	Eトレ C3	弥生土器 甕	軟質	(灰黄褐/ 灰黄褐)	1mm以下の長石・石英・角 閃石・赤色粒子を含む	(外) ヨコナデ後刻み目・ハケメ (内) ヨコナデ・ハケメ	—	(3.7)	口縁部小片	136
第17図10	Eトレ C3	弥生土器 甕	軟質	(におい黄橙/ におい黄橙)	1mm以下の長石・石英・赤 色粒子を含む	(外) ハケメ・ヨコナデ後刻み目 (内) ハケメ・ヨコナデ後刻み目	—	(3.0)	口縁部小片	134
第17図11	Eトレ C3	弥生土器 鉢	軟質	(におい黄橙/ 灰黄褐)	2mm以下の長石・石英・結 晶片岩・赤色粒子を含む	(外) ハケメ後ヨコナデ剥突文 (内) ハケメ後ヨコナデ	—	(4.1)	口縁部小片	139
第17図12	Eトレ C3	土師器 高坏	軟質	(橙/ 橙)	1mm以下の長石・石英を含 む	(外) ヨコナデ後ハケメ (内) ハケメ	—	(2.9)	脚部小片	138
第17図13	Eトレ C3	土師器 高坏	軟質	(におい黄橙/ 浅黄橙)	1mm以下の長石・石英・赤 色粒子を含む	(外) ハケメ後ナデ (内) マメツ	—	(3.0)	底部小片 黒斑あり	137
第17図14	攪乱 C3	土師器 高坏	軟質	(橙/ 橙)	3.5mm以下の礫を含む 片岩・石英	(外) 不明 (内) 不明	— (12.5)	(2.4)	脚部 1/8	R-14
第17図15	Wトレ C4	弥生土器 甕	軟質	(灰白/ 灰白)	2mm以下の長石・石英・赤 色粒子を含む	(外) ハケメ後ヨコナデ (内) ハケメ後ヨコナデ	(12.8)	(3.3)	口縁部 1/7	200
第17図16	Wトレ C4	弥生土器 甕	軟質	(におい黄橙/ におい黄橙)	3mm以下の長石・石英・結 晶片岩・角閃石を含む	(外) 工具ナデ (内) 工具ナデ	— (4.0)	(4.0)	底部 1/3	203
第17図17	Wトレ C4	土師器 甕	軟質	(におい橙/ におい橙)	4mm以下の長石・石英・赤 色粒子を含む	(外) ハケメ後ヨコナデ (内) ヘラズリ後ハケメ後ヨコナデ	(15.6)	(4.2)	口縁部 1/6	201
第17図18	Wトレ C4	弥生土器 甕	軟質	(橙/ 橙)	1mm以下の長石・石英を含 む	(外) ヨコナデ後ミガキ (内) ヨコナデ後ミガキ・ハケメ	(13.0)	(3.7)	口縁部 1/4	202
第17図19	C黄層	弥生土器 甕	軟質	(におい黄橙/ 灰白)	1mm以下の長石・石英・角 閃石を多量に含む	(外) ハケメ後ヨコナデ (内) ハケメ ヨコナデ	—	(3.0)	口縁部小片	74
第17図20	C黄層	弥生土器 甕	軟質	(におい黄橙/ におい黄橙)	1mm以下の長石・石英・角 閃石を多量に含む	(外) ハケメ後ヨコナデ (内) ハケメ	—	(3.8)	口縁部小片 外面スス付着	79
第17図21	C黄層	弥生土器 甕	軟質	(におい黄橙/ におい黄橙)	2mm以下の長石・石英・角 閃石・赤色粒子を多量に含む	(外) ハケメ後ヨコナデ (内) ハケメ	—	(3.6)	口縁部小片	75
第17図22	C黄層	弥生土器 甕	軟質	(灰黄/ 灰黄)	粗砂を多く含む 石英・長石	(外) ヨコナデ (内) ハケメ	—	(3.7)	小片	R-125
第17図23	C黄層	弥生土器 甕	軟質	(におい黄橙/ 灰白)	1mm以下の粗砂を含む 片岩	(外) ヨコナデ・ハケメ後ヨコナデ・ハケメ (内) ヨコナデ・ハケメ	—	(4.4)	小片	R-12
第17図24	C黄層	弥生土器 甕	軟質	(におい黄橙/ 褐灰)	2mm以下の長石・石英・角 閃石・赤色粒子を多量に含む	(外) ハケメ後ヨコナデ・ナデ (内) ハケメ後ヨコナデ・ナデ	—	(4.8)	口縁部小片	76
第17図25	C黄層	弥生土器 甕	軟質	(灰白/ 灰白)	1mm以下の長石・石英・雲 母を多量に含む	(外) ハケメ後ヨコナデ・ナデ (内) ハケメ後ヨコナデ	—	(4.5)	口縁部小片	78
第17図26	C黄層	弥生土器 甕	軟質	(灰白/ 褐灰)	3mm以下の長石・石英・角 閃石・雲母を多量に含む	(外) 貼り付け突帯後ハケメ後ナデ (内) ナデ・工具ナデ後指オサエ	—	(7.1)	体部小片	80
第17図27	C黄層	弥生土器 高坏	軟質	(灰白/ 灰白)	1mm以下の長石・石英を多 量に含む	(外) ハケメ・不定方向のナデ (内) ナデ・ヨコナデ	—	(6.1)	口縁部小片	97
第17図28	C黄層	弥生土器 高坏	軟質	(におい黄橙/ におい黄橙)	1mm以下の長石・石英を多 量に含む	(外) ハケメ・ヘラミガキ・ヨコナデ (内) ハケメのヘラミガキ・ナデ	—	(5.1)	口縁部小片	77
第17図29	C黄層	弥生土器 高坏	軟質	(浅黄橙/ 浅黄橙)	2mm以下の長石・石英・角 閃石を含む	(外) ハケメ後ヨコナデ (内) ハケメ後ヨコナデ	—	(2.0)	脚部小片 黒斑あり	82
第17図30	C黄層	弥生土器 鉢	軟質	(橙/ 橙)	1mm以下の長石・石英を含 む	(外) ハケメ後ヨコナデ (内) ハケメ後ヨコナデ	—	(4.3)	口縁部小片	83
第17図31	C黄層	弥生土器 鉢	軟質	(灰白/ 灰白)	2mm以下の長石・石英・結 晶片岩を多く含む	(外) マメツ (内) マメツ	—	(3.8)	口縁部小片	85
第17図32	C黄層	土師器 甕	軟質	(橙/ 橙)	5mm以下の礫を含む 片岩・赤色粒	(外) ヨコナデ (内) ヨコナデ・ケズリ	—	(2.9)	小片 口縁部と内面に不純物の 付着あり	R-13
第17図33	C黄層	土師器 甕	軟質	(浅黄橙/ 灰白)	粗砂を含む 片岩・石英 石英を多く含む	(外) 回転ナデ (内) 回転ナデ	—	(2.5)	小片	R-124
第17図34	C黄層	土師器 鉢	軟質	(におい橙/ 浅黄橙)	1mm以下の長石・石英を含 む	(外) ヨコナデ・指オサエ後ハケメ (内) ヨコナデ・指オサエ後ハケメ	—	(4.2)	口縁部小片	84
第17図35	C黄層	土師器 器台	軟質	(におい黄橙/ におい橙)	1mm以下の長石・石英・角 閃石を多量に含む	(外) ハケメ後ヨコナデ (内) ハケメ後ヨコナデ	—	(2.2)	底部小片	81
第17図36	C黄層	土師器 高坏	軟質	(におい橙/ におい赤褐)	砂粒をあまり含まない	(外) ヨコナデ (内) ヨコナデ	—	(2.1)	小片 外面に不純物の付着あり	R-123
第17図37	C黄層	土師器 高坏	軟質	(におい橙/ 灰黄褐)	粗砂を含む 片岩	(外) ハケメ後ナデ (内) ハケメ	—	(2.7)	小片 両面に不純物の付着あり 内面にスス付着	R-122
第17図38	C黄層	土師器 高坏	軟質	(橙/ 橙)	2mm以下の長石・石英・赤 色粒子を含む	(外) ハケメ後ヨコナデ (内) ミガキ後ナデ	—	(2.9)	接合部 8/8	96
第17図39	C黄層	土製品	軟質	(橙)	1mm以下の粗砂を含む 片岩・石英	ナデ			長さ 5.3cm 幅 2.15cm 厚さ 0.6cm	R-28
第17図40	C黄層	土師器 甕	軟質	(灰/ におい橙)	3.5mm以下の礫を含む 片岩・赤色粒・黒色粒	(外) ハケメ (内) ケズリ	—	(2.1)	小片 確認できる穿孔は4カ 所 穿孔のある底部片 外面の孔が径が大きい	R-153
第17図41	C黄層	土製品 匙	軟質	(におい橙/ におい橙)	2mm以下の粗砂を多く含む 片岩・赤色粒・石英・長石	ユビオサエ			長さ 4.5cm 幅 2.8cm 厚さ 1.4cm 不純物の付着あり	R-150
第17図42	C砂層	弥生土器 甕	軟質	(におい黄橙/ におい黄橙)	0.5mm以下の粗砂を含む 片岩・長石	(外) 不明・ハケメ (内) 不明	—	(3.1)	小片 口縁部と内面に不純物の 付着あり 口縁部スス付着	R-11
第17図43	C砂層	土師器 甕	軟質	(におい橙/ におい橙)	1mm以下の長石・石英・雲 母を多量に含む	(外) ハケメ後ヨコナデ (内) 不明	—	(3.0)	口縁部小片	95
第17図44	C砂層	土師器 高坏	軟質	(橙/ 橙)	粗砂を含む 片岩・赤色粒	(外) ハケメ後ヨコナデ (内) ヨコナデ	—	(2.5)	小片	R-121
第17図45	Wトレ D2下層	土師器 甕	軟質	(におい黄橙/ におい褐)	6mm以下の長石・石英・赤 色粒子を含む	(外) ハケメ後ヨコナデ (内) ハケメ後ヨコナデ	—	(2.2)	口縁部小片	223
第17図46	Wトレ D2下層	弥生土器 甕	軟質	(におい黄橙/ におい黄橙)	2mm以下の長石・石英・結 晶片岩を含む	(外) ハケメ (内) ハケメ	—	(4.7)	口縁部小片 スス付着・被熱痕あり	221
第17図47	Wトレ D2下層	弥生土器 甕	軟質	(におい橙/ におい黄橙)	2mm以下の長石・石英・結 晶片岩を含む	(外) ハケメ・貼付突帯後ハケメ (内) ハクラク	—	(4.9)	体部小片 幅広突帯	224

挿入番号	出土 地点	器形	焼成	色調 (外面/内面)	胎土	成形・整形手法等	寸 法		備 考 (種類・残存等)	実測図 番号
							口径 (底径)	器高 (残存高)		
第17図48	Wトレ D2 下層	弥生土器 高坏	軟質	(灰白 / 浅黄橙)	2mm 以下の長石・石英・角 閃石・赤色粒子を含む	(外) ハケメ後ヨコナデ (内) ハケメ後ヨコナデ	—	(2.5)	口縁部小片 黒斑あり	222
第17図49	Wトレ D2 下層	弥生土器 高坏	軟質	(浅黄橙 / 浅黄橙)	3mm 以下の長石・石英・結 晶片岩・赤色粒子・黒曜石を 含む	(外) ハケメ後ヨコナデ (孔の一部残存) (内) ハケメ後ヨコナデ	— (11.6)	(1.5)	脚部 1/6	225
第17図50	Wトレ D2	弥生土器 甕	軟質	(浅黄橙 / 浅黄橙)	3mm 以下の長石・石英を含 む	(外) ハケメ後ヨコナデ (内) ハケメ後ヨコナデ	—	(3.1)	口縁部小片	206
第17図51	Wトレ D2	弥生土器 甕	軟質	(橙 / にい黄)	2mm 以下の長石・石英・雲 母を含む	(外) ハケメ後ヨコナデ (内) ハケメ後ヨコナデ	—	(2.4)	口縁部小片	207
第17図52	Wトレ D2	弥生土器 甕	軟質	(灰黄褐 / 灰黄褐)	1mm 以下の長石・石英を含 む	(外) ハケメ後ヨコナデ (内) ハケメ後ヨコナデ	—	(1.9)	口縁部小片	209
第17図53	Wトレ D2	弥生土器 甕	軟質	(にい黄 / 橙)	3mm 以下の長石・石英・結 晶片岩・赤色粒子を含む	(外) ミガキ (マメツ) 後ヨコナデ (内) ミガキ	—	(2.7)	口縁部小片 黒斑あり	204
第17図54	Wトレ D2	弥生土器 甕	軟質	(浅黄橙 / 浅黄橙)	3mm 以下の長石・石英・結 晶片岩・赤色粒子を含む	(外) ハケメ後ヨコナデ (内) ハケメ後ヨコナデ	—	(4.5)	口縁部小片	208
第17図55	Wトレ D2	弥生土器 甕	軟質	(にい黄 / 浅黄橙)	2mm 以下の長石・石英・結 晶片岩・赤色粒子を含む	(外) ハケメ後ヨコナデ (内) ハケメ後ヨコナデ・ハケメ後ナデ	(26.6)	(2.5)	口縁部 1/10	205
第17図56	Wトレ D2	土師器 鉢	軟質	(灰黄褐 / 灰黄褐)	2mm 以下の長石・石英を含 む	(外) ハケメ後ヨコナデ・ミガキ (内) ナデ後ヨコナデ	(7.8)	(4.0)	口縁部 1/5	211
第17図57	Wトレ D2	土師器 高坏	軟質	(橙 / 橙)	1mm 以下の長石・石英を含 む	(外) マメツ・ヨコナデ (内) マメツ・ヨコナデ	—	(1.8)	脚部小片	210
第17図58	トッパ D2 黄層	弥生土器 甕	軟質	(灰白 / 灰白)	1mm 以下の長石・石英・角 閃石を含む	(外) ヨコナデ・ハケメ (内) ハケメ	—	(3.0)	口縁部小片	234
第17図59	トッパ D2 黄層	弥生土器 甕	軟質	(灰白 / 灰白)	粗砂を含む 片岩・赤色粒・角閃石	(外) ナデ (内) ハケメ・不明	—	(3.4)	小片	R-138
第17図60	トッパ D2 黄層	弥生土器 甕	軟質	(灰黄褐 / 灰黄褐)	1mm 以下の長石・石英を含 む	(外) ハケメ (内) ハケメ	—	(4.2)	体部小片	235
第17図61	トッパ D2 黄層	弥生土器 鉢	軟質	(にい黄 / にい黄)	1mm 以下の長石・石英・角 閃石を含む	(外) ハケメ・ヨコナデ (内) 工具ナデ	—	(5.2)	口縁部小片	236
第17図62	トッパ D2 黄層	土師器 甕	軟質	(にい黄 / 浅黄橙)	2mm 以下の粗砂を含む 片岩・赤色粒・角閃石	(外) ヨコナデ (内) 不明・ハケメ	(24.0)	(3.8)	口縁部 1/10	R-139
第17図63	トッパ D3	土師器 器台	軟質	(にい黄 / にい黄)	3mm 以下の長石・石英・結 晶片岩を含む	(外) ハケメ・ナデ (内) ハケメ	—	(5.0)	底部小片 スス付着	237
第17図64	トッパ D3	土師器 高坏	軟質	(橙 / 橙)	1mm 以下の長石・石英を含 む	(外) 工具ナデ・ヨコナデ (内) ハケメ	—	(3.5)	脚部小片	238
第18図1	Wトレ D4	弥生土器 甕	軟質	(浅黄橙 / 浅黄橙)	2mm 以下の長石・石英・赤 色粒子を含む	(外) ハケメ後ヨコナデ後側突文 (内) ハケメ後ヨコナデ	—	(3.2)	口縁部小片	216
第18図2	Wトレ D4	弥生土器 甕	軟質	(橙 / 橙)	2mm 以下の長石・石英・赤 色粒子を含む	(外) ハケメ後ヨコナデ (内) ハケメ後ヨコナデ	—	(5.3)	口縁部小片	218
第18図3	Wトレ D4	弥生土器 甕	軟質	(にい黄 / にい黄)	3mm 以下の長石・石英・雲 母を含む	(外) ハケメ後ヨコナデ・貼付突帯後刻み目・ハケ メ (内) ハケメ・ハクラク	—	(6.6)	体部小片	217
第18図4	Wトレ D4	土師器 高坏	軟質	(橙 / 橙)	2mm 以下の長石・石英・赤 色粒子を含む	(外) マメツ (内) マメツ	—	(3.9)	口縁部小片 被熱痕あり	220
第18図5	Wトレ D4	土師器 高坏	軟質	(橙 / 橙)	1mm 以下の長石・石英・赤 色粒子を含む	(外) 工具ナデ・ヨコナデ (内) ナデ	10.7	(6.2)	脚部 2/3	219
第18図6	Wトレ D4	土師器 甕	軟質	(にい黄 / にい黄)	2mm 以下の長石・石英を含 む	(外) マメツ (内) マメツ	—	(3.7)	口縁部小片	215
第18図7	Wトレ D4	土師器 甕	軟質	(橙 / にい黄)	2mm 以下の長石・石英を含 む	(外) ハケメ後ヨコナデ (内) ヨコナデ・ヘラケズリ・指オサエ	—	(5.9)	口縁部小片 スス付着	214
第18図8	Wトレ D4	土師器 甕	軟質	(にい黄 / にい黄)	1mm 以下の長石・石英を含 む	(外) ハケメ後ヨコナデ (内) ハケメ後ヨコナデ・ヘラケズリ	18.4	(11.6)	口縁部 7/8	212
第18図9	Wトレ D4	土師器 甕	軟質	(にい黄 / にい黄)	2mm 以下の長石・石英・赤 色粒子・雲母を含む	(外) タタキ後ハケメ・ヨコナデ (内) ヘラケズリ後ヨコナデ	(12.6) 7.9	(18.4)	口縁部 1/2 黒斑あり	213
第18図10	D2 黄層	弥生土器 甕	軟質	(浅黄橙 / 浅黄橙)	2mm 以下の長石・石英・赤 色粒子を含む	(外) ハケメ後ヨコナデ (内) ハケメ・マメツ・ヨコナデ	—	(4.2)	口縁部小片	90
第18図11	D2 黄層	弥生土器 甕	軟質	(浅黄橙 / 浅黄橙)	1mm 以下の長石・石英を含 む	(外) ヨコナデ後ハケメ (内) ハケメ	—	(2.3)	口縁部小片	87
第18図12	D2 黄層	弥生土器 甕	軟質	(灰黄 / 浅黄橙)	2mm 以下の長石・石英を含 む	(外) ハケメ後ヨコナデ (内) ハケメ後ヨコナデ	—	(2.5)	口縁部小片	89
第18図13	D2 黄層	弥生土器 甕	軟質	(にい黄 / にい黄)	1mm 以下の長石・石英を含 む	(外) ハケメ (内) ハケメ	—	(4.0)	口縁部小片	88
第18図14	D2 黄層	弥生土器 甕	軟質	(にい黄 / にい黄)	3mm 以下の長石・石英・角 閃石を含む	(外) 工具ナデ・ハケメ (内) 工具ナデ	—	(2.0)	底部 1/6	100
第18図15	D2 黄層	弥生土器 高坏	軟質	(にい黄 / にい黄)	1mm 以下の長石・石英・赤 色粒子を含む	(外) ハケメ (内) ハクラク・ハケメ	—	(3.8)	接合部 1/2	99
第18図16	D2 黄層	弥生土器 鉢	軟質	(浅黄橙 / 黒)	3mm 以下の長石・石英を少 量含む	(外) ハケメ後ヨコナデ (内) ハケメ後ヨコナデ	—	(3.2)	口縁部小片 内面黒斑	94
第18図17	D2 黄層	弥生土器 鉢	軟質	(にい黄 / にい黄)	2mm 以下の長石・石英・角 閃石を含む	(外) ヨコナデ・ハケメ (内) ヨコナデ・ハケメ	—	(5.2)	口縁部小片	93
第18図18	D2 黄層	土師器 鉢	軟質	(にい黄 / にい黄)	4.5mm 以下の礫を多く含む 片岩・石英・長石	(外) ヨコナデ・ハケメ後ヨコナデ (内) ヨコナデ・ハケメ後ヨコナデ	(15.0)	(3.5)	口縁部 1/10	R-25
第18図19	D2 黄層	土師器 高坏?	軟質	(浅黄橙 / にい黄)	粗砂を含む 片岩・赤色粒	(外) ヨコナデ・剥離している (内) ヨコナデ	—	(2.4)	小片	R-144
第18図20	D2 黄層	土師器 甕	軟質	(にい黄 / 浅黄橙)	粗砂を多く含む 片岩・赤色粒・角閃石・石英	(外) ヨコナデ・ハケメ (内) ヨコナデ	—	(1.5)	小片	R-142
第18図21	D2 黄層	土師器 甕	軟質	(浅黄橙 / にい黄)	粗砂を多く含む 片岩・石英・赤色粒・角閃石	(外) ハケメ後ヨコナデ (内) ヨコナデ	—	(2.8)	小片	R-141
第18図22	D2 黄層	土師器 高坏	軟質	(橙 / 橙)	粗砂を含む 片岩・角閃石	(外) ヨコナデ・ナデ (内) ミガキ後ヨコナデ	—	(2.3)	小片	R-143
第18図23	D2 黄層	土師器 高坏	軟質	(にい黄 / にい黄)	1mm 以下の長石・石英・赤 色粒子を含む	(外) ハケメ後ヨコナデ (内) ハケメ後ヨコナデ	—	(3.3)	口縁部小片	91
第18図24	D2 黄層	土師器 高坏	軟質	(灰黄褐 / 灰黄褐)	1mm 以下の長石・石英を含 む	(外) ハケメ後ヨコナデ・沈線 1 条 (内) ハケメ後ヨコナデ	—	(2.6)	脚部小片	86
第18図25	D2 黄層	土師器 高坏	軟質	(にい黄 / 浅黄橙)	1mm 以下の長石・石英を含 む	(外) ハケメ後ヨコナデ (内) ハケメ後ヨコナデ	—	(1.7)	脚部小片 炭化物付着・被熱痕あ り	92
第18図26	D2 黄層	土師器 高坏	軟質	(橙 / 橙)	1.5mm 以下の粗砂を含む 石英・赤色粒・角閃石	(外) ヨコナデ (内) ヨコナデ・ナデ	—	(1.0)	小片	R-208
第18図27	D2 黄層	須恵器 坏身	硬質	(灰 / 灰)	粗砂を含む 長石	(外) 回転ナデ (内) 回転ナデ	—	(2.1)	小片 内面に不純物の付着あ り	R-140
第18図28	D2	土師器 高坏	軟質	(にい黄 / にい黄)	1mm 以下の長石・石英・雲 母を多量に含む	(外) マメツ・ハケメ (内) ナデ	—	(3.5)	接合部 1/2	98
第18図29	D3	弥生土器 甕	軟質	(灰黄褐 / 灰黄褐)	2mm 以下の長石・石英を多 く含む	(外) ハケメ後ヨコナデ (内) ハケメ後ヨコナデ	—	(3.8)	口縁部小片	102
第18図30	D3	土師器 甕	軟質	(にい黄 / にい黄)	1mm 以下の長石・石英を多 量に含む	(外) ハケメ後ヨコナデ (内) ハケメ後ヨコナデ	—	(1.5)	口縁部小片 外面にスス付着	101
第18図31	E 黄層	土師器 甕	軟質	(にい黄 / にい黄)	3.5mm 以下の礫を含む 片岩・石英・角閃石	(外) ヨコナデ (内) ハケメ	—	(2.3)	小片 被熱で赤くなる	R-147
第18図33	E 黄層	土師器 甕	軟質	(にい黄 / にい黄)	あまり砂粒が入らない	(外) ヨコナデ (内) ハケメ後ヨコナデ・ケズリ	—	(2.6)	小片 両面に不純物の付着あ り	R-148
第18図34	E 黄層	土師器 甕	軟質	(にい黄 / にい黄)	1mm 以下の長石・石英・雲 母を含む	(外) ハケメ後ヨコナデ (内) ハケメ	—	(3.7)	口縁部小片 外面スス付着	105
第18図35	E 黄層	土師器 甕	軟質	(にい黄 / 灰白)	2mm 以下の長石・石英を多 く含む	(外) ハケメ後ヨコナデ (内) ハケメ後ヨコナデ	—	(5.4)	口縁部小片 外面スス付着	104

押図番号	出土 地点	器形	焼成	色調 (外面/内面)	胎土	成形・整形手法等	寸法		備考 (種類・残存等)	実測図 番 号
							口径 (底径)	器高 (残存高)		
第18図36	E 黄層	土師器 甕	軟質	(灰白 / 浅黄橙)	3mm 以下の長石・石英・赤 色粒子を含む	(外) ハケメ後ヨコナデ (内) ヘラズリ後ヨコナデ	—	(7.0)	口縁部小片 口唇部欠損	110
第18図37	E 黄層	土師器 甕	軟質	(橙 / 橙)	2mm 以下の長石・石英を含 む	(外) ヨコナデ・ハケメ (内) ヨコナデ後ヘラズリ	(21.1)	(5.2)	口縁部 1/4	103
第18図38	E 黄層	土師器 甕	軟質	(淡橙 / 淡橙)	5mm 以下の長石・石英・赤 色粒子を含む	(外) ハケメ後ヨコナデ (内) ヘラズリ後ヨコナデ	(29.4)	(8.8)	口縁部	112
第18図39	E 黄層	土師器 甕	軟質	(にぶい橙 / にぶい橙)	4mm 以下の長石・石英・角 閃石を多量含む	(外) ハケメ後ヨコナデ (内) ハケメ後ナデ	(17.0)	(4.3)	口縁部 1/6 外面にスス付着	113
第18図40	E 黄層	土師器 甕	軟質	(にぶい黄橙 / にぶい黄橙)	5mm 以下の長石・石英を含 む	(外) ハケメ後ヨコナデ (内) ヨコナデ・ヘラズリ	(18.5)	(5.9)	口縁部 1/6	111
第18図41	E 黄層	土師器 甕	軟質	(にぶい橙 / にぶい橙)	5mm 以下の長石・石英を含 む	(外) ハケメ後工具ナデ後ヨコナデ (内) 工具ナデ後ヨコナデ・指オサエ	(19.0)	(9.6)	口縁部 1/8	114
第18図42	E 黄層	土師器 甕	軟質	(灰 / にぶい黄橙)	2mm 以下の長石	(外) ナデ (内) ハケメ	— (2.2)	(2.3)	底部完存 黒斑	117
第18図43	E 黄層	土師器 甕	軟質	(浅黄橙 / にぶい黄橙)	粗砂を多く含む 石英・長石	(外) ヨコナデ・ハケメ (内) ヨコナデ	—	(2.3)	小片 外面に不純物の付着あり	R-146
第18図44	E 黄層	土師器 甕	軟質	(浅黄橙 / 浅黄橙)	粗砂を含む 片岩・赤色粒・石英	(外) ヨコナデ・ハケメ後ヨコナデ (内) ヨコナデ	—	(2.9)	小片	R-145
第18図45	E 黄層	土師器 鉢	軟質	(にぶい黄橙 / 褐灰)	3mm 以下の長石・石英を含 む	(外) ハケメ後ヨコナデ (内) ヨコナデ	—	(4.2)	口縁部小片 外面に黒斑あり	109
第18図46	E 黄層	土師器 鉢	軟質	(にぶい橙 / にぶい黄橙)	粗砂を含む 片岩	(外) ハケメ・ケズリ (内) ハケメ後ヨコナデ	—	(4.9)	小片	R-149
第18図47	E 黄層	土師器 高坏	軟質	(にぶい黄橙 / にぶい橙)	1mm 以下の長石・石英を含 む	(外) ハケメ後ナデ (内) 絞り目・ハケメ	—	(6.3)	脚部 透孔 3ヶ所	107
第18図48	E 黄層	土師器 高坏	軟質	(橙 / にぶい橙)	3mm 以下の長石・石英・赤 色粒子を含む	(外) ハケメ後ヨコナデ (内) 工具ナデ	—	(3.5)	接合部 3/4	116
第18図49	E 黄層	土師器 甕	軟質	(灰白 / 灰白)	3mm 以下の長石・石英を含 む	(外) 工具ナデ後ナデ・ヨコナデ (内) 工具ナデ後ナデ・ヨコナデ	(4.0)	(4.8)	口縁部 1/4	106
第18図50	E 黄層	土師器 甕	軟質	(にぶい橙 / 浅黄橙)	1mm 以下の長石・石英を多 量に含む	(外) ヨコナデ後ハケメ (内) ヨコナデ・ナデ後ヘラズリ	(7.9)	(8.5)	底部 1/3 108 と同一か	115
第18図51	E 黄層	土師器 甕	軟質	(淡橙 / 淡橙)	5mm 以下の長石・石英・赤 色粒子を含む	(外) ヨコナデ・沈線 1 条 (内) ヘラズリ後ヨコナデ	—	(7.0)	口縁部 115 と同一か	108
第18図52	E 黄層	土師器 甕 (把手)	軟質	(にぶい橙 / にぶい黄橙)	3mm 以下の礫を含む 片岩・石英・赤色粒	(外) ナデ・ハケメ (内) ハケメ	—	—	長さ 6.1cm 幅 5.0cm 厚さ 3.5cm 不純物の付着あり	R-152
第18図53	E 黄層	土師器 支脚	軟質	(にぶい黄橙 / 灰白)	3mm 以下の長石・石英・角 閃石を含む	(外) タタキ目・工具ナデ (内) 指オサエ後工具ナデ・ナデ	— (14.6)	(7.5)	底部 1/4	118
第18図54	E 黄層	須恵器 坏身	硬質	(灰白 / 灰)	1mm 以下の粗砂を含む 緻密・少量の石英を含む	(外) 回転ナデ (内) 回転ナデ	—	(4.0)	小片 外面表面が荒れる	R-209
第19図1	トレンチ E	土師器 高坏?	軟質	(にぶい橙 / にぶい橙)	1mm 以下の長石・石英を含 む	(外) ハケメ (内) マメツ・ハケメ	(20.7)	(2.6)	口縁部 1/4 黒斑あり	239
第19図2	トレンチ E	弥生土器 甕	軟質	(にぶい橙 / にぶい橙)	3mm 以下の長石・石英・赤 色粒子を含む	(外) タタキのちハケメ後ヨコナデ (内) ハケメ後ヨコナデ	(11.2)	(13.1)	口縁部 1/2 黒斑あり	240
第19図3	掘乱	弥生土器 甕	軟質	(灰白 / 浅黄橙)	3mm 以下の長石・石英を含 む	(外) ハケメ・ナデ・貼付突帯後刻み目 (内) ハケメ	—	(7.5)	体部小片	243
第19図4	掘乱	弥生土器 甕	軟質	(にぶい橙 / にぶい黄橙)	0.2mm 以下の長石・石英・赤 色粒子を含む	(外) ヨコナデ・ハケメ (内) ヨコナデ・ハケメ	—	(4.4)	口縁部小片	241
第19図5	掘乱	土師器 甕	軟質	(灰白 / 浅黄橙)	2mm 以下の粗砂を含む 片岩・赤色粒・石英	(外) ヨコナデ (内) ヨコナデ	—	(2.7)	小片 R119 と似た形	R-126
第19図6	掘乱	須恵器 甕	硬質	(灰白 / 灰)	1mm 以下の長石・石英を含 む	(外) 回転ナデ (内) 回転ナデ	(16.6)	(4.0)	口縁部 1/12	242
第19図7	2 区下層	弥生土器 甕	軟質	(橙 / 橙)	2mm 以下の長石・石英・黒 曜石を含む	(外) ハケメ後ヨコナデ・ギザミ目 (内) ハケメ	—	(3.5)	口縁部小片	119
第19図8	2 区下層	弥生土器 甕	軟質	(灰黄 / にぶい黄橙)	2mm 以下の長石・石英・角 閃石を含む	(外) 貼り付け凸帯後ナデ・ギザミ目・ハケメ (内) ハケメ	—	(4.0)	体部小片	121
第19図9	2 区下層	土師器 甕	軟質	(灰黄褐 / にぶい黄橙)	2.5mm 以下の礫を多く含む 片岩・石英	(外) ヨコナデ (内) ヨコナデ・ナデ	(17.0)	(2.5)	口縁部 1/8 外面にスス付着	R-20
第19図10	2 区下層	土師器 甕	軟質	(にぶい橙 / にぶい赤褐)	3mm 以下の長石・石英・角 閃石を含む	(外) ハケメ後ヨコナデ・ナデ (内) ハケメ後ヨコナデ・ナデ	(16.6)	(6.4)	口縁部 1/8	120
第19図11	2 区下層	土師器 坏	軟質	(橙 / 橙)	2mm 以下の長石・石英・赤 色粒子を含む	(外) ヨコナデ・ハケメ (内) ヨコナデ・ナデ	—	(3.2)	口縁部小片	124
第19図12	2 区下層	土師器 高坏	軟質	(にぶい橙 / 橙)	粗砂を含む 片岩・赤色粒	(外) ハケメ (内) ナデ	—	(2.1)	小片 脚部	R-151
第19図13	2 区下層	土師器 高坏	軟質	(橙 / 橙)	1mm 以下の長石・石英・赤 色粒子を含む	(外) ハケメ後ヨコナデ (内) ヨコナデ	—	(1.9)	脚部小片 外面黒斑あり	122
第19図14	2 区下層	弥生土器 甕	軟質	(にぶい橙 / にぶい橙)	3mm 以下の長石・石英・結 晶片岩・角閃石を含む	(外) ヘラズリ後ハケメ・ナデ・指頭痕 (内) ハケメ・指頭痕	— (1.4)	(6.5)	底部完存 内面コゲ付着	123
第19図15	2 区最下層	弥生土器 甕	軟質	(褐灰 / にぶい黄橙)	1mm 以下の長石・石英・角 閃石を含む	(外) ヨコナデ後貼付突帯のち刻み目・ハケメ (内) ハケメ	—	(4.4)	体部小片 黒斑あり	127
第19図16	2 区最下層	弥生土器 甕	軟質	(橙 / 橙)	2mm 以下の礫を含む 片岩・石英・赤色粒	(外) 不明 (内) 不明	—	(6.9)	小片	R-21
第19図17	2 区最下層	土師器 高坏	軟質	(にぶい橙 / にぶい橙)	粗砂を多く含む 石英・長石	(外) ナデ・ハケメ (内) ナデ・ハケメ	—	(3.1)	小片	R-135
第19図18	2 区最下層	土師器 坏	軟質	(橙 / 橙)	1mm 以下の長石・石英・黒 色粒子を含む	(外) 不定方向ナデ後指オサエ後ヨコナデ (内) 指オサエ後ヘラミガキ・指オサエ後ヨコナデ	14.0	(5.8)	ほぼ完形 一部図上復元	129
第19図19	2 区最下層	土師器 坏	軟質	(橙 / 橙)	2mm 以下の長石・石英・赤 色粒子を含む	(外) 不定方向のナデ・ヨコナデ・ヘラミガキ (内) ヨコナデ・不明	14.0	(5.0)	完形 黒斑あり	128
第19図20	2 区最下層	土師器 甕	軟質	(灰黄褐 / 灰黄褐)	5mm 以下の長石・石英・赤 色粒子を含む	(外) ヨコナデ・ハケメ (内) ヨコナデ・ヘラズリ	12.5	(17.3)	口縁から底部 1/2 外面にスス付着	126
第19図21	2 区最下層	土師器 甕	軟質	(浅黄橙 / 浅黄橙)	1mm 以下の長石・石英を含 む	(外) 指オサエ後ハケメ (内) ヘラズリ	(25.1)	(15.3)	体部 1/5 黒斑あり	125
第19図22	2 区排土中	弥生土器 甕	軟質	(にぶい黄橙 / にぶい黄橙)	1mm 以下の長石・石英・赤 色粒子を含む	(外) ハケメ・貼付突帯のち刻み目・ヨコナデ (内) ハケメ	—	(4.0)	体部小片	130
第19図23	2 区排土中	弥生土器 甕	軟質	(灰白 / 灰白)	1mm 以下の長石・石英を多 量に含む	(外) ハケメ・貼付突帯のち刻み目・ヨコナデ (内) ハケメ	—	(4.8)	体部小片	131
第19図24	2 区排土中	土師器 坏	軟質	(橙 / 橙)	1mm 以下の長石・石英・赤 色粒子を含む	(外) ヘラミガキ後ヨコナデ (内) 指オサエ後ヘラミガキ後ヨコナデ	—	(3.5)	口縁部小片	132
第19図25	2 区排土中	土師器 高坏	軟質	(橙 / にぶい橙)	1.5mm 以下の粗砂を多く含む 石英・長石・赤色粒	(外) ハケメ後ナデ (内) ハケメ後ナデ・ヨコナデ	—	(1.7)	小片	R-206
第19図26	2 区排土中	土師器 高坏	軟質	(橙 / 橙)	4mm 以下の礫を含む 片岩・石英・赤色粒 赤みをおびた片岩を含む	(外) ハケメ後ナデ (内) ナデ・ヨコナデ	— (15.6)	(1.4)	脚部 1/5	R-22

※押図番号の第 18 図 32 は欠番である。

※遺物実測番号は「R」がつくものが八女市実測分、つかないものは業務委託による実測分である。

※遺物収納時には八女市実測分には「R」をつけ、業務委託実測分には「No」をつけた番号を注記している。

版 圖



(1) 祈禱院・小石原遺跡1区全景（北より）



(2) 1号石棺墓蓋検出状況（北西より）



(3) 1号石棺墓蓋取り上げ後の状況（西より）



(4) 1号石棺墓棺内掘削状況（西より）



(5) 1号石棺墓完掘状況（西より）

図版2 祈禱院・小石原遺跡2



(1) 1区北側ピット群検出状況(南西より)



(3) SD01(南より)



(2) SK02(東より)



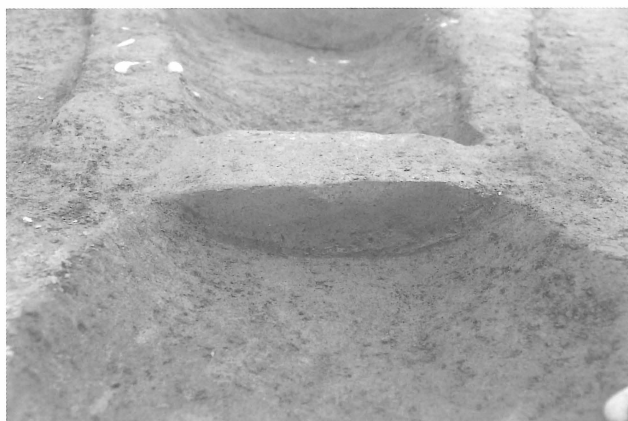
(4) SD01北側部分(南西より)



(5) SD01土層(南より)



(6) SD02(南西より)



(1) SD02 土層 (西より)



(2) SD03 西壁土層 (北東より)



(3) SD03 (南西より)



(4) SP11 (東より)



(5) SK01・南側ピット (南より)

図版4 祈禱院・小石原遺跡4



(1) 祈禱院・小石原遺跡2区全景



(2) 2区西壁土層（東より）



(1) SK01 (第13図1)



(2) SK01 (第13図2)



(3) SK01 (第13図3)



(4) SK01 (第13図4)



(5) SK02 (第13図5)



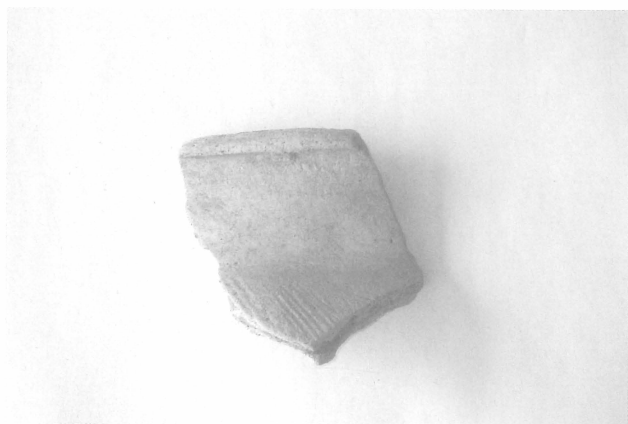
(6) SK02 (第13図6)



(7) SK02 (第13図7)



(8) SK02 (第13図8)



(1) SD01 (第13図9)



(2) SD01 (第13図10)



(3) SD01 (第13図11)



(4) SD01 (第13図12)



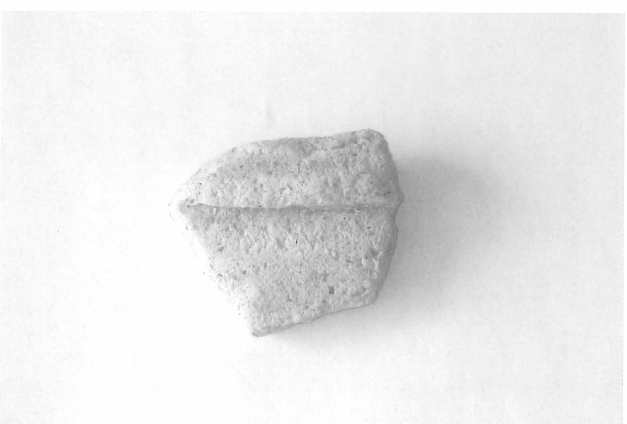
(5) SD01 (第13図13)



(6) SD01 (第13図14)



(7) SD01 (第13図15)



(8) SD01 (第13図16)



(1) SD01 (第13図17)



(2) SD01 (第13図18)



(3) SD01 (第13図19)



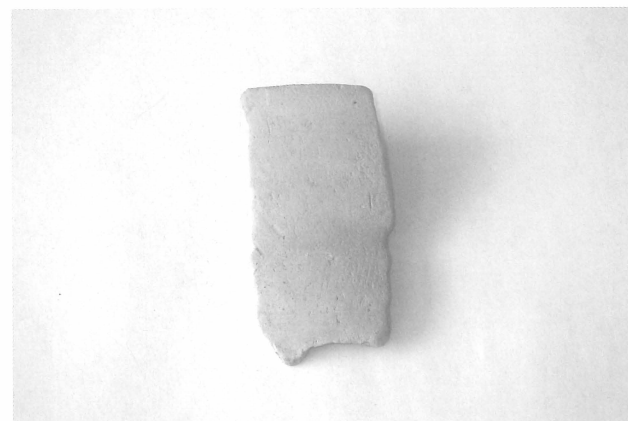
(4) SD01 (第13図20)



(5) SD01 (第13図21)



(6) SD01 (第13図22)



(7) SD01 (第13図23)



(8) SD01 (第13図24)



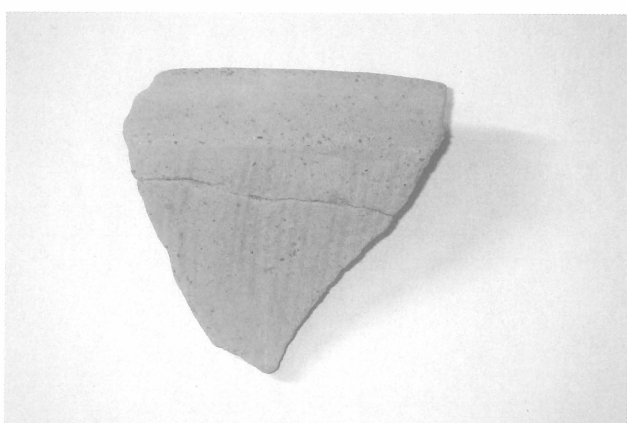
(1) SD01 (第13図25)



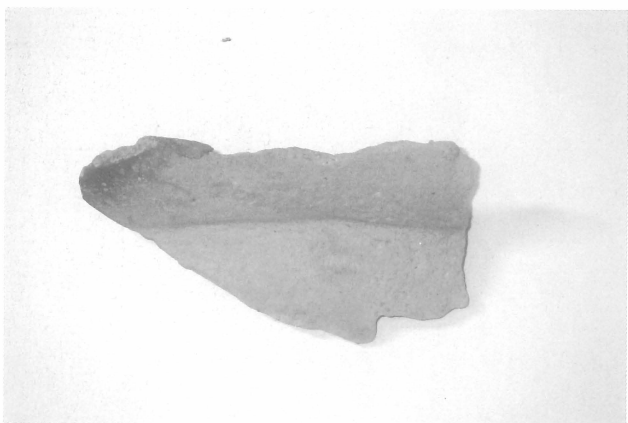
(2) SD02 (第13図26)



(3) SD03 (第13図27)



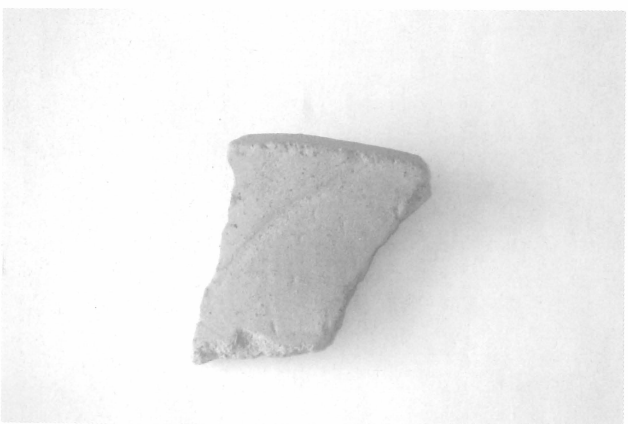
(4) SD03 (第13図28)



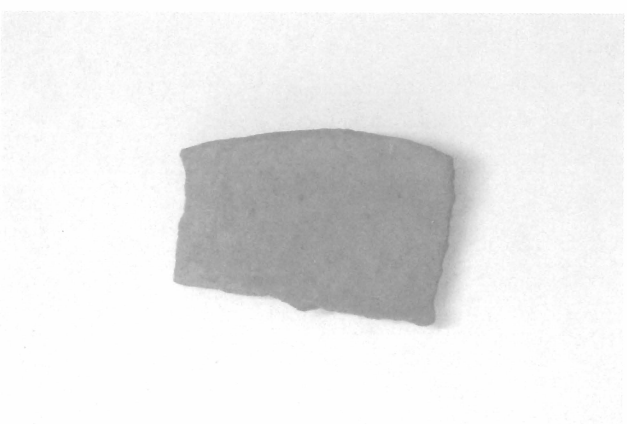
(5) SD03 (第13図29)



(6) SP01 (第13図30)



(7) 2区 SP02 (第13図31)



(8) SP04 (第13図32)



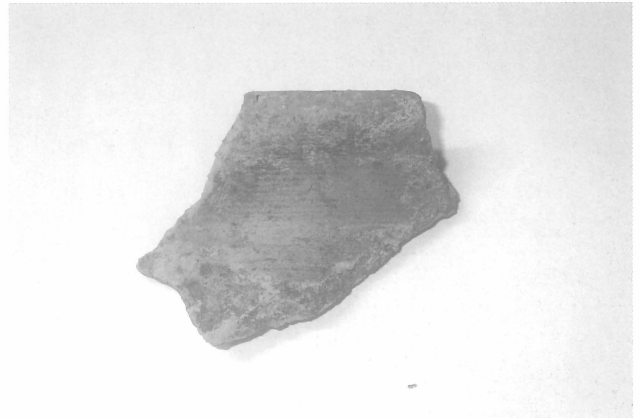
(1) SP06 (第13図33)



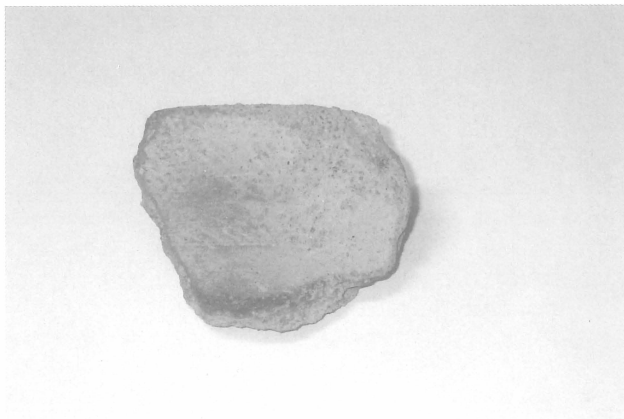
(2) SP06 (第13図34)



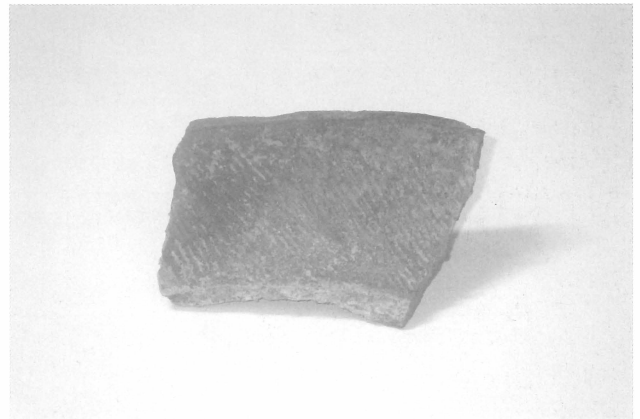
(3) SP06 (第13図35)



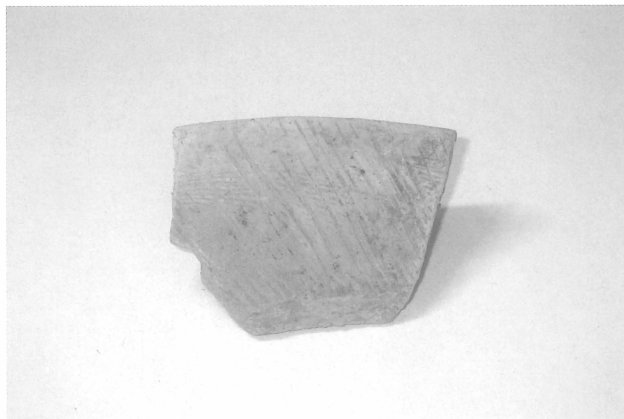
(4) SP08 (第13図36)



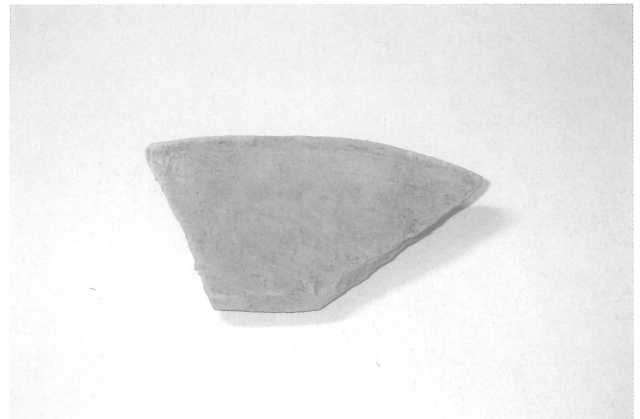
(5) SP11 (第13図37)



(6) SP11 (第13図38)

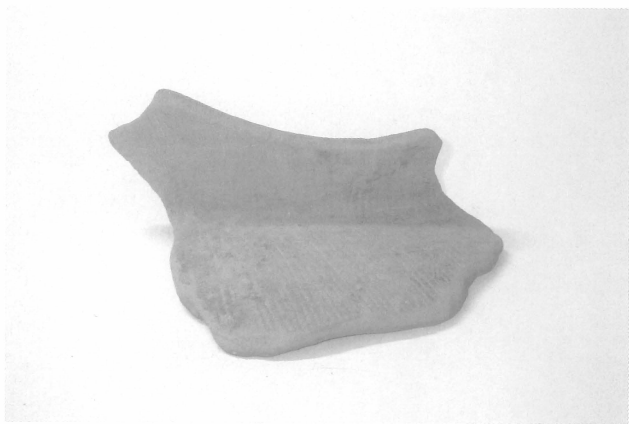


(7) SP11 (第13図39)



(8) SP11 (第13図40)

図版 10 祈禱院・小石原遺跡出土遺物 6



(1) SP11 (第 13 図 41)



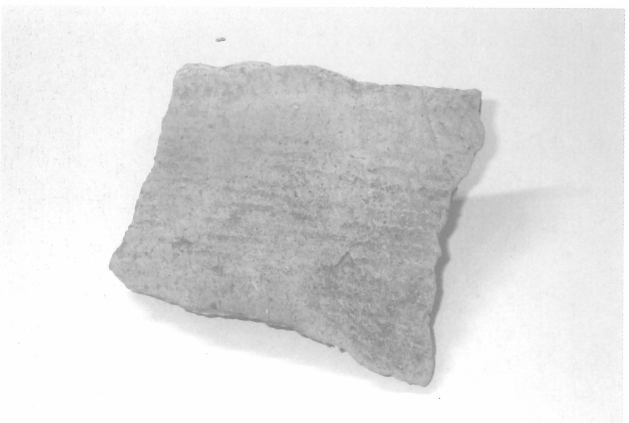
(2) SP11 (第 13 図 42)



(3) SP11 (第 13 図 43)



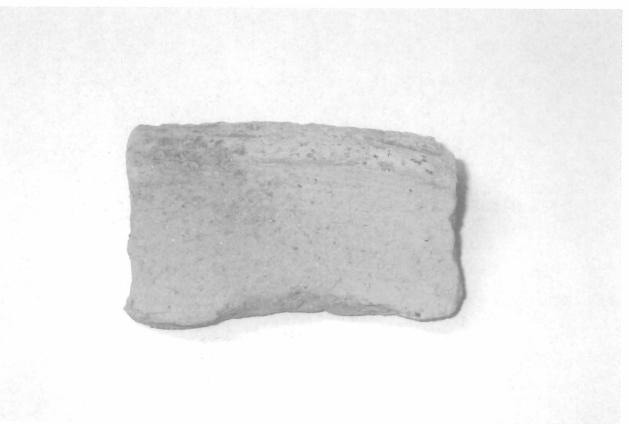
(4) SP12 (第 13 図 44)



(5) SP14 (第 14 図 1)



(6) SP16 (第 14 図 2)



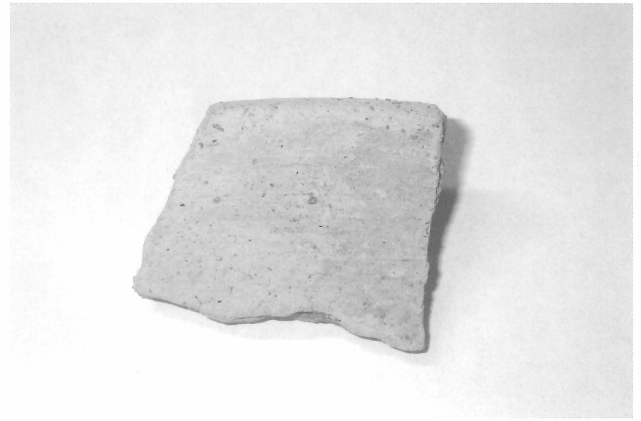
(7) SP17 (第 14 図 3)



(8) SP18 (第 14 図 4)



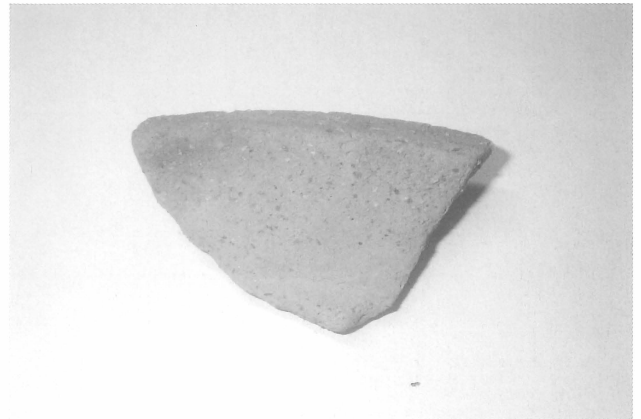
(1) SP18 (第 14 図 5)



(2) SP19 (第 14 図 6)



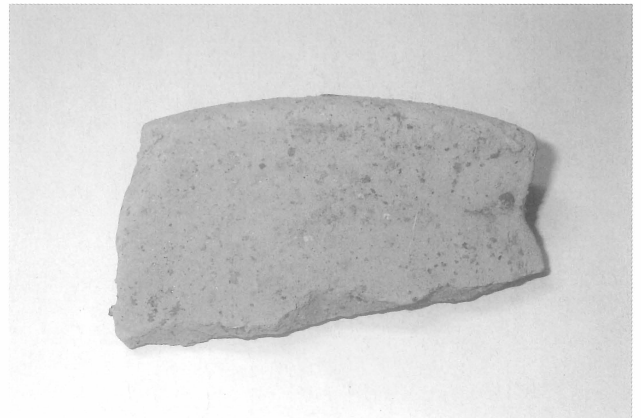
(3) Wトレ A2 (第 14 図 7)



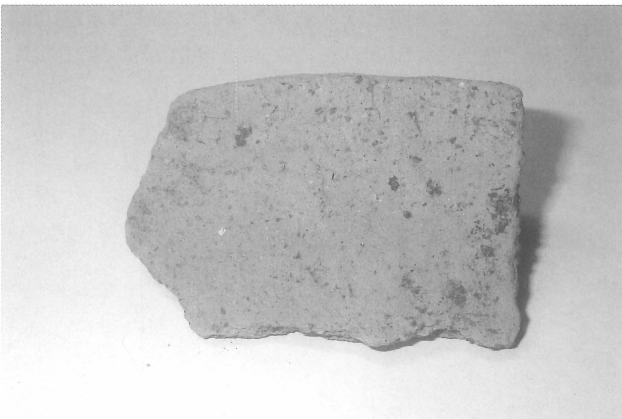
(4) Wトレ A2 (第 14 図 8)



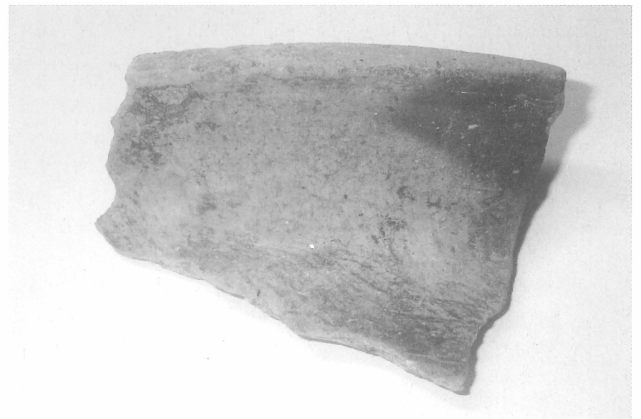
(5) Wトレ A2 (第 14 図 9)



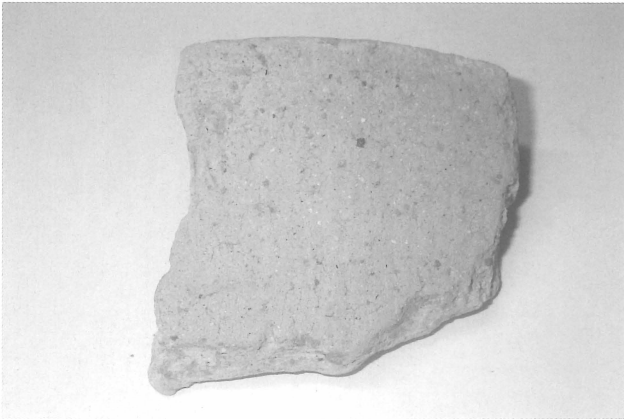
(6) Wトレ A2 (第 14 図 10)



(7) Wトレ A2 (第 14 図 11)



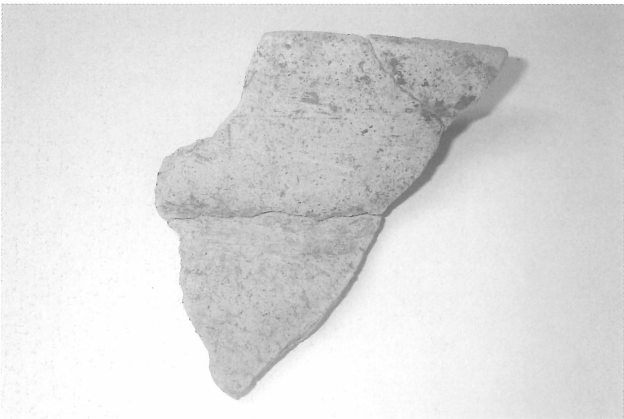
(8) Wトレ A2 (第 14 図 12)



(1) Wトレ A2 (第 14 図 13)



(2) Wトレ A2 (第 14 図 14)



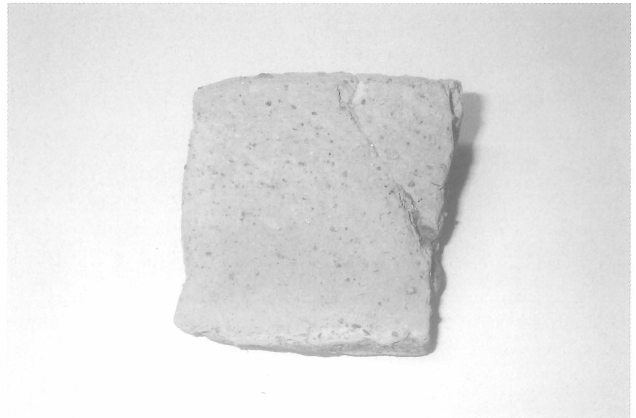
(3) Wトレ A2 (第 14 図 15)



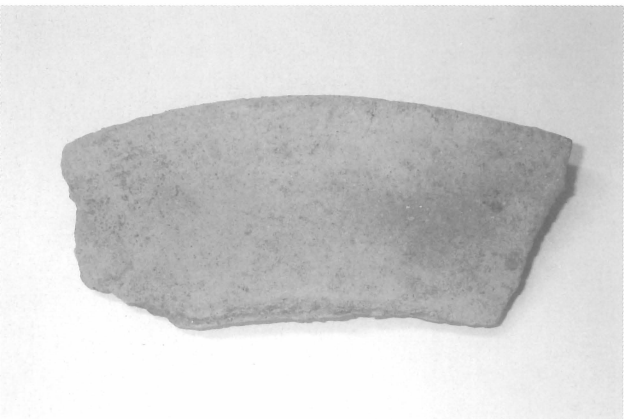
(4) Wトレ A2 (第 14 図 16)



(5) Wトレ A2 (第 14 図 17)



(6) Wトレ A2 (第 14 図 18)



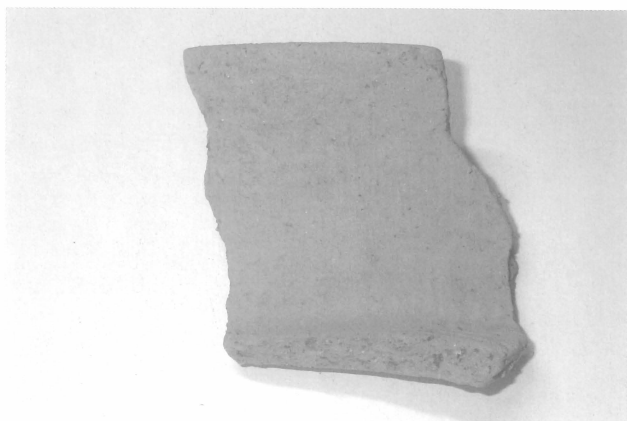
(7) Wトレ A2 (第 14 図 19)



(8) Wトレ A2 (第 14 図 20)



(1) Wトレ A2 (第 14 図 21)



(2) Wトレ A2 (第 14 図 22)



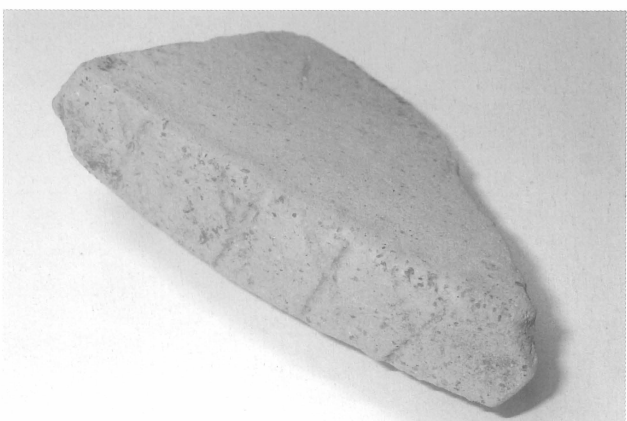
(3) Wトレ A2 (第 14 図 23)



(4) Wトレ A2 (第 14 図 24)



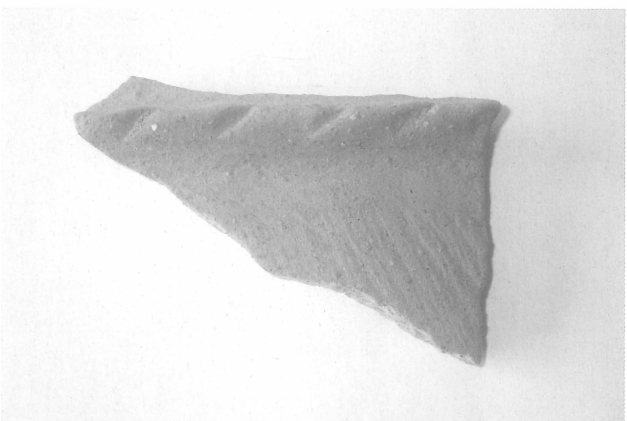
(5) Wトレ A2 (第 14 図 25)



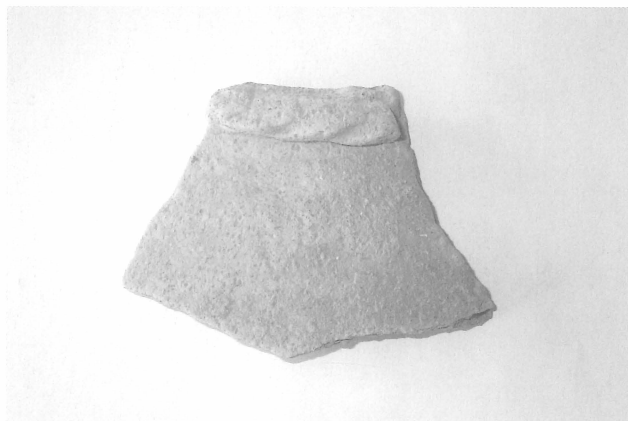
(6) Wトレ A2 (第 14 図 26)



(7) Wトレ A2 (第 14 図 27)



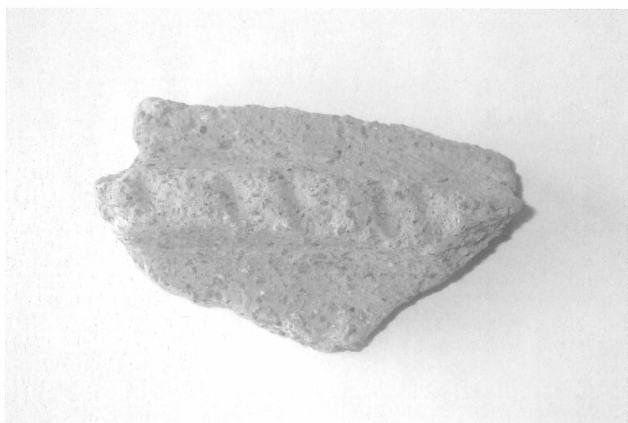
(8) Wトレ A2 (第 14 図 28)



(1) Wトレ A2 (第 14 図 29)



(2) Wトレ A2 (第 14 図 30)



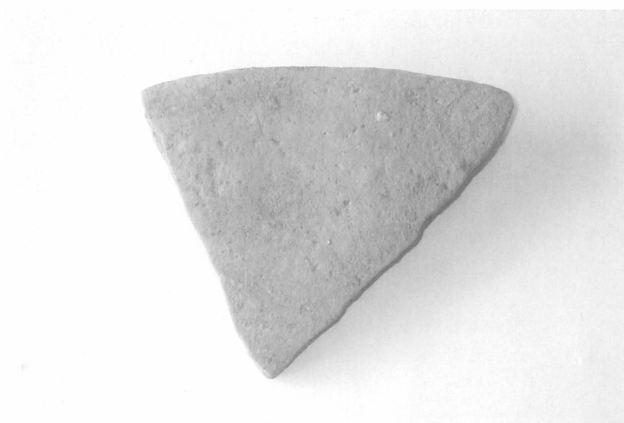
(3) Wトレ A2 (第 14 図 31)



(4) Wトレ A2 (第 14 図 32)



(5) Wトレ A2 (第 14 図 33)



(6) Wトレ A2 (第 14 図 34)



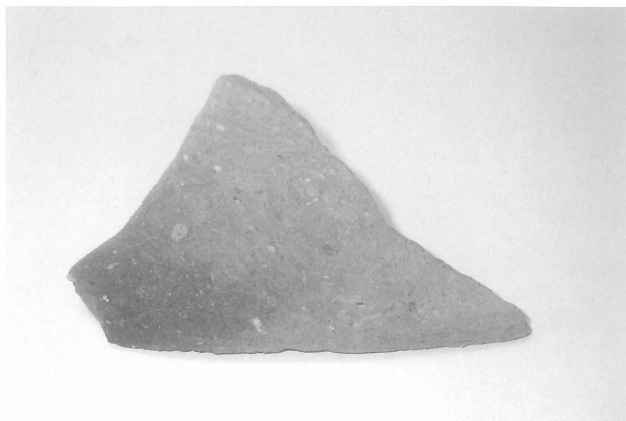
(7) Wトレ A2 (第 14 図 35)



(8) Wトレ A2 (第 14 図 36)



(1) Wトレ A2 (第 14 図 37)



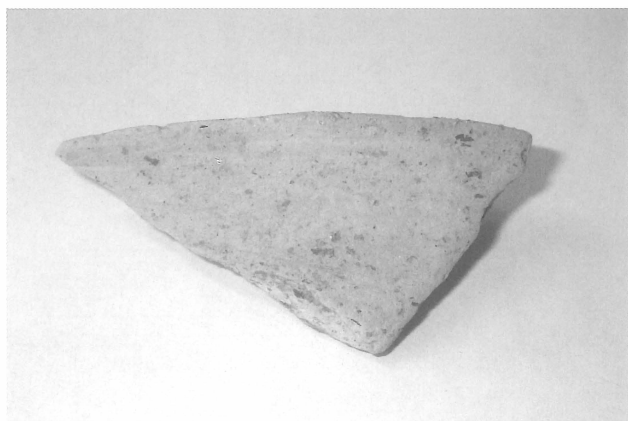
(2) Wトレ A2 (第 14 図 38)



(3) Wトレ A2 (第 14 図 39)



(4) Wトレ A2 (第 14 図 40)



(5) Wトレ A2 (第 14 図 41)



(6) Wトレ A2 (第 14 図 42)



(7) Wトレ A2 (第 14 図 43)



(8) Wトレ A2 (第 14 図 44)



(1) Wトレ A2 (第14図45)



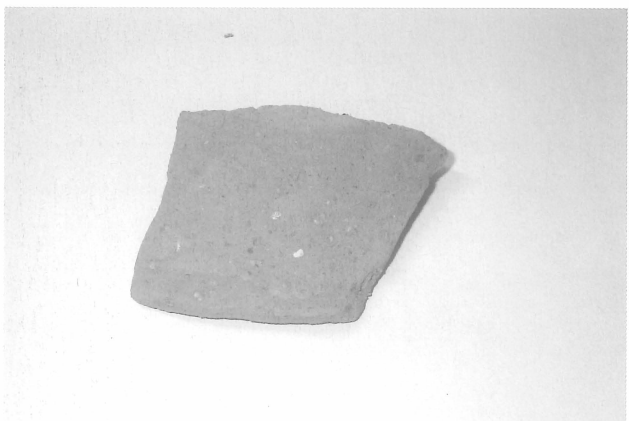
(2) Wトレ A2 (第14図46)



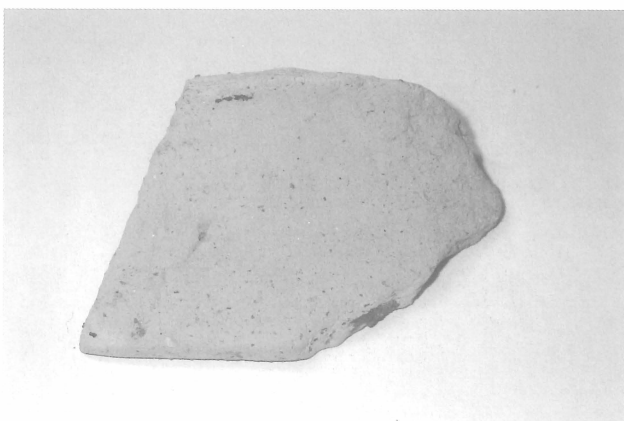
(3) Wトレ A2 (第14図47)



(4) Wトレ A2 (第14図48)



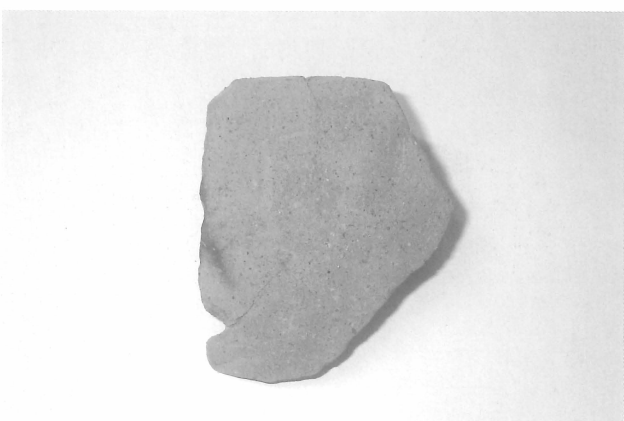
(5) Wトレ A2 (第14図49)



(6) Wトレ A2 (第14図50)



(7) Wトレ A2 (第14図51)



(8) Wトレ A2 (第14図52)



(1) Wトレ A2 (第14図53)



(2) Wトレ A3 (第15図1)



(3) Wトレ A3 (第15図2)



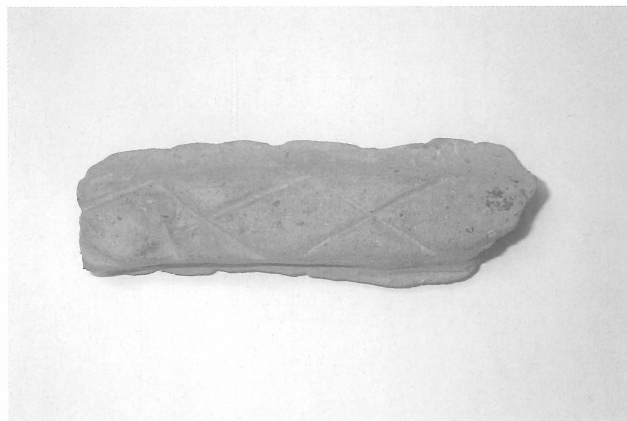
(4) Wトレ A3 (第15図3)



(5) Wトレ A3 (第15図4)



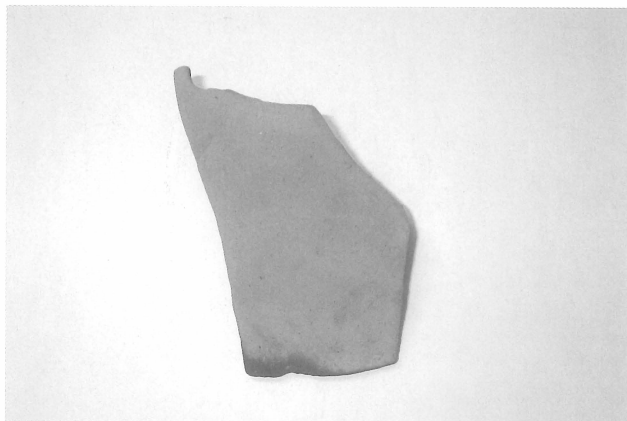
(6) トレンチ A3 (第15図5)



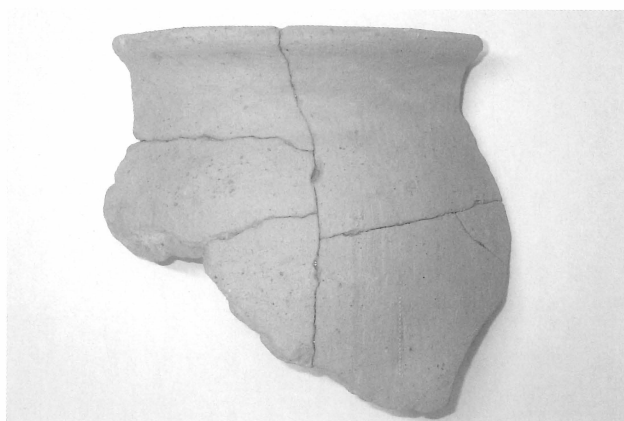
(7) トレンチ A3 (第15図6)



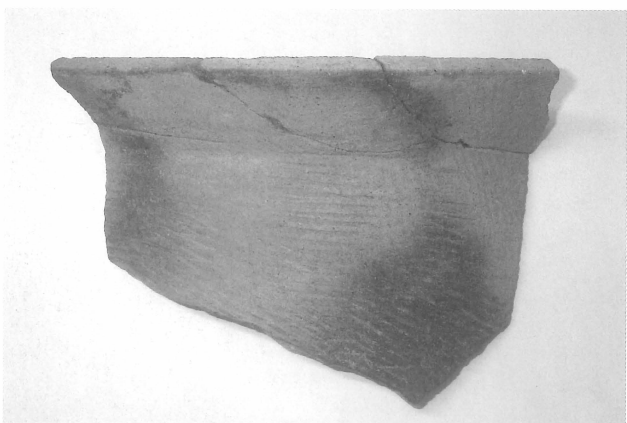
(8) トレンチ A3 (第15図7)



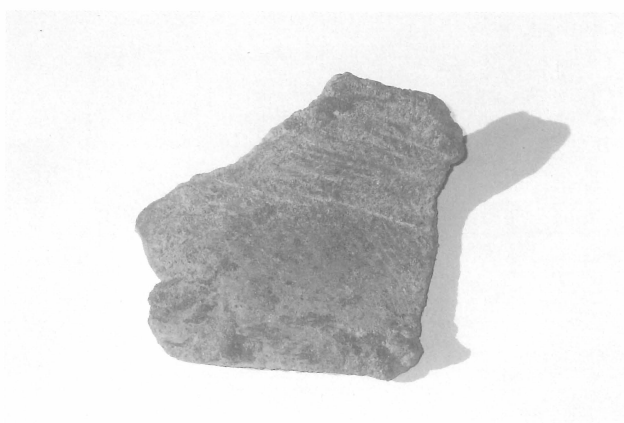
(1) トレンチ A3 (第 15 図 8)



(2) トレンチ A3 (第 15 図 9)



(3) トレンチ A3 (第 15 図 10)



(4) A1 (第 15 図 11)



(5) A1 (第 15 図 12)



(6) A1 (第 15 図 13)



(7) A2 (第 15 図 14)



(8) A2 (第 15 図 15)



(1) A2 (第 15 図 16)



(2) A3 下層 (第 15 図 17)



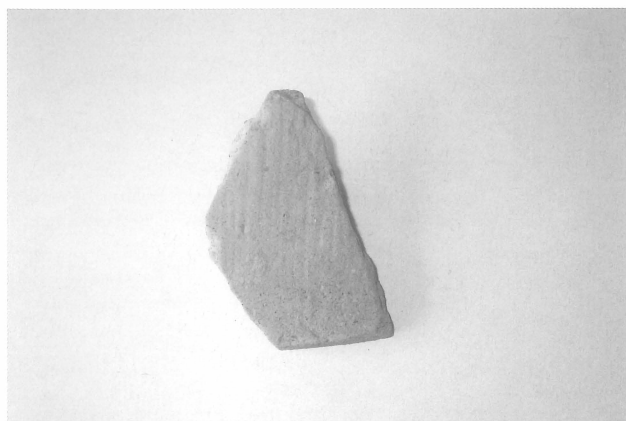
(3) A3 下層 (第 15 図 18)



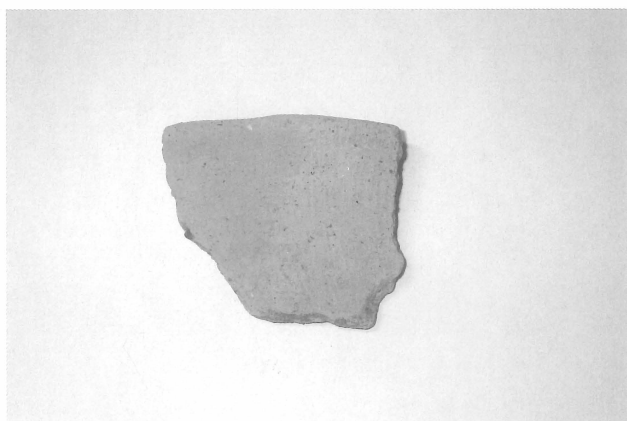
(4) A3 下層 (第 15 図 19)



(5) A3 (第 15 図 20)



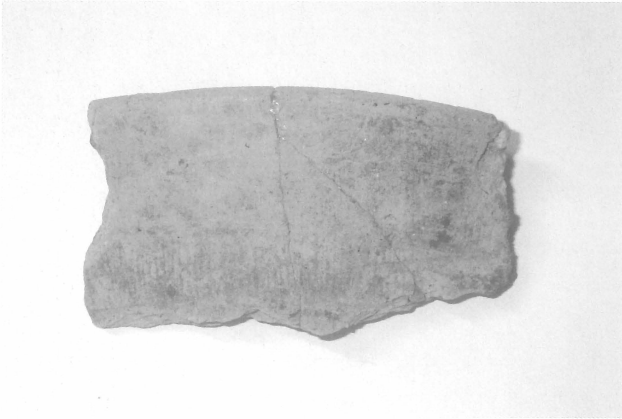
(6) A3 (第 15 図 21)



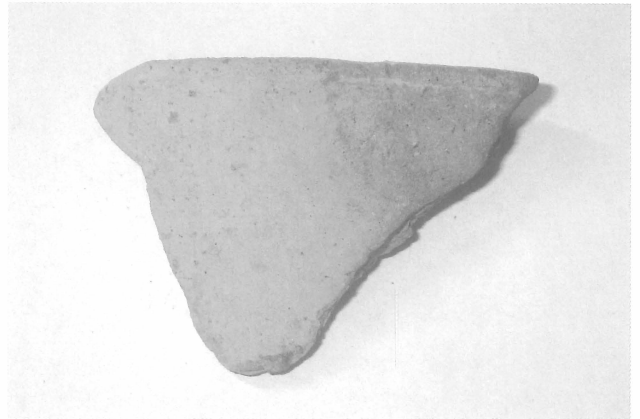
(7) A 灰層 (第 15 図 22)



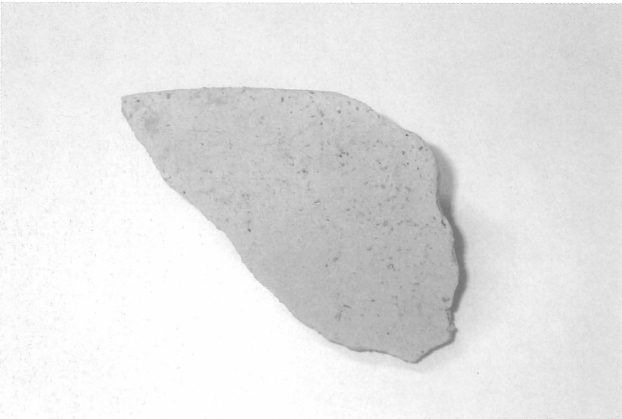
(8) A 灰層 (第 15 図 23)



(1) A 灰層 (第 15 図 24)



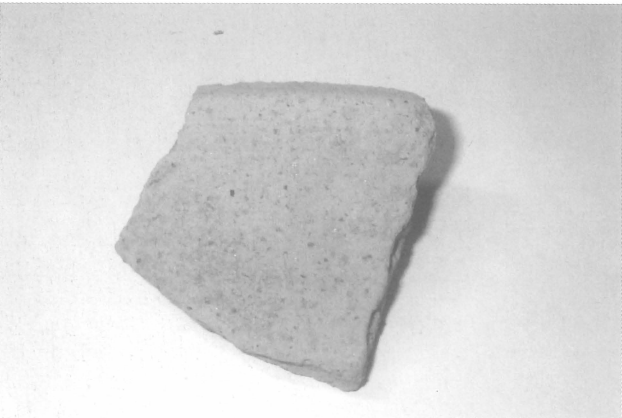
(2) A 灰層 (第 15 図 25)



(3) A 灰層 (第 15 図 26)



(4) A 灰層 (第 15 図 27)



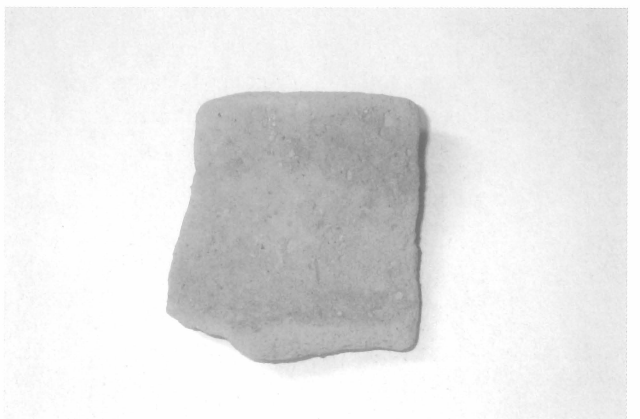
(5) A 灰層 (第 15 図 28)



(6) A 灰層 (第 15 図 29)



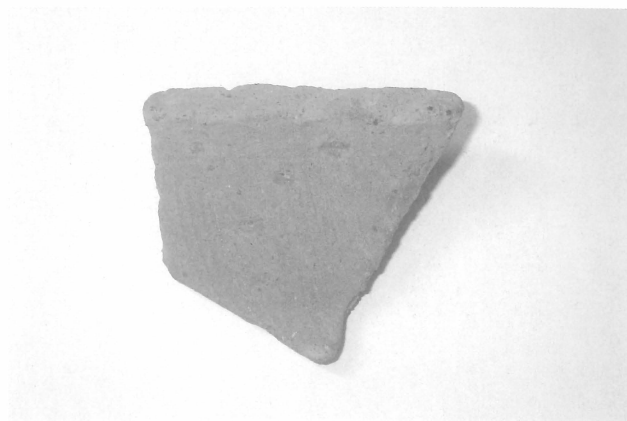
(7) A 灰層 (第 15 図 30)



(8) A 灰層 (第 15 図 31)



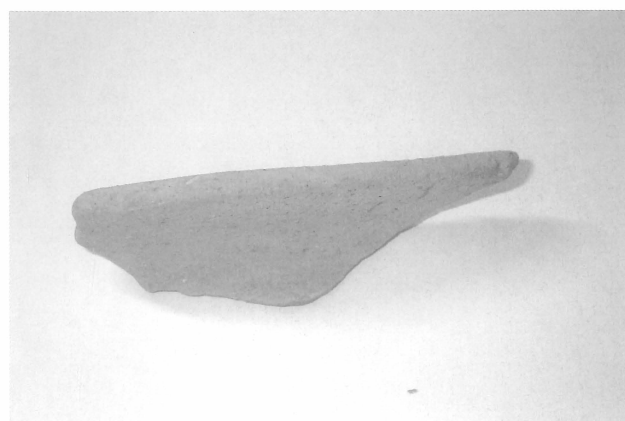
(1) A 灰層 (第 15 図 32)



(2) A 灰層 (第 15 図 33)



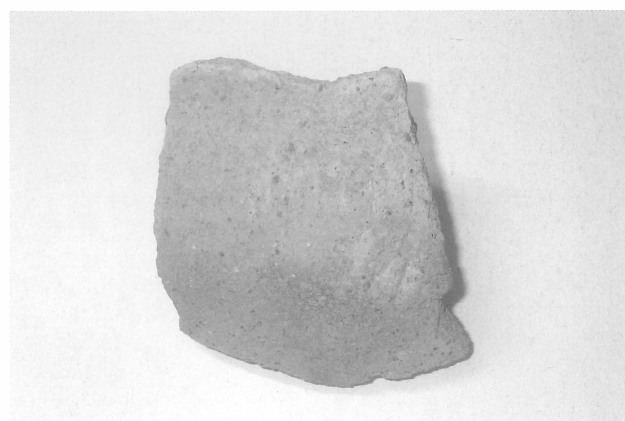
(3) A 灰層 (第 15 図 34)



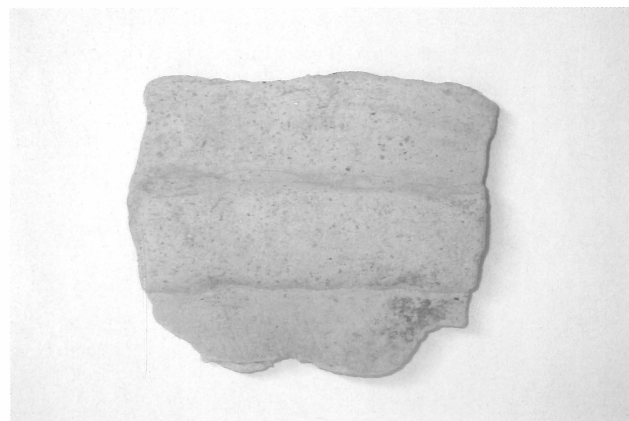
(4) A 灰層 (第 15 図 35)



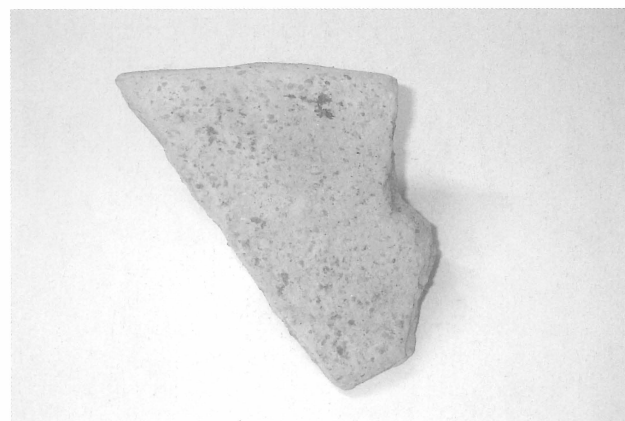
(5) A 灰層 (第 15 図 36)



(6) A 灰層 (第 15 図 37)



(7) A 灰層 (第 15 図 38)



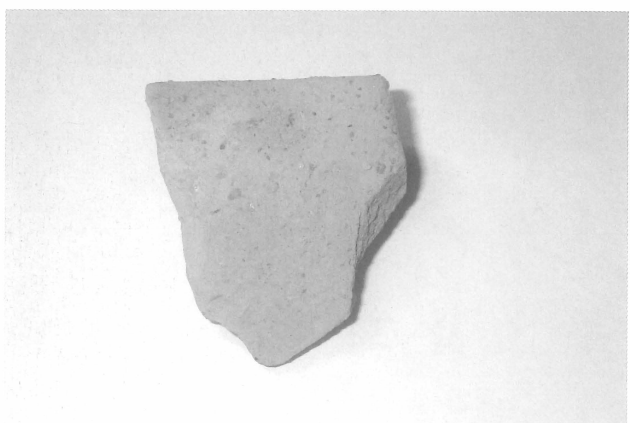
(8) A 灰層 (第 15 図 39)



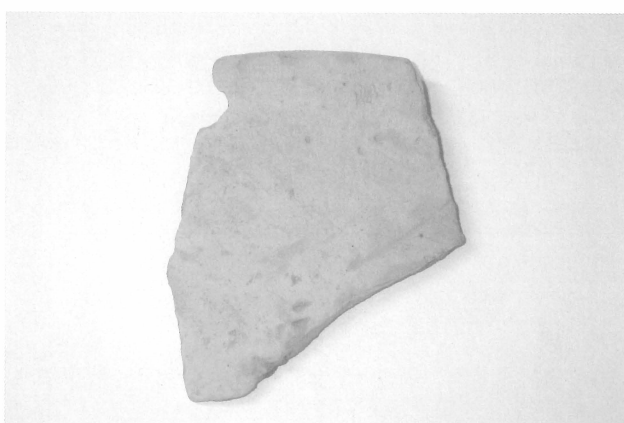
(1) A 灰層 (第 15 図 40)



(2) A 灰層 (第 15 図 41)



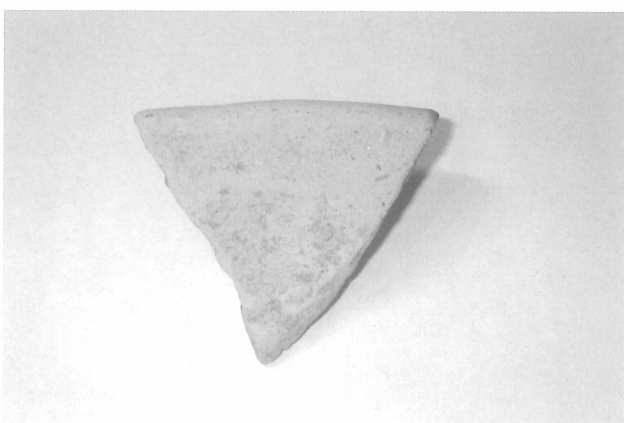
(3) A 灰層 (第 15 図 42)



(4) A 灰層 (第 15 図 43)



(5) A 灰層 (第 15 図 44)



(6) A 灰層 (第 15 図 45)



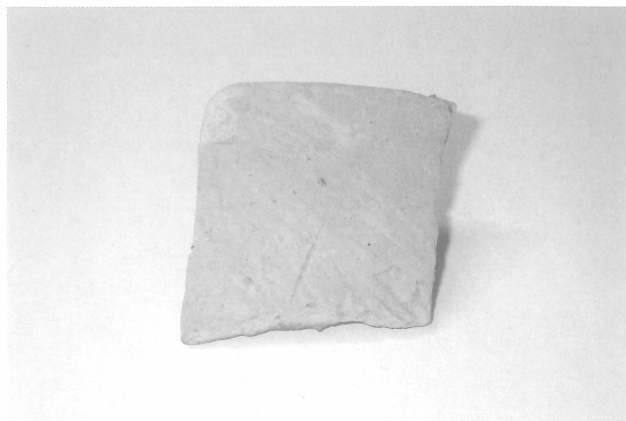
(7) A 灰層 (第 15 図 46)



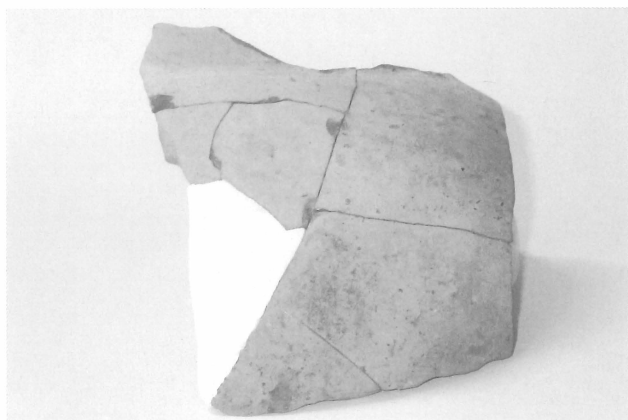
(8) A 灰層 (第 15 図 47)



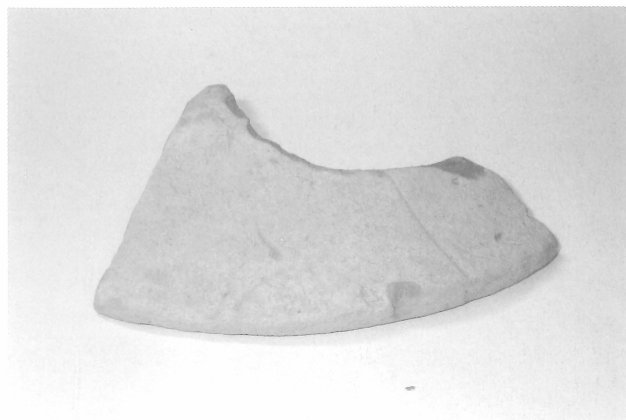
(1) A 灰層 (第 15 図 48)



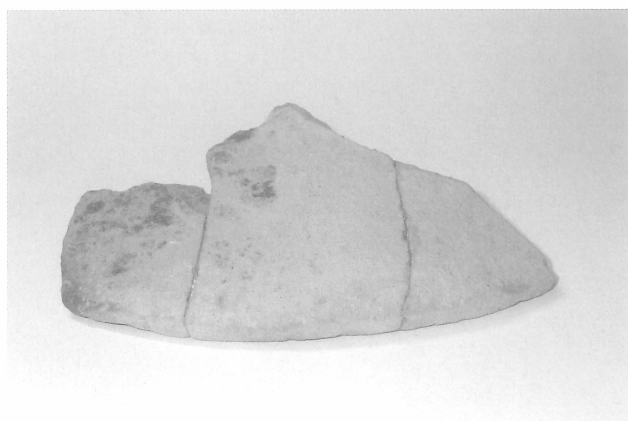
(2) A 灰層 (第 15 図 49)



(3) A 灰層 (第 15 図 50)



(4) A 灰層 (第 16 図 1)



(5) A 灰層 (第 16 図 2)



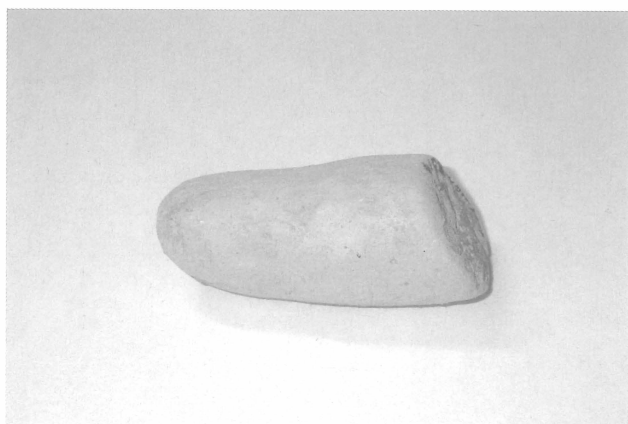
(6) A 灰層 (第 16 図 3)



(7) A 灰層 (第 16 図 4)



(8) A 灰層 (第 16 図 5)



(1) A 灰層第 16 図 6



(2) W トレ B1 (第 16 図 7)



(3) W トレ B1 (第 16 図 8)



(4) W トレ B1 (第 16 図 9)



(5) W トレ B1 (第 16 図 10)



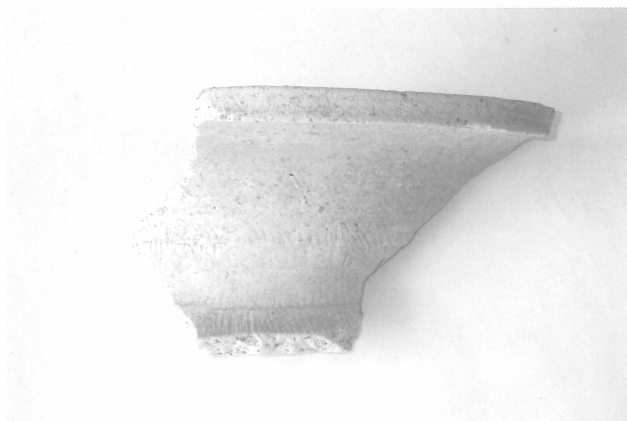
(6) W トレ B1 (第 16 図 11)



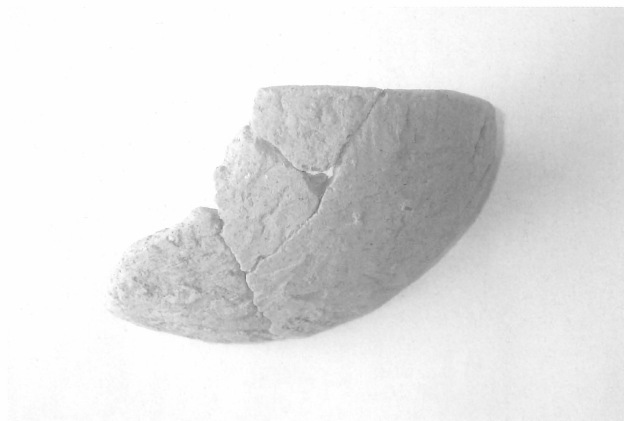
(7) W トレ B1 (第 16 図 12)



(8) トレンチ B1 (第 16 図 13)



(1) Wトレ B2 (第 16 図 14)



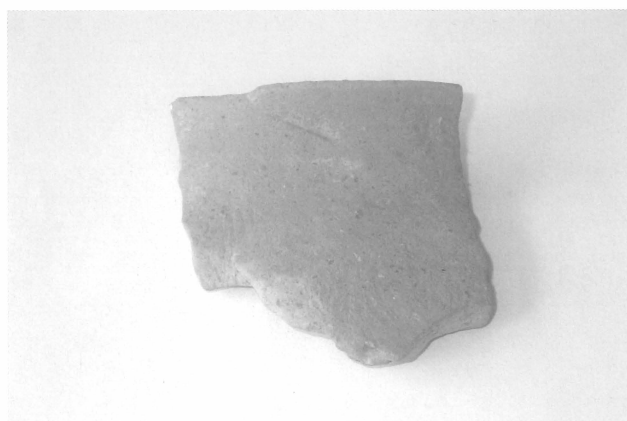
(2) Wトレ B2 (第 16 図 15)



(3) Wトレ B2 (第 16 図 16)



(4) Wトレ B2 上層 (第 16 図 17)



(5) Wトレ B2 上層 (第 16 図 18)



(6) Wトレ B2 上層 (第 16 図 19)



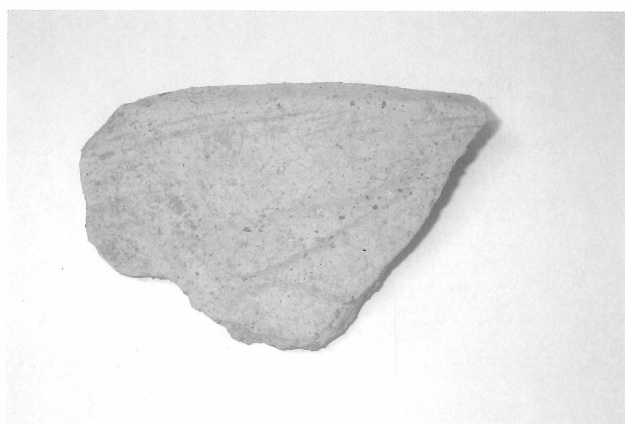
(7) Wトレ B2 上層 (第 16 図 20)



(8) Eトレ B3 (第 16 図 21)



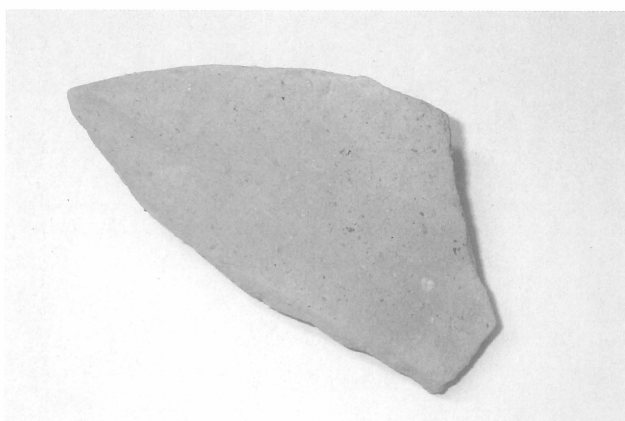
(1) Wトレ B4 下層 (第 16 図 22)



(2) Wトレ B4 (第 16 図 23)



(3) Wトレ B4 (第 16 図 24)



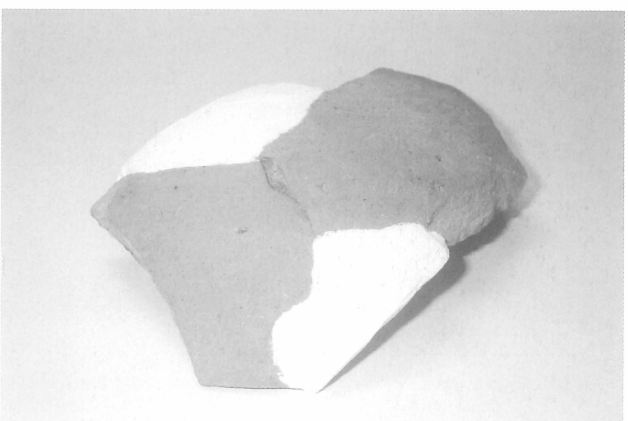
(4) B1 (第 16 図 25)



(5) B1 (第 16 図 26)



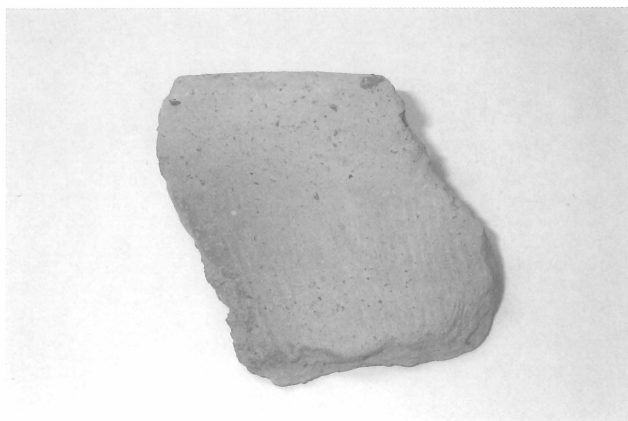
(6) B2 (第 16 図 27)



(7) B2 (第 16 図 28)



(8) B2 (第 16 図 29)



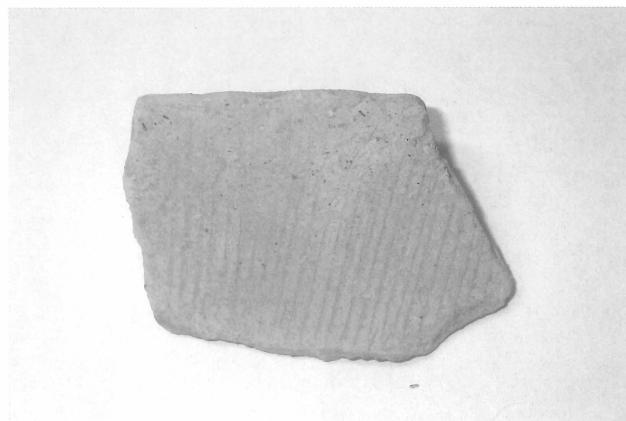
(1) B2 (第 16 図 30)



(2) B2 (第 16 図 31)



(3) B 黄層 (第 16 図 32)



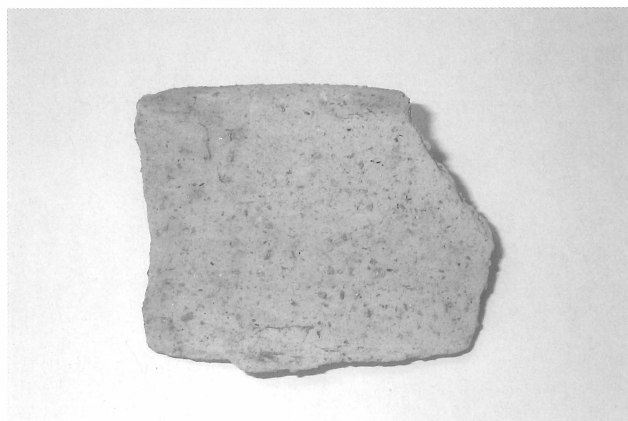
(4) B 黄層 (第 16 図 33)



(5) B 黄層 (第 16 図 34)



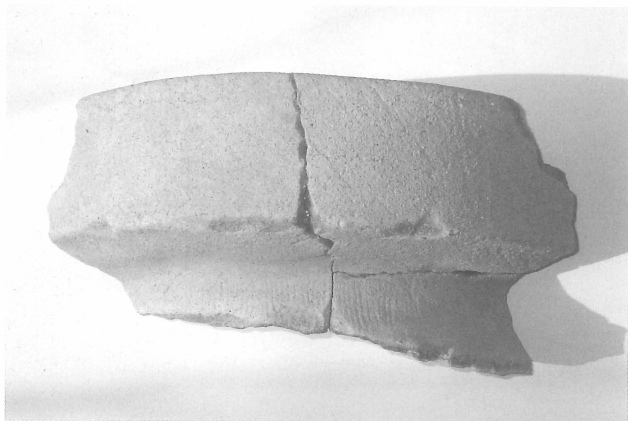
(6) B 黄層 (第 16 図 35)



(7) W トレ C1 (第 16 図 36)



(8) W トレ C1 (第 16 図 37)



(1) WトレC1 (第16図38)



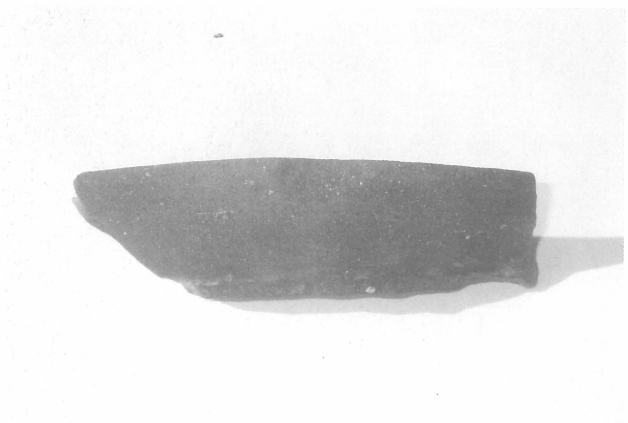
(2) WトレC1 (第16図39)



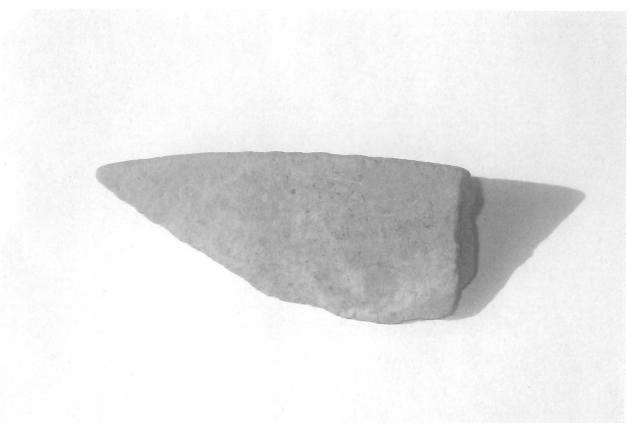
(3) WトレC1 (第16図40)



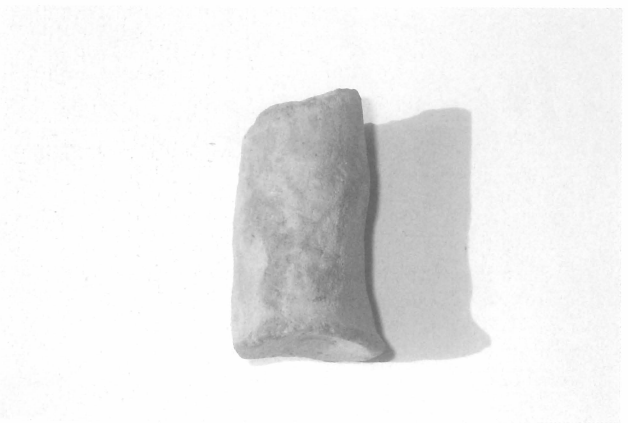
(4) WトレC1 (第16図41)



(5) WトレC1 (第16図42)



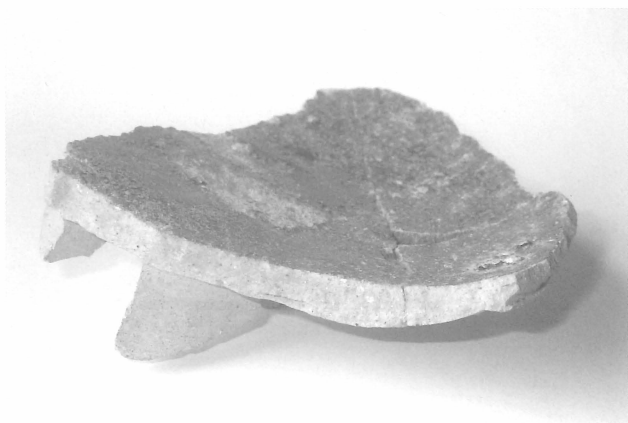
(6) WトレC1 (第16図43)



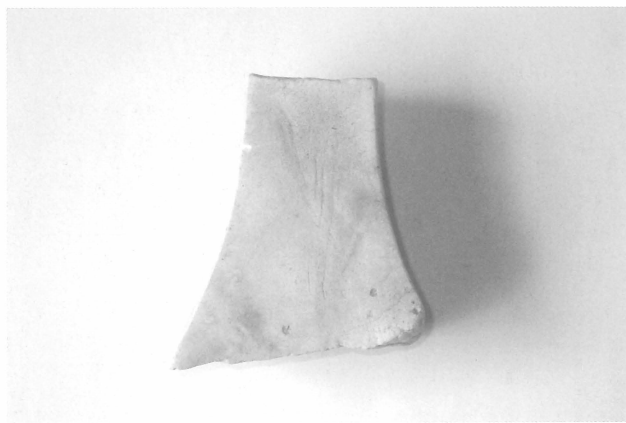
(7) WトレC1 (第16図44)



(8) WトレC1 (第16図45)



(1) トレンチ C1 (第 16 図 46)



(2) Wトレ C2 (第 16 図 47)



(3) Wトレ C2 (第 17 図 1)



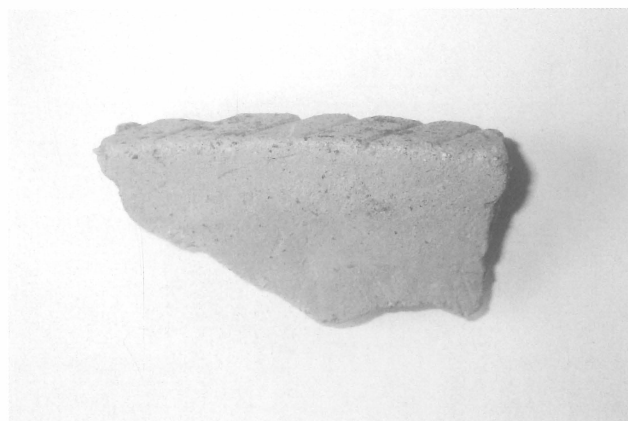
(4) Wトレ C2 (第 17 図 2)



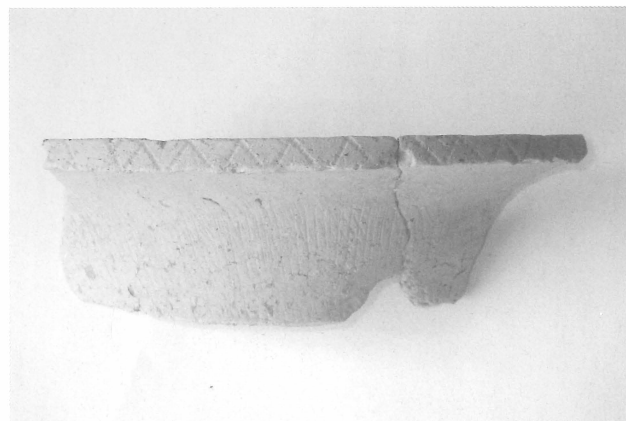
(5) Wトレ C2 (第 17 図 3)



(6) Wトレ C2 (第 17 図 4)



(7) Wトレ C2 (第 17 図 5)



(8) Wトレ C2 (第 17 図 6)



(1) WトレC2 (第17図7)



(2) EトレC3 (第17図8)



(3) EトレC3 (第17図9)



(4) EトレC3 (第17図10)



(5) EトレC3 (第17図11)



(6) EトレC3 (第17図12)



(7) EトレC3 (第17図13)



(8) 攪乱C3 (第17図14)



(1) WトレC4 (第17図15)



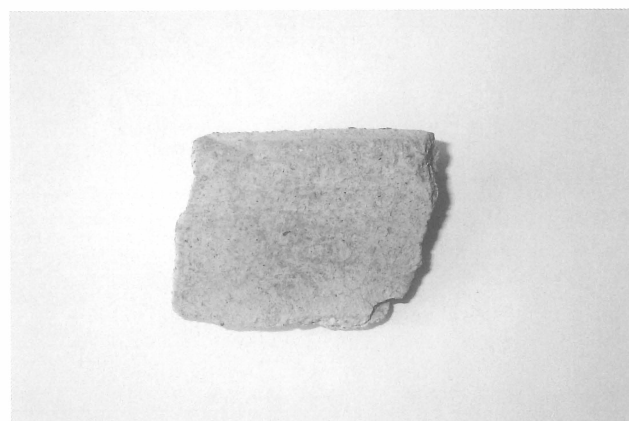
(2) WトレC4 (第17図16)



(3) WトレC4 (第17図17)



(4) WトレC4 (第17図18)



(5) C黄層 (第17図19)



(6) C黄層 (第17図20)



(7) C黄層 (第17図21)



(8) C黄層 (第17図22)



(1) C 黄層 (第 17 図 23)



(2) C 黄層 (第 17 図 24)



(3) C 黄層 (第 17 図 25)



(4) C 黄層 (第 17 図 26)



(5) C 黄層 (第 17 図 27)



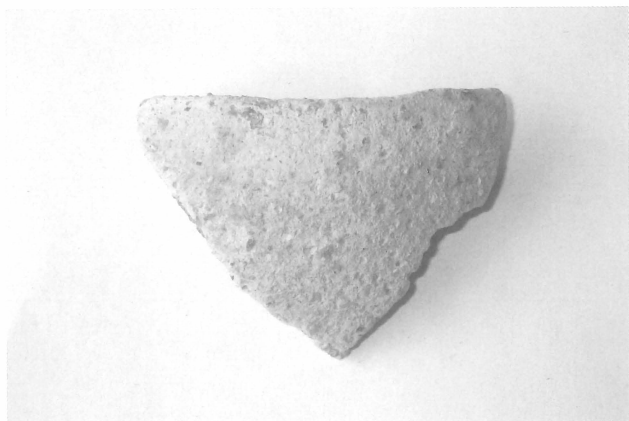
(6) C 黄層 (第 17 図 28)



(7) C 黄層 (第 17 図 29)



(8) C 黄層 (第 17 図 30)



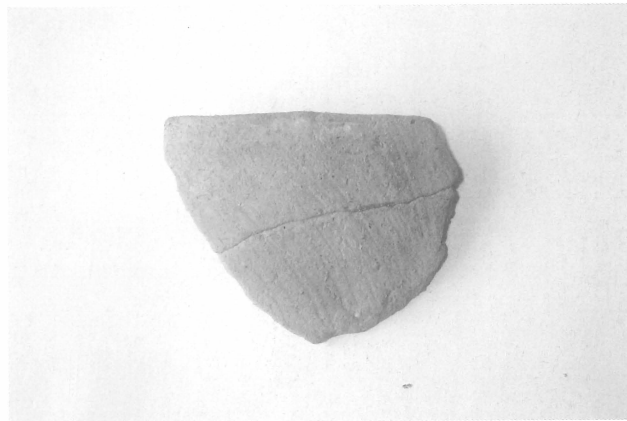
(1) C 黄層 (第 17 図 31)



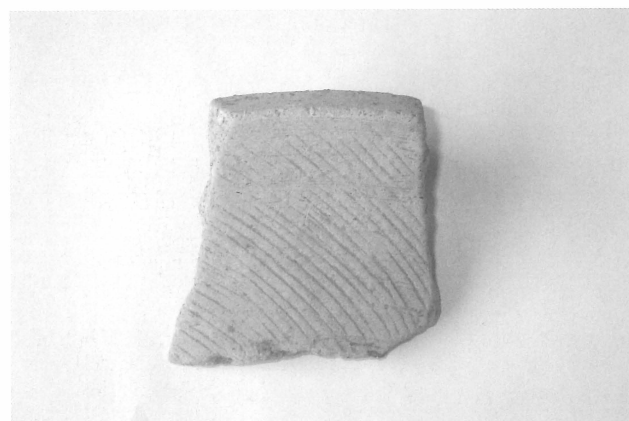
(2) C 黄層 (第 17 図 32)



(3) C 黄層 (第 17 図 33)



(4) C 黄層 (第 17 図 34)



(5) C 黄層 (第 17 図 35)



(6) C 黄層 (第 17 図 36)



(7) C 黄層 (第 17 図 37)



(8) C 黄層 (第 17 図 38)



(1) C 黄層 (第 17 図 39)



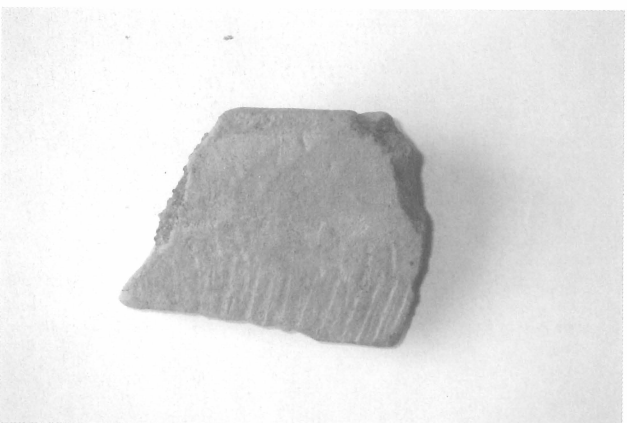
(2) C 黄層 (第 17 図 40)



(3) C 黄層 (第 17 図 41)



(4) C 砂層 (第 17 図 42)



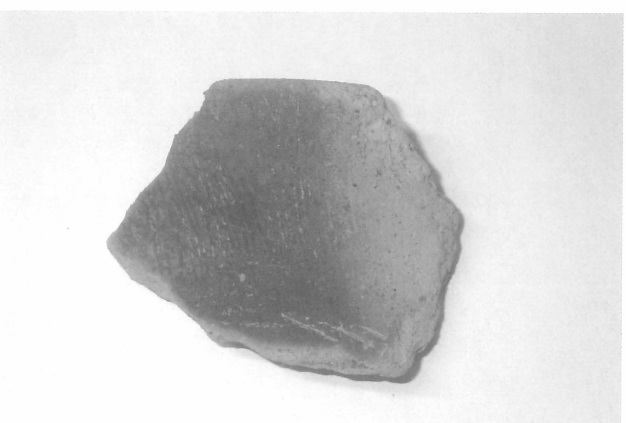
(5) C 砂層 (第 17 図 43)



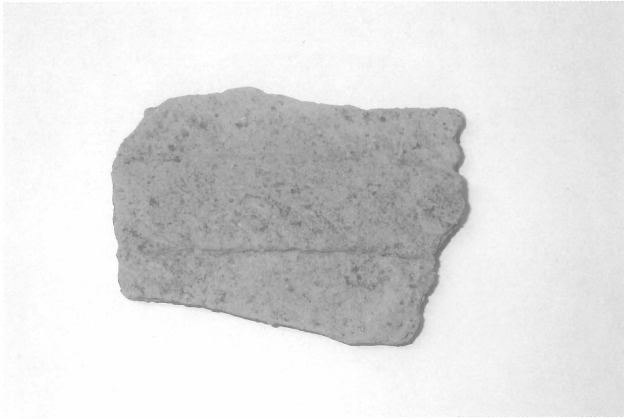
(6) C 砂層 (第 17 図 44)



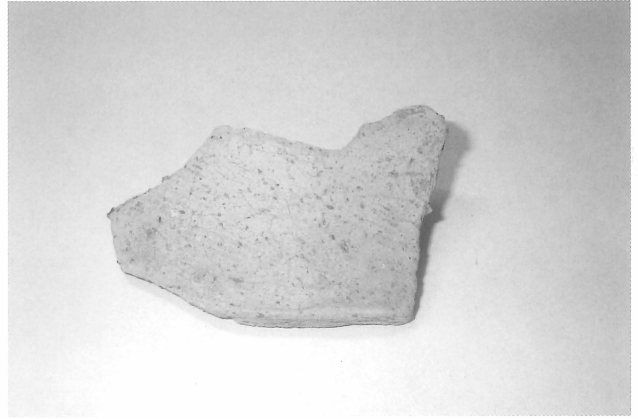
(7) W トレ D2 下層 (第 17 図 45)



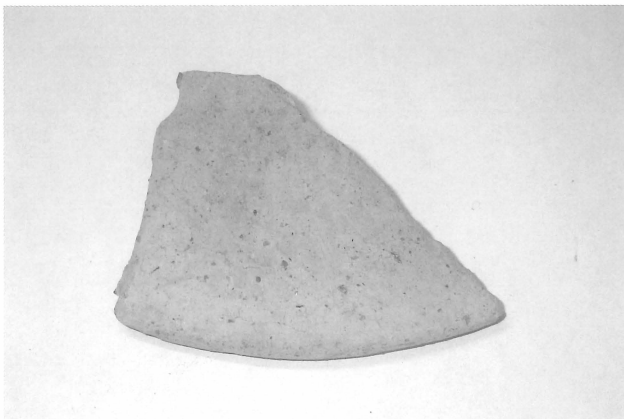
(8) W トレ D2 下層 (第 17 図 46)



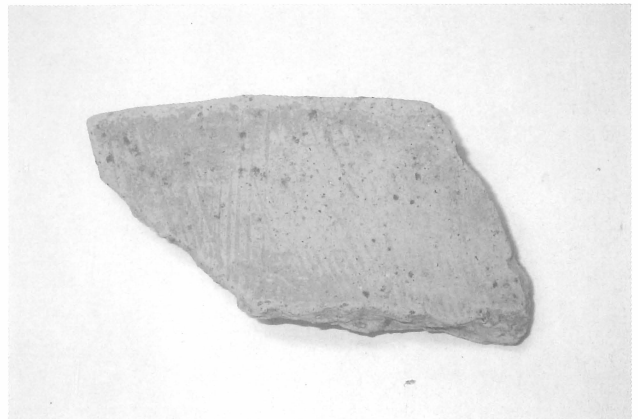
(1) Wトレ D2 下層 (第 17 図 47)



(2) Wトレ D2 下層 (第 17 図 48)



(3) Wトレ D2 下層 (第 17 図 49)



(4) Wトレ D2 (第 17 図 50)



(5) Wトレ D2 (第 17 図 51)



(6) Wトレ D2 (第 17 図 52)



(7) Wトレ D2 (第 17 図 53)



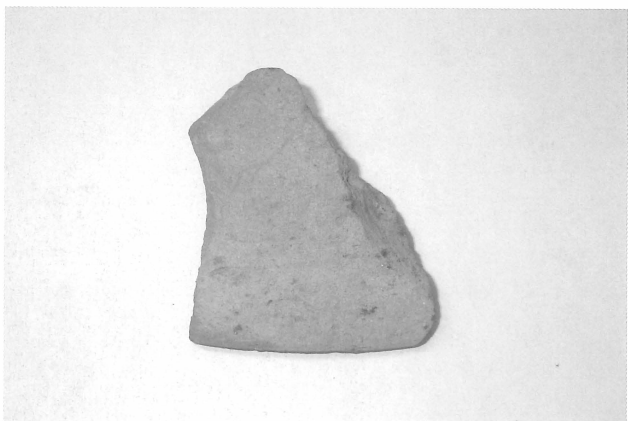
(8) Wトレ D2 (第 17 図 54)



(1) Wトレ D2 (第 17 図 55)



(2) Wトレ D2 (第 17 図 56)



(3) Wトレ D2 (第 17 図 57)



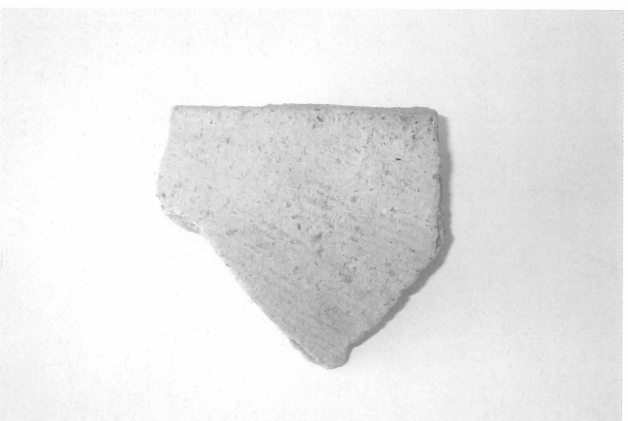
(4) トレンチ D2 黄層 (第 17 図 58)



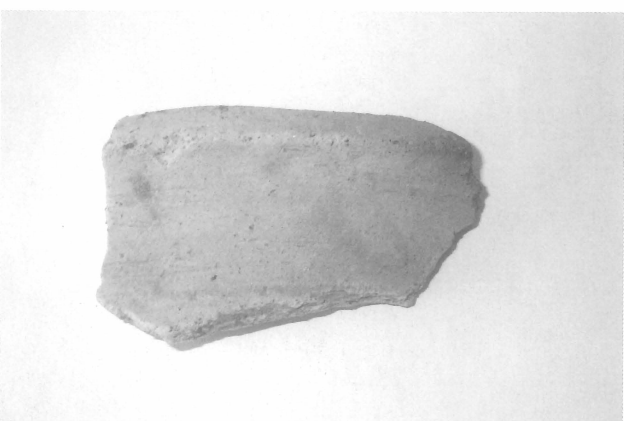
(5) トレンチ D2 黄層 (第 17 図 59)



(6) トレンチ D2 黄層 (第 17 図 60)



(7) トレンチ D2 黄層 (第 17 図 61)



(8) トレンチ D2 黄層 (第 17 図 62)



(1) トレンチ D3 (第 17 図 63)



(2) トレンチ D3 (第 17 図 64)



(3) Wトレ D4 (第 18 図 1)



(4) Wトレ D4 (第 18 図 2)



(5) Wトレ D4 (第 18 図 3)



(6) Wトレ D4 (第 18 図 4)



(7) Wトレ D4 (第 18 図 5)



(8) Wトレ D4 (第 18 図 6)



(1) Wトレ D4 (第 18 図 7)



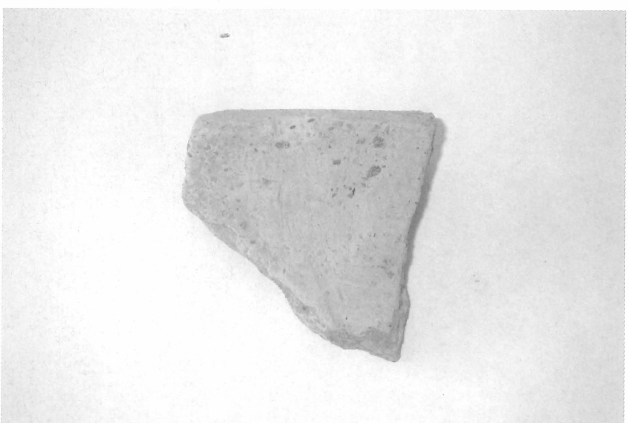
(2) Wトレ D4 (第 18 図 8)



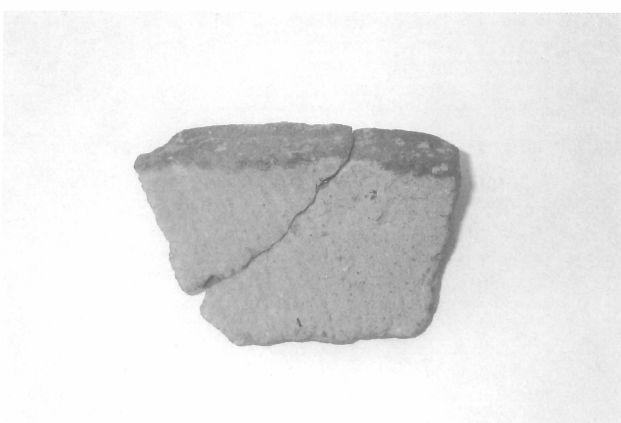
(3) Wトレ D4 (第 18 図 9)



(4) D2 黄層 (第 18 図 10)



(5) D2 黄層 (第 18 図 11)



(6) D2 黄層 (第 18 図 12)



(7) D2 黄層 (第 18 図 13)



(8) D2 黄層 (第 18 図 14)



(1) D2 黄層 (第 18 図 15)



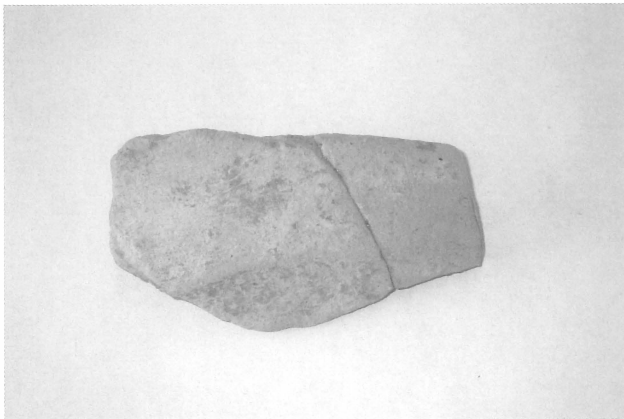
(2) D2 黄層 (第 18 図 16)



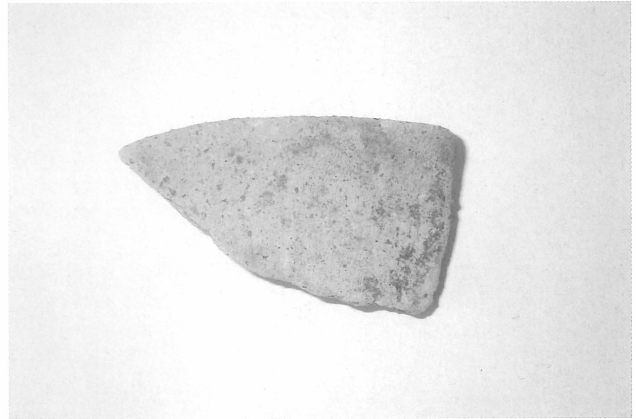
(3) D2 黄層 (第 18 図 17)



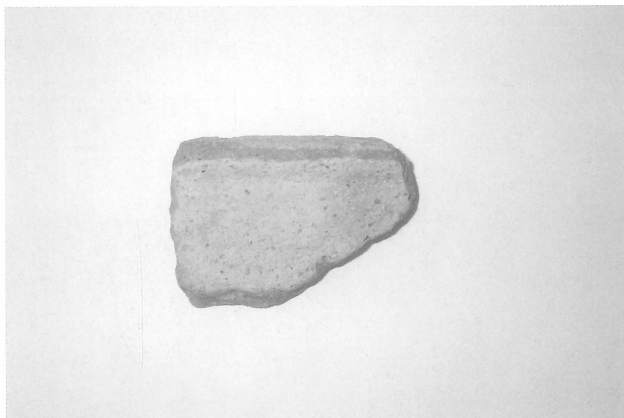
(4) D2 黄層 (第 18 図 18)



(5) D2 黄層 (第 18 図 19)



(6) D2 黄層 (第 18 図 20)



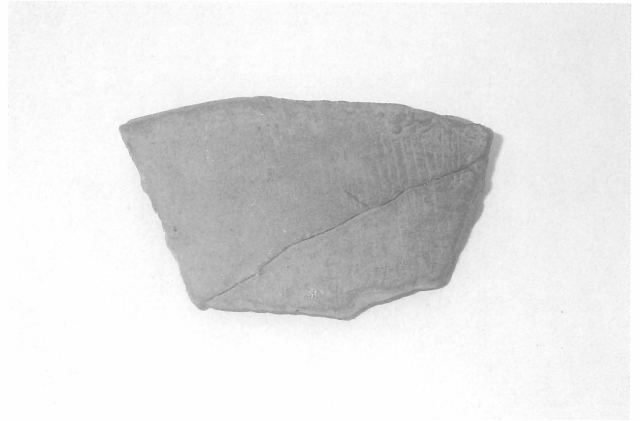
(7) D2 黄層 (第 18 図 21)



(8) D2 黄層 (第 18 図 22)



(1) D2 黄層 (第 18 図 23)



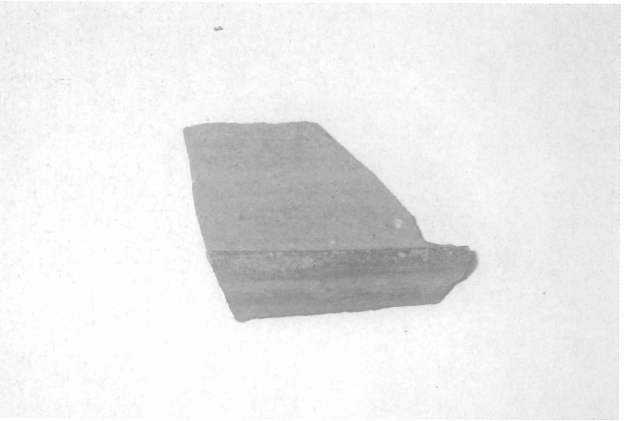
(2) D2 黄層 (第 18 図 24)



(3) D2 黄層 (第 18 図 25)



(4) D2 黄層 (第 18 図 26)



(5) D2 黄層 (第 18 図 27)



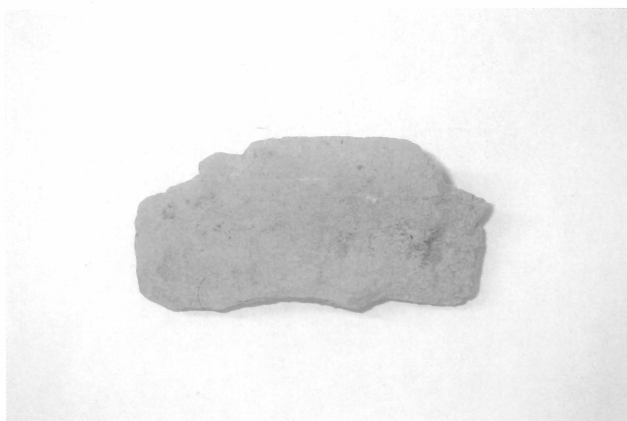
(6) D2 (第 18 図 28)



(7) D3 (第 18 図 29)



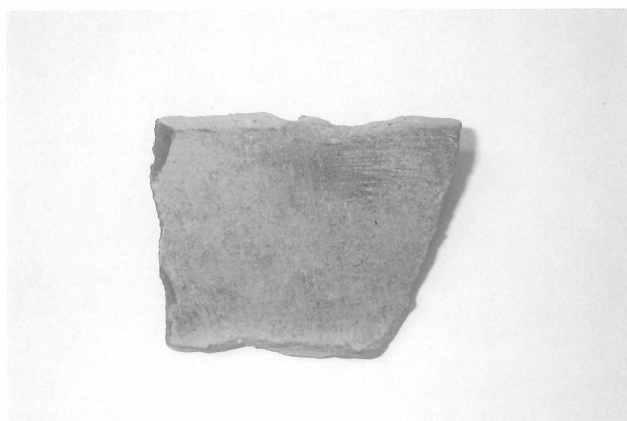
(8) D3 (第 18 図 30)



(1) E 黄層 (第 18 図 31)



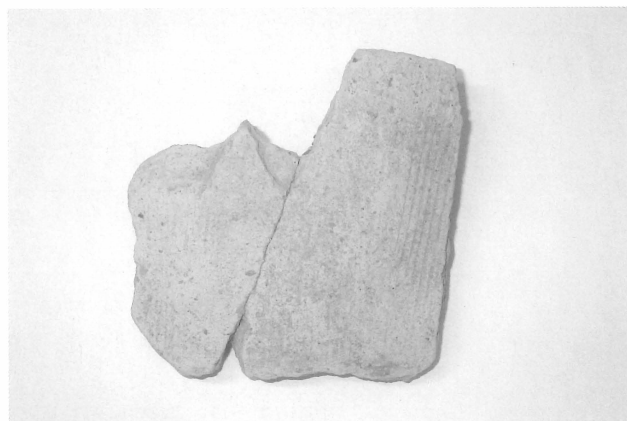
(2) E 黄層 (第 18 図 32)



(3) E 黄層 (第 18 図 33)



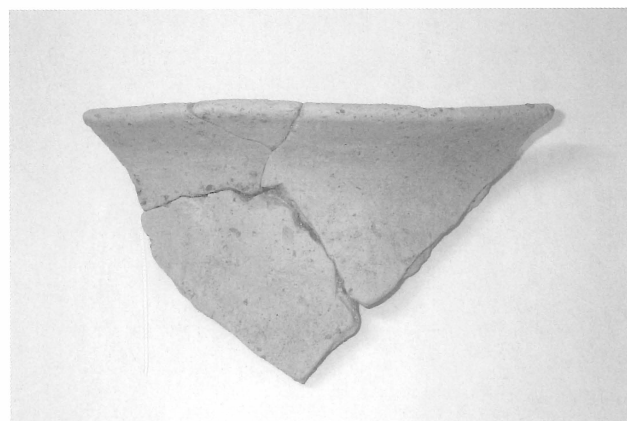
(4) E 黄層 (第 18 図 34)



(5) E 黄層 (第 18 図 35)



(6) E 黄層 (第 18 図 36)



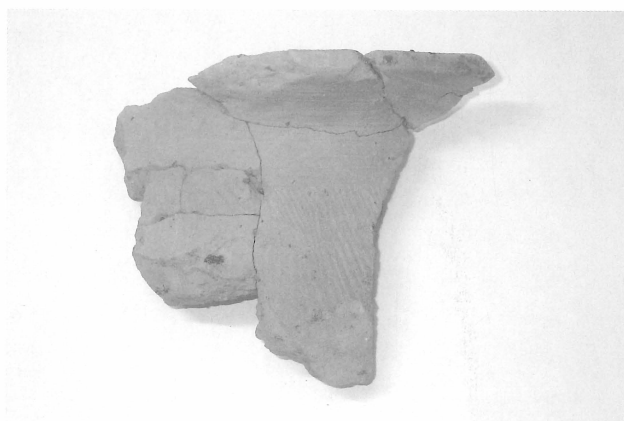
(7) E 黄層 (第 18 図 37)



(8) E 黄層 (第 18 図 38)



(1) E 黄層 (第 18 図 40)



(2) E 黄層 (第 18 図 41)



(3) E 黄層 (第 18 図 42)



(4) E 黄層 (第 18 図 43)



(5) E 黄層 (第 18 図 44)



(6) E 黄層 (第 18 図 45)



(7) E 黄層 (第 18 図 46)



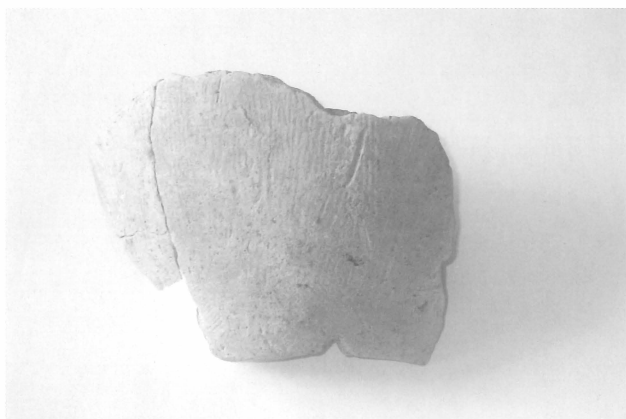
(8) E 黄層 (第 18 図 47)



(1) E 黄層 (第 18 図 48)



(2) E 黄層 (第 18 図 49)



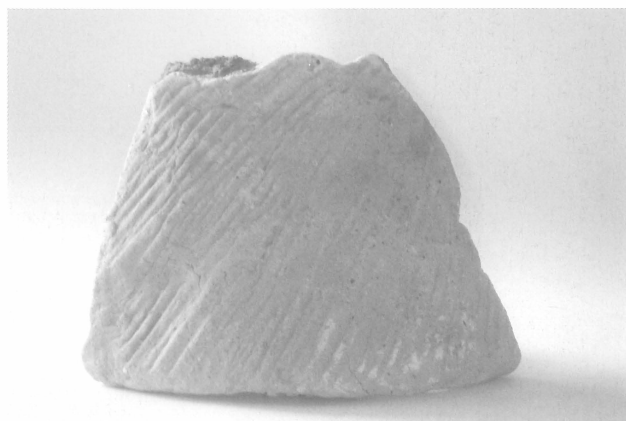
(3) E 黄層 (第 18 図 50)



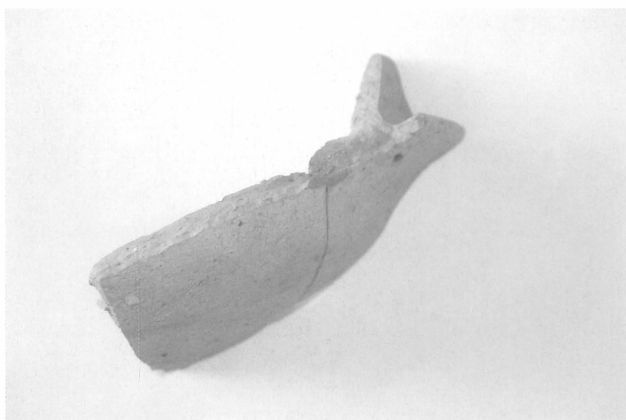
(4) E 黄層 (第 18 図 51)



(5) E 黄層 (第 18 図 52)



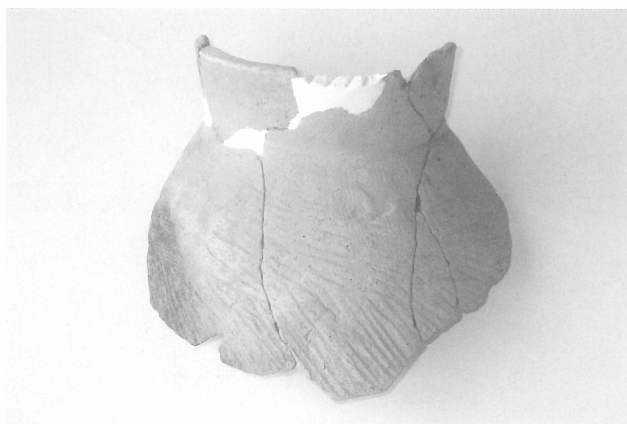
(6) E 黄層 (第 18 図 53)



(7) E 黄層 (第 18 図 54)



(8) トレンチ E (第 19 図 1)



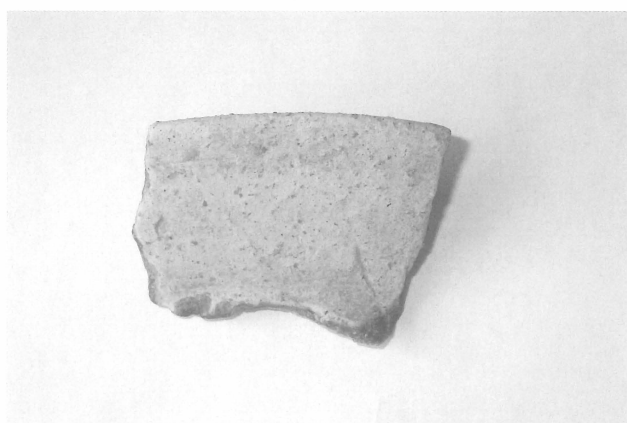
(1) トレンチ E (第 19 図 2)



(2) 攪乱 (第 19 図 3)



(3) 攪乱 (第 19 図 4)



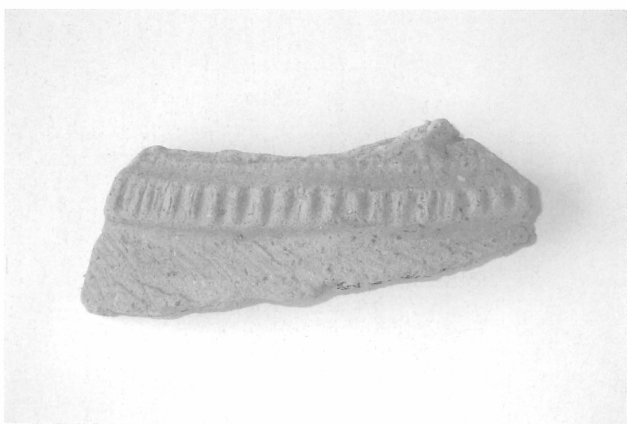
(4) 攪乱 (第 19 図 5)



(5) 攪乱 (第 19 図 6)



(6) 2区下層 (第 19 図 7)



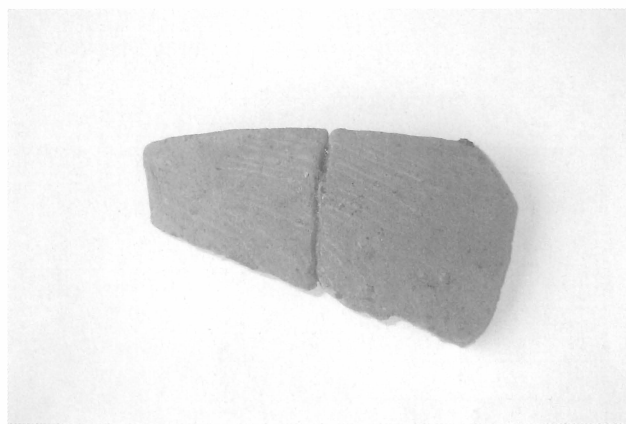
(7) 2区下層 (第 19 図 8)



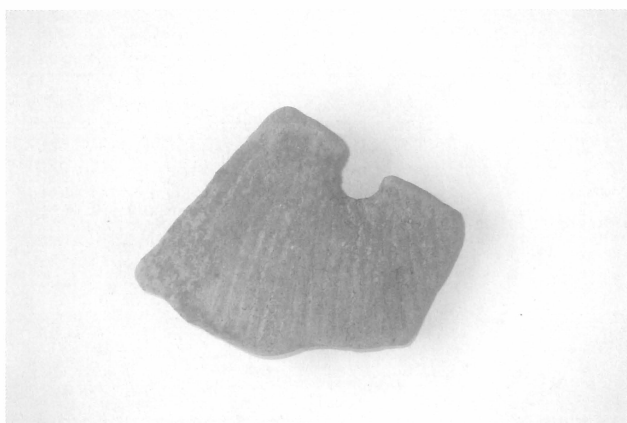
(8) 2区下層 (第 19 図 9)



(1) 2区下層 (第19図10)



(2) 2区下層 (第19図11)



(3) 2区下層 (第19図12)



(4) 2区下層 (第19図13)



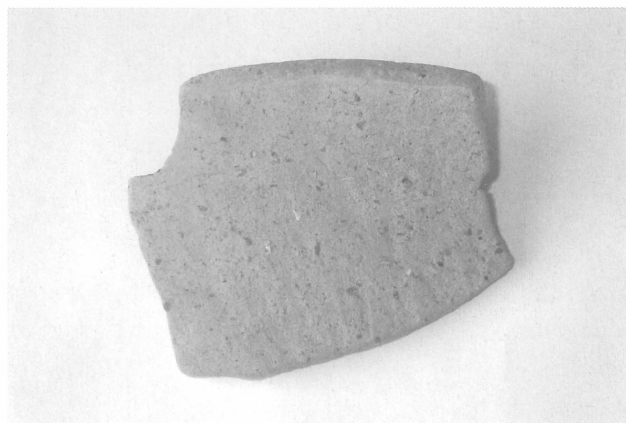
(5) 2区下層 (第19図14)



(6) 2区最下層 (第19図15)



(7) 2区最下層 (第19図16)



(8) 2区最下層 (第19図17)



(1) 2区最下層 (第19図18)



(2) 2区最下層 (第19図19)



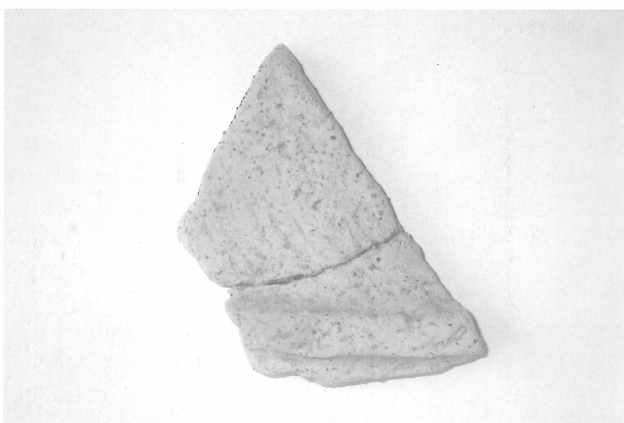
(3) 2区最下層 (第19図20)



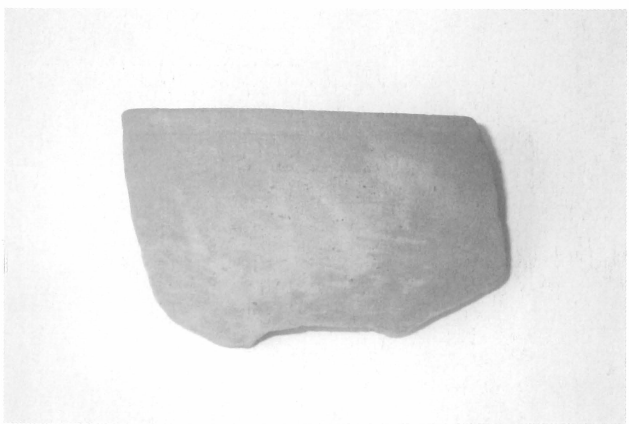
(4) 2区最下層 (第19図21)



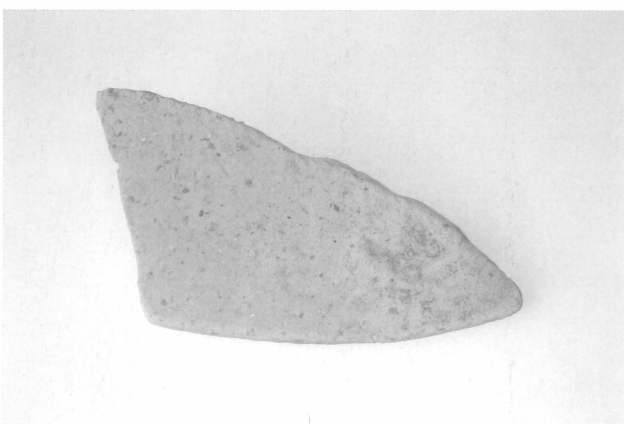
(5) 2区排土中 (第19図22)



(6) 2区排土中 (第19図23)



(7) 2区排土中 (第19図24)



(8) 2区排土中 (第19図25)

報 告 書 抄 録

ふりがな	きとういん・こいしわらいせき							
書名	祈祷院・小石原遺跡 1							
副書名	福岡県八女市本村所在遺跡の発掘調査報告書							
巻次								
シリーズ名	八女市文化財調査報告書							
シリーズ号	第 1 3 5 集							
編著者名	甲斐 郁（かい ふみ）							
編集機関	八女市教育委員会							
所在地	〒 834-8585 福岡県八女市本町 6 4 7 TEL. 0943-23-1982 FAX. 0943-24-4331							
発行年月日	西暦 2022（令和 4）年 3 月 31 日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
きとういん・こいしわらいせき 祈祷院・小石原遺跡 第1次調査1区 （祈祷院遺跡群）	ふくおかけんやめし 福岡県八女市 きとういんあざこいしわら 祈祷院字小石原	402109	403002	33° 12' 49”	130° 35' 7”	20191119 ～ 20200221	約 300 m ²	道路改良工事
きとういん・こいしわらいせき 祈祷院・小石原遺跡 第1次調査2区 （祈祷院遺跡群）	福岡県八女市 きとういんあざこいしわら 祈祷院字小石原	402109	403002	33° 12' 51”	130° 35' 6”	20200826 ～ 20200828	約 25 m ²	道路改良工事
所収遺跡	種 別	主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項
祈祷院・小石原遺跡 第1次調査 （祈祷院遺跡群）	集 落 跡	弥生時代 古墳時代		石棺墓 1 基 溝状遺構 4 条 土坑 4 基 ピット 79 基		弥生土器・土師器・須恵 器・陶磁器・石器		
要 約	県道久留米立花線の改良工事に伴い発掘調査を実施した、祈祷院・小石原遺跡に関する報告である。 祈祷院・小石原遺跡は矢部川と星野川が合流する地点の北西に位置する。調査地は1・2区に分かれ、1区では石棺墓、溝跡、土坑、ピットを発見し、2区では自然流路とピットを発見した。調査区の表土下層の下位に堆積する砂層からは器表面が摩滅する土器片が多数出土しており、過去に繰り返し洪水が発生していた証左である。この洪水堆積の下位からも遺構が発見されることから、調査地では洪水被害が繰り返し発生しながらも、墓域や集落域が形成されたことが伺える。							

※座標は世界測地系による。国土地理院ホームページの地図検索システムより得たものであり、基準点測量によって得た値ではない。

祈祷院・小石原遺跡 1

八女市文化財調査報告書

第135集

令和4年3月31日

発行 八女市教育委員会
八女市本町647
印刷 (株) 東兄弟
八女市祈祷院563